Vol.75通巻864号　平成6年3月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月9日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会
Architecture and Society

3 1994

特集

伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈



日本建築協会

花屋敷ゴルフ倶楽部よかわコースクラブハウス作品協賛

未来に翔く——Titanium Architecture

チタン発色屋根



花屋敷ゴルフ倶楽部よかわコースクラブハウス
設計監理■秋田照成建築事務所　施工■新井組
屋根施工■三晃金属工業

新日本製鐵株式會社

本社チタン部　〒100-71　東京都千代田区大手町2-6-3新日鐵ビル
Tel（03）3275-7986
大阪支店チタン室　〒530　大阪市北区中之島3-2-4朝日新聞ビル
Tel（06）223-6311

三晃金属工業株式会社

本　社　〒104　東京都中央区京橋2-9-2第1ぬり彦ビル
Tel（03）3567-3551
大阪支店　〒540　大阪市中央区北浜4-1-21住友生命淀屋橋ビル
Tel（06）231-8571

会告

監事並びに本部所属評議員の当選

平成６年２月23日開催の通常総会において、監事並びに本部所属評議員の選挙を行いました結果、下記の方々が当選されました。

●監事（１名）

尾亀清四郎君（三晃空調）

●本部所属評議員（23名）

下笠　晃右君（大阪市都市整備局）
下村　健治君（修成建設専門学校）
山尾　弘子君（インタープラン）
秋葉　善美君（近畿地方建設局）
谷口　一郎君（ミサワホーム）
中川　　徹君（清水建設）
*甫出　裕紀君（大阪府住宅管理センター）
大塚日出夫君（浅沼組）
上出　秀雄君（藤木工務店）
楠　　正世君（戸田建設）
柴田　邦彦君（間組）
高橋　保夫君（錢高組）
三木　敏男君（奥村組）
飛岡　宏佳君（安藤建設）
*有田　裕光君（鉄建建設）
森本　晴夫君（三和建設）
西本　良彦君（西本組）
今村　　騰君（中央電気工業）
浅海　伸之君（浅海電気）
田崎　至成君（日比谷総合設備）
清水義一郎君（清水工業所）
江藤　正昭君（万年スレート）
小西信一郎君（コニシ）

※印は補選

名誉正会員４名が推挙される

同じく上記通常総会において、次の方々が名誉正会員に推挙されました。本会に対する永年のご支援・ご協力に対し深く感謝申し上げますとともに、ますますのご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

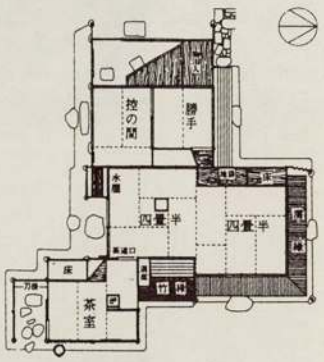
●新名誉正会員

岡野　武司氏　　佐々木　保氏
寺田　徳重氏　　山崎和三郎氏

茶室見学会（第２回）仁和寺の遼廓亭と飛濤亭

日　時　1994年 **4** 月 **23** 日(土)
　　14：00～16：00
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
講　師　中村昌生／京都工芸繊維大学名誉教授
集　合　仁和寺通用門入口
　　京都市右京区御室大内33
　　＊京福「御室」駅より徒歩３分
参加費　会員2,500円、一般3,500円
　　＊含、特別拝観料1,400円
申　込　４月15日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（茶室見学会）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証郵送先
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を４月18日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第３ビル21階
　　FAX348-0634　TEL348-0633





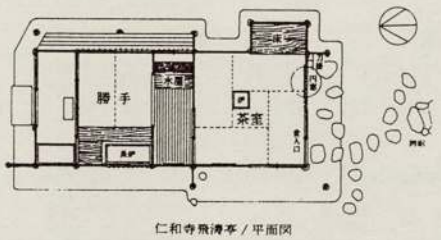
仁和寺遼廓亭／平面図

仁和寺本坊の奥庭に、遼廓亭と飛濤亭と呼ぶ二棟の茶亭がある。

遼廓亭は寺で建てられたものではなく、門前の竪町にあった尾形光琳の御室の別荘にあった建物を移築したのである。光琳のあと桑原空洞、何似某が住んでいた。何似が住んでいた頃の古図によると、現存する亭は、この屋敷の主屋であった。それは遣り違いに配した四畳半二室に縁を廻し、茶室が付加されている。全体は柿葺の緩い屋根が蔽い、その形は優美である。茶室は建仁寺正伝院にあった如庵（織田有楽作）の写しである。光琳も如庵の斬新さに魅せられていたようである。

宸殿から林泉を隔てて小高い地点に飛濤亭が建つ。茅葺の田舎家風の鄙びた外観である。光格天皇遺愛の茶室であるという。茶室の向こうには五重塔の聳えているのが望まれる。茶室は四畳半、しかし利休流の侘の空間とは大いに趣を異にする。床は踏込式の洞床、上り口は二枚障子の貴人口、それと矩折りに二枚障子の口を開き、頗る開放的な構成である。草庵風な表現の中に雅な意匠が添えられ、貴族らしい遊び心が溢れている。　（中村昌生）





仁和寺飛濤亭／平面図

中村　昌生（なかむら　まさお）
1927年生まれ。多年勤務した京都工芸繊維大学工芸学部建築学科を1991年に定年退官し、同大学名誉教授となる。現在、福井工業大学教授、㈶京都伝統建築技術協会理事長等を務め、茶室・数寄屋の研究と創作、ならびに伝統建築技術の継承に専念しておられる。
主な著書は「茶室の研究」「茶匠と建築」「数寄屋建築集成」「数寄屋邸宅集成」「数寄屋古典集成」ほか多数。また作品集に「茶苑の意匠」「現代の数寄屋」がある。

コスモタワー
（大阪ワールドトレードセンター）
建設工事見学会

日　時　1994年 4 月26日(火)
　　13：30～16：30
講　師　江副敏史／日建設計設計主管
　　岡崎政弘／日建設計監理主管
　　梅原弘記／施工JV工務長
定　員　50人
　　＊申込者多数の場合は抽選



集　合　現地
　　大阪市住之江区南港北1-11-1
　　＊ニュートラム「中ふ頭」駅
　　下車徒歩約5分
参加費　会員1,000円、一般1,500円
申　込　4月18日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（コスモタワー見学会）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証郵送先
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を4月19日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX348-0634　TEL348-0633

●建築概要
所在地　大阪市住之江区南港北1-11-1
設　計　日建設計・マンシーニ・ダフィJV
監　理　日建設計
施　工　大林・鹿島・三井・鴻池・錢高・東急・奥村・西松・五洋・日本国土・ターナーJV
敷地面積　20,000㎡
建築面積　11,000㎡
延床面積　150,000㎡
構造規模　S、SRC、B3、55F
最高高さ　252m
工　期　1991年2月～1994年12月(予定)

大阪ベイエリア開発の中心的、先導的役割を担うのが、大阪南港160haのエリアをもつコスモスクエアである。ここには既にインテックス大阪、ミズノ本社ビル、ライカ本社ビルなどが完成しており、今年はアジア太平洋トレードセンター(ATC)が4月に、ホテルハイアットリージェンシーが6月にオープンする予定である。その新都心コスモスクエアの中核となるのが、西日本一の高さ約252m、地上55階の大阪ワールドトレードセンタービルディング（愛称コスモタワー）である。
コスモタワーは、世界の200都市とWTCネットワークで結ばれる世界貿易センター(本部ニューヨーク)の拠点ビルとして、国際化を目指す大阪の新しい象徴となる。
外観は、空と、その空を青く映し出した反射ガラスのカーテンウォールの中で、構造体が白く強調され垂直性を力強く表現している。また頂部の逆四角錐にオーバーハングされている展望フロアのシルエットがスカイラインを特徴づけている。
外装のカーテンウォールは、梁部を除いて床から天井までを透過性のある二重ガラスで構成されている。昼はオフィスゾーンに明るい自然光を取り込むのに対して、夜は光のタワーとして表現される。
また低層部にある、ガラスシャフトに24台のEVが舞い降りる20m吹抜のエントランスロビーや、様々なイベントに対応できる約3000㎡のアトリウム空間が、ビルを印象づけている。(江副敏史)

鴻池藤一 本会副会長 逝去

3月9日午後7時9分、心不全のため、京都大学付属病院で逝去された。享年82歳。
通夜は12日、密葬は13日に、大阪市東住吉区長居公園内、臨南寺会館でいとなまれた。

●略歴
昭和12年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
同12年　㈱鴻池組入社
同19年　同社　代表取締役社長
同60年　同社　代表取締役会長
●役員就任中の主たる会社
鴻池運輸㈱　代表取締役会長歴任後、顧問
鳳工業㈱、鳳不動産㈱、鴻池建設㈱、鳳興産㈱　各々　代表取締役会長
大阪合同通運㈱　取締役会長歴任後、取締役相談役
大阪港振興㈱、西日本建設業保証㈱、㈱大阪建設会館　各々　取締役
●役員就任中の主たる団体
㈳大阪建設業協会　会長(通算10年)歴任後、理事
㈳全国建設業協会　会長(通算10年)歴任後、相談役
大阪商工会議所　常議員
関西経営者協会　常任理事
㈳大阪工業会　会長（通算4年6カ月）歴任後、特別顧問
㈳関西経済連合会　常任理事
㈶建設業振興基金　会長
㈶建設産業教育センター　会長
●㈳日本建築協会歴
昭和22年～平成3年　理事（通算45年）
昭和30年～35年　副会長（通算11年）
平成元年～6年3月　同上
●受賞
平成2年　勲二等旭日重光章
昭和57年　勲二等瑞宝章
昭和56年　内閣総理大臣表彰　ほか多数

今月の表紙
梅田スカイビル
写真 東出清彦
表紙デザイン ㈱アクロス

■特集予告
4月号／建築のエネルギーシステム
5月号／(仮称)会員作品
6月号／いま、医療施設は

会長 佐野正一
副会長 金ヲ 潔・薬袋公明
市川 宏・三品哲夫

編集委員会（平成5年度）

■編集理事
◎荒井 清
井上 豊
金井 弘次
小島 雄
須賀 好富
竹中 練一
深江 實
松村 慶三
溝神宏至朗
若山 繁

■編集顧問
東 孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊鍵 憲幸
梅村 宏尚
小浦 久子
鈴木 克彦
田中 直人
林 輝行
松川 敏正
山尾 弘子
横関 真紀
※吉村 英祐
☆建築計画系
※石山 道男
礒村千恵子
上杉 秀隆
江副 敏史
菅野 忠司
清本 明宏
笹村 欽也
佐藤不二男
塚本 史朗
刃金 国男
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石川 佳子
大橋眞由美
加藤 力
角方 利幸
北浦かほる
工藤 昌之
小梶 吉隆
小島 保人
高橋 文吾
※中村 孝之
畑 康之
福田 由利
増田 邦子

★構造分科会
和泉 一義
岡本 達雄
亀井 功
黒木 安男
竹野 富夫
多田 元英
築谷 朋也
※二宮 利治
西 邦弘
西村 泰志
資輪 幸男

★設備分科会
石沢 重治
遠藤 進
大田 克彦
※梶井 宏修
河津 隆之
伊達 正雄
田ノ畑好幸
村上幸三郎

★施工材料分科会
有光 利治
植田 実
小椎八重猛
※志水 史典
野口 和宏
村上 信直

★法令分科会
※生駒 芳明
乾 康雄
入江田吉仁
樫田 攻
加藤 輝男
廣田 美清

■作品作風小委員会
遠藤 公介
小笠原絵理
尾崎 久純
岡本 隆
川上比奈子
倉澤奈千子
桜井 俊郎
田中 均一
富田 昌義
藤城 義丈
前川 治彦
前田 幸宏
◎松田 善弘
松村 衛
水川 尚彦
宮地雄一郎

■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
稲木 裕子
茨木 保
樽谷 浩史
小板橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野 洋
坂田 耕一
高田 光雄
○高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
松石 千秋
山寄 章子

■広告企画小委員会
池渕 俊男
上井 善一
尾崎 英直
○勝 一弘
衣川 徳好
原田 常介
菱田信八郎
藤田 孝吉
山下 修司

◎委員長 ○副委員長 ※幹事

印刷 平成6年3月20日
発行 平成6年3月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 青葉印刷株式会社
電 06－351－5428㈹
サン総合印刷株式会社
電 06－454－1481㈹
日本電植株式会社
電 06－352－7502
定価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

建築と社会

1994 3 1917年創刊 第75集／通巻864号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

特集● 伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈

［作品］
愛知県白壁庁舎/沼津市立図書館/豊明市文化会館/文化センターサンアート 30
特別養護老人ホーム扶桑苑・扶桑町デイサービスセンター
国際環境技術移転研究センター/中部電力千代田ビル/名古屋センタービル別館
三重セキスイハイム本社ビル/マルカン酢伏見ビル/メイテック厚木テクノセンター
ニッタビル/アレックス/聖徳寺支坊聖徳寺
中京ゴルフ倶楽部 石野コース クラブハウス/つくでカントリークラブハウス
稲武カントリークラブハウス/豊田中研福利厚生センター
豊田自動織機製作所シャインズ荘川/フォレスタヒルズ
富士電機三重営業所独身寮「ブルーアーク」

［Tokai Sketch Book］ 東海の新建築5点 76

［遷宮］
伊勢と遷宮 ● 宇津野金彦 78
式年造替と桧 ● 飯田喜四郎 80
神宮の御正殿と日本社会の理念 ● ローズマリー・ベルナール 82
遷宮諸祭と聖化される御正殿 ● ローズマリー・ベルナール 83
御遷宮と神領民 ● 井上静和 84
建築家のみた遷宮 ● 桝林宏二 86

［神宮界隈］
□おかげ横丁
おかげ横丁の企画意図 ● 伊勢福 88
“古さを創造”した新しい町づくり ● 中村浩裕 90
□式年遷宮記念神宮美術館
遷宮の歴史と共に咲きつづける美の精華 ● 河原光江 92
式年遷宮記念神宮美術館の設計について ● 種村 強 94
□斎宮歴史博物館
斎宮歴史博物館の建設について ● 榊 靖雄 96
斎宮歴史博物館の建築計画 ● 前田佐智男 98
□建築家の見聞記
伊勢おはらい町の遊び心 ● 井上昭彦 100
式年遷宮記念神宮美術館 ● 福田泰造 102
斎宮歴史博物館を見学して ● 仙田 篤 103

［インタビュー］
□遷宮の建築技術を支える人々
「心」が第一 小工棟梁 ● 岡田浩次 104
「やり甲斐」のある仕事 萱工 ● 山本 剛 105
本物をつくって継承 錺職 ● 森本安之助 106

会告
監事並びに本部所属評議員の当選 1
名誉正会員4名が推挙される
茶室見学会（第2回）仁和寺の遼廓亭と飛濤亭
コスモタワー（大阪ワールドトレードセンター）建設工事見学会
鴻池藤一本会副会長逝去

作品作風
新大阪和幸ビル 4
レイク津々山台社宅
K.A.I.ビル
コットンニッセイビル
花屋敷ゴルフ倶楽部よかわコースクラブハウス

Gallery 記憶のすまい ● 八木敏明 14

ART PROCESS 甲斐良夫（彫刻家）・斉藤 均（彫刻家） 16

Sketch Book 最近竣工した新建築作品10点 18

W 都市の風景—都会の空き地（後悔空地） 20

法令コーナー
「建築現場における鉄骨工場名の表示について」 22
「鉄骨造建築物等の品質適正化について」の運用取り扱い ● 山本博文
「1階が鉄骨造又は鉄筋コンクリート造で2階及び3階が木造である建築物」の運用取り扱い ● 山本博文 24

GBRCニュース 第71回ICBO年次総会及び米国建築行政調査に参加して 25

新建材紹介コーナー 立上がりの防水層保護・化粧ボード仕上げ ● 松本 章 27

建築の眼
建築家の機能の変化 ● 河邊 聡 28
ツーバイフォー工法に期待 ● 笹川敏昌
ナビゲーションシステム ● 山下 勝
見えない力への抵抗 ● 藤崎安弘

構造の頁 高力ワンサイドボルト ● 村山 稔 107

設備の頁 炎感知器 ● 澤 宏 108

Information
掌の中の宇宙「さわってみよう展」．松村芳治写真展 109
工高生デザインコンクール入選作品を大阪府立体育会館で展示．
ロダンの常設館「Rodin Wing」静岡に開館
第4回BUFF国際建築デザインコンペの課題は『東京お祭り空間』
日本マンション学会第3回大阪大会に一般参加を！
ハウジングアンドコミュニティ財団の助成対象者決定
「シティ・コミュニティ」記念セミナー．階段物語り展

出版委員会Report 会議ははずむ—梅田スカイビルにて— ● 山田 修 111

月報 平成6年1月分 112


新大阪和幸ビル

作品風作

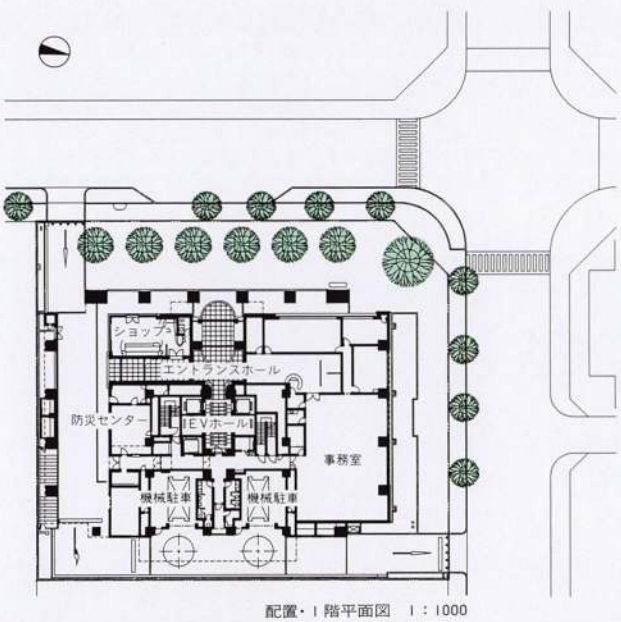
設計監理 ■
日建設計

施工 ■
鹿島

新大阪和幸ビル

松下不動産にとって、初めての本格的事務所ビルである。敷地は地下鉄御堂筋線新大阪駅と東三国駅のほぼ中間、新御堂筋西方約300mに位置し、北側道路をはさんで「北中島公園」に面している。
設計に際しては、総合設計制度の活用により土地の高度利用をはかるとともに、「北中島公園」と連続する緑豊かな歩行者空間を演出し、快適な街並みの形成を目指した。
外装は花崗岩貼りの基壇、せっ器質タイル打込PCa版竪連窓のカーテンウォール、台形の頂部、の三層構成とし、新御堂筋・新大阪駅からのスカイラインに配慮した品位ある外観を目指している。
竪連窓の基準階窓部には、今回あらたに開発した超薄型スルーザウォールエアコンを組み込み、きめ細やかな空間を実現するとともに、全階OAフロアの採用、将来の空調負荷対応のための屋外機用バルコニーを設置するなど、将来のフレキシビリティに配慮した快適なオフィス空間の実現をはかっている。

(川島克也／日建設計)



配置・1階平面図　1：1000

所 在 地 ——— 大阪市淀川区宮原4丁目
敷地面積 ——— 2,569.32㎡
建築面積 ——— 1,484.70㎡
延床面積 ——— 18,725.11㎡
構造規模 ——— SRC、一部S、RC、B1F、13F、P1
工　　期 ——— 1991年11月～1993年10月
最 寄 駅 ——— JR、地下鉄新大阪駅
撮　　影 ——— 東出清彦



▲全景



▲エントランスホール

▼エントランスアプローチ



北面近景外観

南面全景



作品
作風

設計■
東急建設大阪支店一級建築士事務所

監理■
住宅・都市整備公団関西支社

施工■
東急建設大阪支店

レイク津々山台社宅

南河内の中心に位置する富田林市は、古代の文明発祥の地であり交通の要衝を占めている。昔からの寺内町に代表される様に、商人の町として栄え、大阪の中心地から30分圏の利便な地域である。
計画地は、旧市街から見上げる新興住宅街の高台に有り、前面道路との差は3層分ある。敷地の高低差を処理する為に建物を3棟に分割し、住棟の間から見える風景と、異なるレベルからのアプローチによる表情の変化を持たせている。また、建物の空間作りの中で富田林市の持つ歴史性を意識し、金剛連山の山並みを背景に周辺にとけ込み易いフォルムと色合いから構成される。
外観の妻面と屋根は2種類のラスタータイルを貼り分ける事により、時刻の経過とともに建物の表情が変化し、緑と太陽に恵まれた豊かな自然と彫りの深い陰影とが、ゆったりとハーモニーを奏でる。ゆとりある共用部と、独立性の高い住戸空間が住む人に落ち着きを与え、四季の変化を味わえる事を願っている。

(杢　千秋／東急建設大阪支店設計部)



3階平面図　1：800

所 在 地――大阪府富田林市津々山台4丁目31
敷地面積――6,595.94㎡
建築面積――1,865.34㎡
延床面積――6,226.89㎡
構造規模――RC、6F
工　　期――平成4年6月～平成5年11月
最 寄 駅――近鉄長野線川西駅
撮　　影――伸和


2階へのアプローチ階段


1階エントランスホール(内部)


1階エントランスホール(外部)



外観全景

作品風

設計監理■
彦谷建築設計事務所・三井建設一級建築士事務所
施　　工■
三井建設東京建築支店

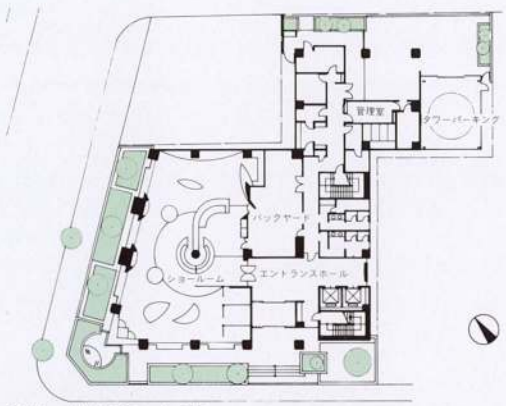
K.A.I.ビル

東京の下町的雰囲気も残る神田川に程近い一角に、三社（貝印、佐藤徹、三井建設）共同によるオフィスビルとして計画された。周辺は前面道路も幾分狭く、新旧の中小ビルが複雑な街並を形成している。設計のねらいとしては、不整形な敷地形状の有効活用とより優れたインテリジェントビルとしての機能性・経済性を考慮すると共に、周辺の都市景観の向上に寄与し、更に地域の活性化につながる事を主眼においた。

構造的には、建物総重量の軽減性を図り、純鉄骨造の外壁乾式工法を採用した。外装については、今後の主流になるであろう自然石ユニットCW工法を選択し、自然排煙用アルミパネルを含めたディテール・機能性等を確認するために大型試験を行い、主要部分の外観意匠を含め、施主共々工事初期に充分なる検討ができた。仕上材は、北・西面は花崗石JP（一部本磨き）、高性能熱線反射硝子、バックマリオン型アルミCW、東面は磁器タイル打込軽量PC版とし、周辺の雑多な色調に反し、グレーを基調としたモノトーンの大人しい仕上りに努めることで、シンプルさの中にも端正なファサードが表現できた。

足元廻りの空地には、極力植栽を施し、更にコーナー部には、モニュメント（SKY・常松大純　作）を配置することで、街灯の夜間照明・ライトアップと相俟って歩道の通行者に安心感を与え、街路のアメニティの向上が図れた。

（八木一雄・八木一夫／彦谷建築設計事務所）



配置・1階平面図　1：800

所 在 地 ——— 東京都千代田区岩本町3-9-5
敷地面積 ——— 1,127.38㎡
建築面積 ——— 765.32㎡
延床面積 ——— 6,159.98㎡
構造規模 ——— S、8F、PI
工　　期 ——— 平成4年6月～平成5月11月
最 寄 駅 ——— JR秋葉原駅・地下鉄新宿線岩本町駅
撮　　影 ——— 重松写真工房


玄関廻り


モニュメント見上



西面全景



1階ショールーム


エントランスホール



作品
作風

設計監理■
日本生命保険相互会社不動産部
清水建設大阪支店
施　　工■
清水建設・鴻池組共同企業体

コットンニッセイビル

大小オフィスビルが林立するビジネス街、西区。その中に大阪でも数少ないグリーンゾーン靱公園が位置する。当建物は公園北東端にあたる旧綿花会館跡地に、綿花会館と日本生命の共同ビルとして計画された。敷地条件からくる配置計画、建物形状は素直に解され、周辺環境に調和している。

旧建物が持つ歴史的イメージとハイテクイメージの融合をデザインテーマとし、基壇部、中間部、頂上部、と三層構成の元に成り立つ外観は、四ツ橋筋に面して展開される。

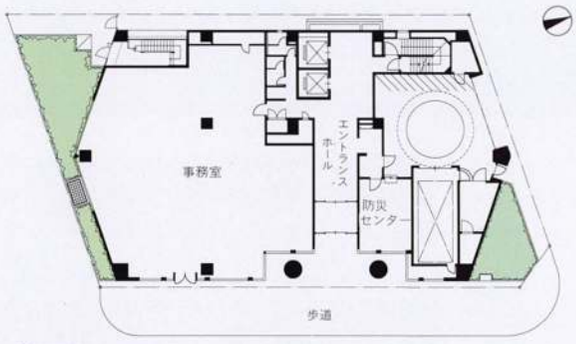
最下層は、記憶の中に残る綿花会館のイメージを抽出し現代建築にアレンジされたものとして、表の顔にふさわしい端正な表情を創り出している。

突出したアイストップとなることを避け、周辺環境を引き締めるエレメントとしての位置づけにより、新しいランドマークとしての地位を確保出来たものと考えている。

空間構成に関しては、シンプルな片側コア配置とし、理想的な無柱オフィス空間が構築されている。又、パークサイドという恵まれた立地条件をいかすべく、南側妻面カーテンウォールからの眺望の確保や、公園との連続性を意図したポケットパーク等、うるおいのある、内外空間を創造している。

経年後、新鮮味のある存在感を維持しつつ、風景の一部となり都市の中へ溶け込んでいくことを期待し、トラディショナルなものとして時代の道標となることを願っている。

（藤田　正／清水建設）



1階平面図　1：600

所 在 地 ——— 大阪市西区靱本町1-8-2
敷地面積 ———　770㎡
建築面積 ———　605㎡
延床面積 ——— 6,605㎡
構造規模 ——— SRC、B1、10F、P1
工　　期 ——— 1992年3月～1993年12月
最 寄 駅 ——— 地下鉄四ツ橋線本町駅
撮　　影 ——— 水野励治



外観



エントランスホール

南側外観（#18ホール池越しより）



進入路からクラブハウス正面玄関を見る



#18ホールからの夕景

作品
作風

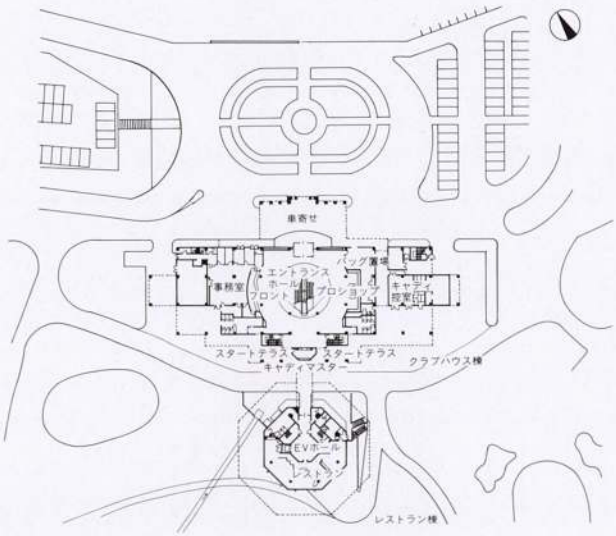
設計監理 ■
秋田照成建築事務所
（構造／宮本建築事務所）
（設備／設備技研）

施工 ■
新井組

花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコースクラブハウス

「花屋敷ゴルフ倶楽部」は川西市から現在の吉川町に移転してから早や20年、その間ゴルフ人口の増加、施設のハイグレード化など様々な時代の変化に対応すべく新クラブハウスの建て替えを行った。正面ゲートをくぐり広々と拡巾した貝塚並木の進入路からアプローチ越しに正面ファサードを望んでみると、シンメトリーを基本にイタリアン・ルネッサンス的印象のクラブハウス本館の白が森林の中から浮き出て見える。そしてエントランスホールに入ると、上昇感のある４本の円柱・やわらかなシャンデリアの光に包み込まれたドームが訪れた人々に安らぎをも感じさせる。２階全面ガラス張りのブリッジを渡ると、シンボリックなフォルムを持ったレストラン棟が聳え建っている。空に浮かび上がったメインレストランからは、眼下に18番グリーン、大噴水と緑に囲まれた各ホールを一望する事が出来る。又、大小様々なコンペの他、200人を越す大コンペのパーティーを行うことも可能である。
こうして生まれ変った新クラブハウスは、名門ゴルフコースの名に恥じない風格と気品を受け継がれる建物となるだろう。

（秋田照成・西田和弘／秋田照成建築事務所）



配置・１階平面図　1：2000

所 在 地 ——— 兵庫県美嚢郡吉川町福井字小西谷534-1
敷地面積 ——— 991,734.00㎡
建築面積 ———　3,152.11㎡
延床面積 ———　5,355.95㎡
構造規模 ——— レストラン棟：S、4F、BIF　クラブハウス棟：RC、2F
工　　期 ——— 平成４年５月～平成５年12月
最 寄 駅 ——— JR福知山線・新三田駅
撮　　影 ——— 石田孝行・陸野伊一郎


クラブハウス棟１Ｆエントランスホール


レストラン棟４Ｆメインレストラン


クラブハウス棟２Ｆ男子大浴場

gallery

記憶のすまい

設計

八木敏明

よく出来た家だった。モダニズム住宅の初期の作品を思わせる小綺麗なインテリア。残念ながら老朽化で取り壊さねばならない。

新しい家は、２層分の天井高を持つLDを中心に家全体を回遊できる様に考え、開放的なすまいになっている。しかし、模索されたプランは、クサビ型の敷地とその周辺環境、そして住み手の旧家に対する記憶が折り合って、最終的にかつての家と似たものであった。

夫婦二人だけの生活になった分、個室の数は減りはしたものの、間取りは類似している。外構もそのまま残した。

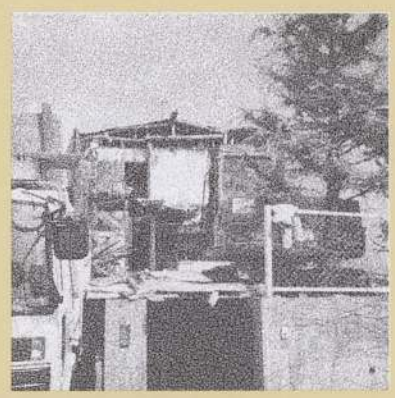
ひとつの土地に根差す新旧の異なった家が、時間を経て、新しい価値観を与えられながらも、記憶の中で結びつくはずである。

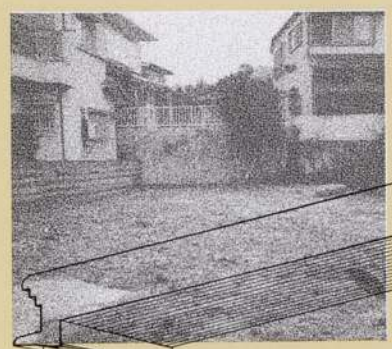


八木敏明

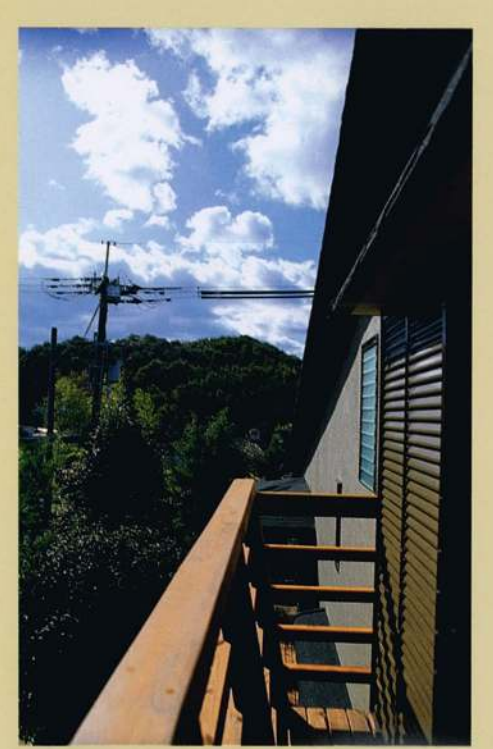
1958　大阪府生まれ
1983　神戸大学環境計画学科修士課程
　　石井　修／美建・設計事務所
1988　建築設計事務所 Y.A.D.開設

企画編集—倉渕奈千子(作品作風小委員会)

















甲斐　良夫
KAI YOSHIO

1944　大分県に生まれる
1965　坪井一男に師事
1974〜78　DORO展(京都)
1978〜82　ZONDE展(京都)
1979〜84　京都アンデパンダン展
1980　空間—知覚の拡がり展(京都)
1983　版と紙によるアプローチ展(大阪)
1985　風景の軟体構築展(京都)
1989　トランス.クレイ.フェノメノン展(ギャラリー白、大阪)
　　滋賀、明日の美術展(滋賀)
　　嵯峨美術フォーラム(京都)
1990　横浜、神戸現代美術交流展(横浜)
1991　ポジション91展(ギャラリーすずき企画、京都)
1993　画廊の視点93(大阪現代美術センター大阪)
1976〜京阪神にて個展、24回開催



1993　記憶の道(部分)　photo：森宮英文

じっと草を見る。ヒメコバンソウという華奢な枝葉に、なるほど小判を背負ったような姿に見える。ちょっとした風にも揺れ傾むき、大丈夫なものかなと思うがしっかりと元に戻る。そのバランスのなせる技は、どこから学んだものかなと考えさせられる。が、見かけ以上にしっかりと土に立ち、太陽を、雨を気温に、たえず注意をはらい、その分身の確保をしている容姿はたくましくも、えらいものだと感心してしまうことばかりに笑えてきます。

たまたまの出会いであったから、このように見えるのでしょうが、実に、身近な所に、いろいろな姿で、我々は見守られているものだなと思う反面、この便利の良い時代の代償としての置き去り物もあるわけで、あまりに美辞麗句の感想文は、同じ地上の出来事として見れば、草花にすまないことばかりをしているなと思います。ヒメコバンソウとの出会いも、互いに、見られよう、見せようとして在るものであらば、それは又、違う感想を持ち、記憶に残るとは限らないかも知れない。些細なことは言葉になりづらく、言葉にならないものは捨て去るというふうな時世も儚いものだということになります。ヒメコバンソウの想いも、こうして言葉にしてしまうことに、人間の一人勝手な、そして、その一人勝手な理屈を赦してくれるものでしょうか。　　甲斐良夫



1991　photo：柄松　稔

（推薦ギャラリーすずき）

斉藤　均
SAITO HITOSHI

1948　神戸に生まれる
1975　京都市立芸術大学美術学部彫刻科卒業
1977　京都市立芸術大学美術専攻彫刻専攻修了
1988　青森EXPO'88現代野外彫刻展 パネル展出品
1989　大阪中之島緑道彫刻展出品、第6回ヘンリームーア大賞展
　　彫刻の森美術館賞、第1回鹿島彫刻コンクール出品
1991　第2回横浜彫刻展 優秀エスキース展出品、
　　第14回現代日本彫刻展京都国立近代美術館賞
1992　第13回神戸須磨離宮公園 現代彫刻展エスキース入選
1993　湘南ひらつか野外彫刻展 優秀エスキース展出品
1994　第1回ステンレス協会賞受賞

角パイプを使って形をつくる。自然のもの、人、建造物、その他のものとのかかわりあいにおいて、おしつけがましさを感じさせない、単純で美しいものをつくりたいと思います。
タイトルは「It blows.」「屁がでちゃった。」ではなく、「風が吹いてきたよ。」そういうものです。　斉藤 均



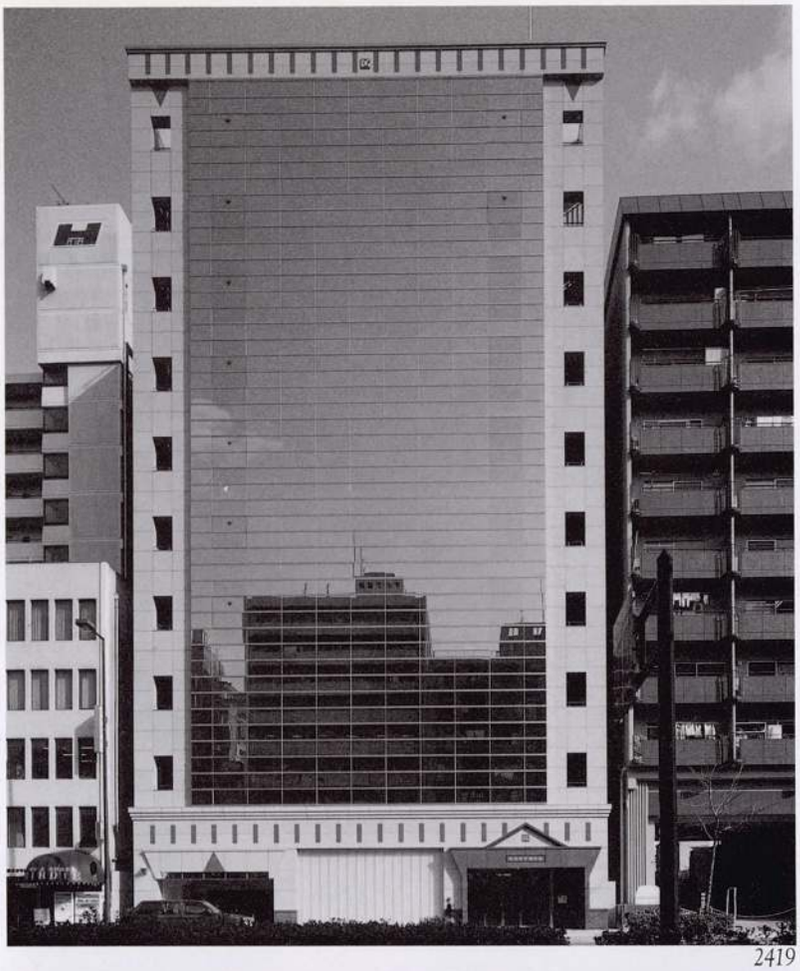
大阪市中之島緑道　572×572×3403mm(D×W×H)　photo：森岡 純



'91現代日本彫刻展(宇部市)990×990×5715mm(D×W×H)　photo：森岡 純

彫刻プランニングオフィス〝はねうさぎ〟はモニュメントや造形作品による、芸術との共存空間をプランニングすることにより、環境と融合した美の空間、人間的な表情豊かな空間づくりが出来ればと願っております。
コーディネーター〝はねうさぎ〟代表 巽育子(お問合せ 075-761-3759)

企画協賛：トート株式会社・ボニサッシ



2419

2419 新谷町大治ビル

設　計：A.R.I 建築事務所
施　工：清水建設
a．大阪市中央区谷町５丁目
b．　344.35㎡
c．　261.62㎡
d．2,479.66㎡
e．S、B1F、10F、P1
f．平成３年７月～平成５年１月

敷地は、谷町筋に面した位置で、周辺地区は雑然とした統一感のない景観が続いている。その中で、"快適なオフィスビルで仕事がしたい" を基本理念としたこの建物は、将来の多彩なOAニーズを見越した機能と、快適性を備えた先進的なインテリジェント空間となっている。
外観は、石とガラスで、近代的な景観を意図しながらも、重厚で落ち着いた表情とした。また、流れる雲が映し出され、道行く人の目を楽しませてくれる。



2420

2420 大日本製薬広島支店

設　計：竹中工務店
施　工：竹中工務店
a．広島市中区幟町２-16
b．　337.64㎡
c．　274.40㎡
d．1,938.11㎡
e．RC、B1F、６F、P1
f．平成４年６月～平成５年７月

世界平和記念聖堂に近接した敷地に、老朽化した旧社屋を解体し、建替えた自社ビルである。外観は外国産花崗石とブラインド内蔵サッシにより構成し、落ち着きと格調のある外観とした。
１階エントランスホールは、明るさと清潔感のある空間を目指し、大理石の床・壁と光天井及びオブジェで構成した。また事務室は、間口が狭いながらも、快適性を重視するためタワーパーキング(20台)及びコア部分を奥に配置することにより、広がりのある空間を確保している。設備的には、事務室にOAフロアーを設けて、OA化対応を計っている。



2421



2422

2421 **大末建設高槻寮研修センター**

設　計：大末建設一級建築士事務所
施　工：大末建設
a．大阪府高槻市富田町1-320-6、320-9
b．1,652.90㎡
c．　761.58㎡
d．3,242.86㎡
e．RC（壁式）、B1F、5F
f．平成４年２月～平成５年３月

2422 **特別養護老人ホーム オービーホーム**

設　計：光安建築設計事務所　光安義光
施　工：フットワーク建設
a．神戸市垂水区
b．3,150㎡
c．1,259.09㎡
d．2,484.09㎡
e．RC、2F
f．平成４年９月～平成５年３月



2423



2424

2423 **エスカル白浜**
大阪府交通安全協会白浜保養所

設　計：宮崎建築設計事務所
施　工：濱本組
a．和歌山県西牟婁郡白浜町字瓜切2927
b．298.10㎡
c．150.46㎡
d．234.48㎡
e．S、B1F、2F
f．平成４年９月～平成５年７月

2424 **岡山県運転免許センター庁舎棟・機械棟**

設　計：類設計室
施　工：奥村組・同和工営J.V
a．岡山県御津郡御津町中山444-3
b．150,000㎡
c．　4,125.99㎡
d．　11,048.35㎡
e．RC、一部SRC、4F
f．平成４年３月～平成５年８月



2425



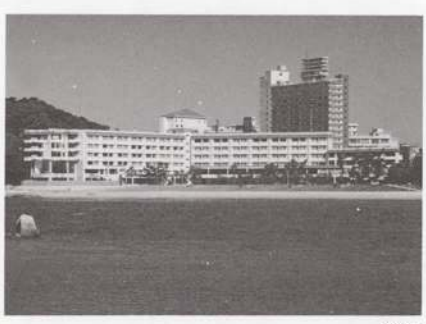
2426

2425 **靱イーストビル**

設　計：小西設計
施　工：東洋建設
a．大阪市西区靱本町１丁目
b．　759.81㎡
c．　521.88㎡
d．4,731.53㎡
e．S、B1F、9F、P1
f．平成４年４月～平成５年９月

2426 **庄内観光物産館**

設　計：泉沢建築設計事務所
施　工：佐藤工務店・佐藤組J.V
a．山形県鶴岡市布目字中通80-1
b．4,125.39㎡
c．2,642.13㎡
d．2,996.10㎡
e．S、2F
f．平成５年４月～平成５年10月



2427



2428

2427 **白良荘グランドホテル**

設　計：アルザム
施　工：鹿島大阪支店
a．和歌山県西牟婁郡白浜町862、868-1、865-3
b．　6,670.732㎡
c．　4,391.97㎡
d．15,982㎡
e．B1F　RC、6F　P2　S
f．平成４年10月～平成５年11月

2428 **いずみ幼稚園**
日本基督教団神戸教会別館

設　計：大林組神戸支店一級建築士事務所
施　工：大林組
a．神戸市中央区花隈町9-8、9-12
b．1,600.19㎡
c．　213.00㎡
d．　385.64㎡
e．S、2F
f．平成５年４月～平成５年12月

凡例

a．所在地

b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

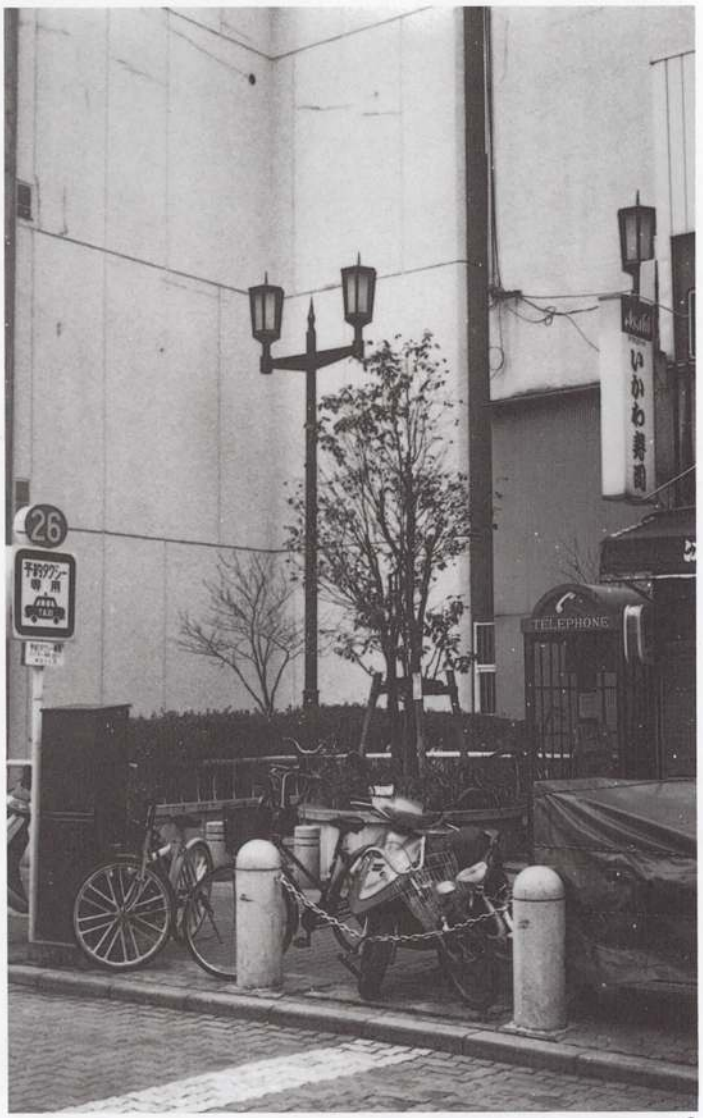
e．構造規模

f．工期

Watching [都市の風景]



1



2



3

都会の空き地
(後悔空地)



4



5



6



7



8



9

企画／会員企画小委員会　Director/H. KASUTANI

1·2／ミナミの中にポケットパーク
3·4·8／町家の中にポケットパーキング
5／建ペイ率100%をめざして
6·7·9／容積率UPをめざして

法令コーナー

編集委員会法令分科会

289

「建築現場における鉄骨工場名の表示について」「鉄骨造建築物等の品質適正化について」の運用取り扱い

近年の建築活動の中で、鉄骨造建築物が高層化・耐震性等において優位な構造であるため、平成3年頃をピークに飛躍的な伸びを示したが、一方、この急速な伸びの中で鉄骨造建築物における不良鋼材・不良溶接・不良検査等の問題が発生した。その要因として、鉄骨造が他の構造に比べ、施工者・ファブリケーター・シャーリング・鋼材メーカーと、建築生産過程において分業化・専門化しており、これらの業界間での品質保証体制における連携が難しくなっている等が指摘された。

この状況下、これら品質保証を阻害する要因を早期に排除し、今後とも鉄骨造建築物が建築活動の中心的役割を果たすべく品質保証体制を確立させるために、建設省は平成3年2月1日に「鉄骨造建築物品質適正化問題専門委員会」を設置した。

鉄骨造建築物品質適正化問題専門委員会報告書

1)現状分析

鉄骨造建築物の建築生産業界は、9業務に分類されている。

①ミル(高炉・電炉)
②輸入業(鋼塊・片鋼材)
（素材製造業者（含む冷間加工品））
③流通業者
④中間製品加工業者
⑤設計者・工事監理者
⑥検査機関
⑦鉄骨加工業者(ファブ)
⑧施工者
⑨行政・公的機関(試験・研究)

この各業務分野ごとに、ミルシート自主検査・受入検査・工事管理・監理等の検査制度は整備されている。しかし、各段階でのシステムが十分に機能していれば問題は発生しないが、一部ではあるが、現実に問題が発生している。

問題発生の要因として、以下の項目が指摘されている。

①各分野での専門化・分業化と新技術等の開発
②各分野担当者の業務内容範囲の拡大に伴う技術・技量的フォローアップの問題
③分野間等で、業務分担区分の不明確化
④各資格者のレベル差や責任意識の問題
⑤建築鉄骨としての材料・技術・資格の欠如
⑥流通体制の複雑化・不透明化
⑦鉄骨加工・施工性を考慮しない設計図書
⑧工事監理者・施工者・ファブの能力と不釣り合いな建築工事や無理な工期の設定
⑨0.9掛け設計における検査・監理意識の欠如
⑩自主検査と受入検査の混同・検査体制の混乱

2)対処提言

現状分析を踏まえて述べられた、この対処提言の方針は、「自工程責任制」の徹底と、各分野での自浄努力を促すことが基本となっている。

①設計者の責務
- 構造図・特記仕様書・二次部材との取り合いも含め、完備した設計図書の作成
- 要求品質および検査項目の明確化、施工・製作・検査の能力レベルの指定

②工事監理者の責務
- 工作図等の設計図書との照合および承認
- 受け入れ検査結果の適否確認、質疑・立ち合い依頼への対応、および工事施工状況の把握
- 鉄骨品質の適否の判断能力の涵養

③施工者の責務
- 設計仕様等を考慮したファブの選定、および工作図等の承認と、工事監理者への報告
- 現場の設計図書との照合および受入検査の実施(検査の外部委託の場合は工事監理者承認後)
- 必要に応じファブへの立ち入りおよび状況確認

④鉄骨加工業者の責務
- 工作図・製作要領書の作成、および施工者への提出・契約図書に基づき製作には一貫した管理を行うとともに、品質管理工程表の作成および保管
- ファブ自らの責務において、加工前後の鋼材材質、加工品の寸法・形状・外観、接合部の耐力と剛性の確保、および必要人員の配置
- 施工業者への自主検査の適時報告
- 鉄骨製作の一部外注、および中間製作購入の場合、範囲および品質について施工者への報告

⑤流通業者の責務
- 異材混入の防止、鋼材とミルシートの整合

⑥行政庁の責務
- 建築基準法第12条3項に基づく施工状況報告書の提出を求め、現場との照合確認
- 1.0掛け設計の比率増大の促進
- 関係者自覚促進のため、意匠・設備・構造設計者の記載について考慮するとともに、ファブにおいても現場表示の設置の検討
- 各分野での当事者能力の育成等方策の検討

等の提言事項が、答申書には述べられている。

鉄骨品質適正化関連2通達と運用取り扱い

上記の答申を受け、建設省より平成4年9月30日付で「建築現場における鉄骨工場名の表示について」(住指発第347号)および「鉄骨造建物築等の品質適正化について」(住指発第349号)の二つの通達が出された。

大阪府下特定行政庁では、この2通達を受けて、「建築現場における鉄骨製作工場名の表示について」は関係団体への周知文の送付を行うとともに、各行政庁においてその掲示を行い、同実施要領を平成4年11月1日より実施している。

「鉄骨造建築物等の品質適正化について」は、通達が出される以前より大阪府下特定行政庁連絡協議会においても鉄骨工事に対する検討を行っていたが、通達が出されたため、再度検討を行い、平成5年6月23日付けで「鉄骨造建築物等の品質適正化について」の運用取り扱いを制定し、同年9月1日受付の建築確認申請より実施している。

第1　適用範囲

鉄骨造建築物又は、鉄骨鉄筋コンクリート造等で3以上の階を有し又は、延べ面積が500㎡を超える建築物

第2　報告及び時期

建築主及び工事監理者は、原則として、鉄骨工事完了時に鉄骨工事施工状況報告書(様式1参照)を建築主事に提出するものとする。

第4　提出を求める書類

(1)鋼材の品質証明書（写し）
(2)鋼材の物流経路を示す書類
(3)材料強度を母材強度と同等にする設計の場合は、告示1103号に該当することを証明する書類
(4)鉄骨の溶接加工に関する検査結果報告書（鉄骨業者が自ら行った検査結果を除く）
(5)鉄骨工事の実施状況を示す写真
(6)変更を生じた場合は変更届(表紙の写し)
(7)その他、建築主事が特に認めた書類

(以上、大阪府下での運用取り扱い抜粋)

以上の運用取り扱いで、鉄骨工事完了時に、鉄骨工事施工状況報告書と第4に示す添付書類の提出を求めることにより、手直しが可能な早い時期に工事の概要が把握できるようになった。

同報告書の内容に建築確認通知書と設計図書との照合欄を設けることにより、確認申請との整合性が明確になり、設計者の責務が明らかになった。また工場製作、現場製作における検査等の実施状況のチェック項目欄があり、検査のもれがなくなるようにしている。おのおのの検査を誰が行ったのかを記す項目もあり、責務の所在や監理体制の明確化を促している。

同報告書には、鉄骨工場名現場表示板の設置期間の記入欄を設け、先の通達の徹底を図り、鉄骨製作者の責務を明らかにしている。

第4に示す添付書類の中に鋼材の物流経路を示す書類を加えることにより、異材混入の防止と鋼材の整合性を明確化し、流通業者の責務を明らかにしている。また、鉄骨の溶接加工に関する検査結果は、鉄骨加工業者が自ら行った以外のもので行った検査結果により、品質の適正化を図っている。

山本博文
大阪市計画局建築指導部審査課構造強度係長

様式１

鉄骨工事施工状況報告書

平成　年　月　日

建築主事　殿

建築基準法第12条第３項の規定に基づき建築基準法及び関係法令に適合するように施工されたことを確認しましたので下記のとおり報告します。

建築主住所　　氏名　　㊞
工事監理者　事務所名　　建築基準事務所（　）登録第　　号　工事監理認定法合建築事務所㊞第
住所　　（TEL　　）
資格　　建築士（大臣・知事）登録第　　号　氏名　　㊞
工事施工者　住所　　（TEL　　）
施工者名

建築物・鉄骨工事概要	工事名称				建築確認	平成　年　月　日　第　号		
	建築場所							
	主要用途			建築面積	㎡	延べ床面積	㎡	
	階数	地上　／　地下		軒の高さ	m	最大張り間	m	
	構造種別	S造　SRC造　（　）		架構形式	ラーメン　ブレース（　）			
	建築確認通知書と設計図書の照合	訂正箇所（有・無）		設計図書の訂正（確認済・未確認）				
	建築確認後の変更事項	変更届提出年月日　平成　年　月　日						
	主要部材の使用部位及び鋼種	部位	鋼材種別	重量	高力ボルトの種類	JIS型　（F　T.　）径（M　）		
						トルシア型　（S　T.　）径（M　）		
					高力ボルトの接合	接合方法　摩擦面の処理方法		
						摩擦，引張　1.母材:　2.スプライスPL:		
	溶接継目の部位，鋼材の種類及び品質条件	工場溶接	部位	鋼材の種類	品質条件等	現場溶接	部位	鋼材の種類	品質条件等
					(突合，すみ肉)（　F）				(突合，すみ肉)（　F）
					(突合，すみ肉)（　F）				(突合，すみ肉)（　F）
					(突合，すみ肉)（　F）				(突合，すみ肉)（　F）
	鉄骨製作工場名	現場表示板の設置期間　平成　年　月　日から平成　年　月　日まで設置							
工事関係者住所・氏名	設計者	事務所名			建築基準事務所（　）登録第　　号（TEL　）				
		住所			資格・氏名　建築士（大臣・知事）第　　号				
	構造担当者	事務所名			建築基準事務所（　）登録第　　号（TEL　）				
		住所			資格・氏名　建築士（大臣・知事）第　　号　㊞				
	検査機関（検査員）	検査機関の名称			代表者名　（TEL　）				
		住所			（検査員氏名　資格　）				
	鉄骨加工業者	鉄骨加工工場の名称			代表者名				
		住所			TEL				
		建設大臣認定	認定年月日	平成　年　月　日	認定番号				
			有効期限	平成　年　月　日	工場ランク	（H・M・R・S・A・B・C）			
		知事登録	登録年月日	平成　年　月　日	登録番号				
			有効期限	平成　年　月　日	工場ランク	（A　・　B　・　C）			
添付書類	ア．鋼材強度試験報告書　イ．ボルト類強度試験報告書　ウ．溶接部の非破壊検査報告書 エ．溶接部の強度試験成績書　オ．高力ボルト締め付け検査報告書　カ．鋼材の流通経路を示す書類 キ．写真【開先形状 建て方 溶接部の外観及び非破壊検査 柱・梁・筋かい・柱脚の寸法及び形状】 ク．（　）ケ．（　）コ．（　）								

（注）裏面の注意事項を読んで記入して下さい。

〈大阪府下特定行政庁連絡協議会共通用紙〉

検査等の項目		実施した試験・検査等の方法（実施した項目の記号に○印）	検査等の実施状況の可否を記入 工事監理者	工事施工者	検査機関
工場製作における検査等の実施状況	鉄骨加工工場の決定	a 書類審査　b 工場実地調査	可　不可	可　不可	——
	要領書，工作図の審査	a 設計図書との照合 b 図書審査承認	可　不可	可　不可	——
	溶接方法の承認	a 要領書審査　b 承認試験	可　不可	可　不可	——
	溶接工の承認	a 資格証の確認　b 技量確認試験	可　不可	可　不可	——
	使用鋼材等の品質確認	a ミルシートの確認 b 立ち会い検査	可　不可	可　不可	——
	使用材料，製品の検査（高力ボルト，頭付スタッド）	a ミルシートの確認　b 材料試験 c 立ち会い検査　d（　）	可　不可	可　不可	——
	現寸検査等	a 立ち会い検査	可　不可	可　不可	——
	切断後の鋼材材質確認	a 立ち会い検査　b 確認試験	可　不可	可　不可	——
	組立検査	a 開先形状　b ルート間隔 c 目違い　d 裏当て，エンドタブ e 組立溶接（仮付け溶接）	可　不可	可　不可	——
	製品の社内検査実施状況の確認	a 製品の社内検査報告書確認 b（　）c（　）	可　不可	可　不可	——
	鉄骨製品の受入検査	a 溶接部外観検査（溶接部の精度・表面欠陥）b 超音波探傷検査 c 補正措置　d 部材表面検査 e 寸法検査　f 取合部検査 g（　）h（　）	可　不可	可　不可	可　不可 bの初回検査率（　）
現場製作における検査等の実施状況	RC部との接合(柱脚等)	a 設計図書との照合	可　不可	可　不可	——
	アンカーボルトの埋込等	a 設計図書との照合	可　不可	可　不可	——
	建て方，建て方精度	a 建て方精度　b 建て入れ直し c 倒壊防止措置　d 仮締めボルト	可　不可	可　不可	——
	トルシア型高力ボルト受入検査	a 現場軸力導入確認試験	可　不可	可　不可	——
	摩擦接合面の確認	a 目視　b（　）	可　不可	可　不可	——
	食い違い，肌すき検査	a 目視　b（　）	可　不可	可　不可	——
	高力ボルト本締め検査	a 目視　b（　）	可　不可	可　不可	——
	共廻り，締め忘れ検査	a 目視　b（　）	可　不可	可　不可	——
	要領書，工作図の承認	a 設計図書との照合	可　不可	可　不可	——
	溶接方法の承認	a 要領書　b 承認試験	可　不可	可　不可	——
	溶接工の承認	a 資格証　b 技量確認試験	可　不可	可　不可	——
	溶接作業条件の確認	a 要領書	可　不可	可　不可	——
	開先形状，ルート間隔，目違い，隙間	a 目視　b 溶接ゲージ c（　）d（　）	可　不可	可　不可	——
	仮付け溶接，裏当て，エンドタブ	a 目視　b 溶接ゲージ c（　）d（　）	可　不可	可　不可	——
	溶接部の検査	a 外観検査　b 内部欠陥検査	可　不可	可　不可	可　不可
所見	工場製作について		現場製作について（内部欠陥検査の方法及び検査率は必ず記入）		

（注）検査等を実施した時に不合格部分が存在した場合は，(不可)とし再検査年月日及び可否を記入する。

鉄骨工事施工状況報告書は，鉄骨造建築物等の適正な品質の確保をはかるために建築基準法第12条第３項及び平成４年９月30日付け建設省住指発第３４９号「鉄骨造建築物等の品質適正化について」に基づき，当該建築物の鉄骨建方完了時点において建築主等に鉄骨工事の施工状況報告を求めるものです。この報告書の記入に当たっては，下記の「記入について」を読んで記入して下さい。（参考　ＪＡＳＳ６）

「記入について」

報告者及び作成者……報告者は，当該建築物の建築主及び建築主から依頼された工事監理者とし，作成者は，当該建築物の工事監理者として下さい。また，構造担当者と十分打合せを行なって下さい。(必要に応じて，工事施工者の協力を得て作成しても差し支えありません。)

工事名称及び建築場所……当該工事の現場名称と敷地の地名地番を記入して下さい。

建築確認……建築確認通知書に記載されている確認年月日及び確認番号を記入して下さい。

建築面積，階数等……建築確認通知書に記載されているとおり記入して下さい。（変更のあった場合は，変更後のものを記入して下さい。）

構造種別及び架構形式……該当する項目に○印をつけて下さい。該当する項目のない場合は，（　）へ記入して下さい。〔例えば（鋼管コンクリート造）と記入する。〕

建築確認後の変更事項……建築確認後に変更があった場合には変更届の提出年月日及び変更内容を記入して下さい。

高力ボルトの種類……使用した高力ボルトの種類及び径を記入して下さい。（トルシア型高力ボルトは，建設大臣の認定品を使用して下さい。）

高力ボルトの接合……該当する接合方法に○印をつけて下さい。

摩擦面の処理方法……母材及びスプライスプレートの摩擦接合面の処理方法を記入して下さい。

溶接継目の部位，鋼材の種類及び品質条件……記入例

部位	鋼材の種類	品質条件等
梁フランジ	SS400	(突合)すみ肉)(0.9F)
+補PL	+SS400	

※Fは，基準強度とする。
※板厚25㎜を超えるSS400は，溶接不可。

鉄骨製作工場名現場表示板の設置期間……平成４年９月30日付け建設省住指発第３４７号「建築現場における鉄骨製作工場名の表示について」に基づいた表示板の設置期間を記入して下さい。

工事者……当該建築物の設計者の所属事務所名，住所及び資格，氏名を記入して下さい。

構造担当者……当該建築物の構造担当者の所属事務所名，住所及び資格，氏名を記入して下さい。

検査機関（検査員）……当該建築物の溶接部の非破壊検査を実施した検査機関の名称，代表者名，住所及び検査員の氏名，資格を記入して下さい。

鉄骨加工業者……当該建築物の鉄骨加工を行なった工場名称，代表者名，住所及び昭和56年建設省告示第１１０３号に該当する場合は，その認定・登録年月日，有効期限，認定・登録番号を記入し，工場ランクは該当する項目に○印をつけて下さい。

添付書類……建築主事より報告を求められた項目に○印をつけ，同時に資料を提出して下さい。

鉄骨加工工場及び工事現場における試験・検査等の結果……鉄骨加工工場及び工事現場における試験・検査等の項目に○印をつけ，検査等の結果については，工事監理者，工事施工者，検査機関のそれぞれが該当するものに○印をつけて下さい。（必要に応じて，構造担当者の協力を得て実施して下さい。）

《工場製作における検査等の実施状況》

鉄骨加工工場の決定……鉄骨加工工場の選定は，当該鉄骨工事の規模，形状，構造種別，架構形式，鋼材の材質，板厚等に対して十分な技術と設備を持ち，有効な品質管理体制を備えていることを調査，確認して下さい。

要領書の審査……要領書は，㋐使用材料の材質，保管，試験等　㋑工作図の作成要領　㋒使用材料の加工及び組立（開先加工要領・組立要領）　㋓溶接工作工程の管理方法（組立溶接（仮付け溶接）・溶接材料の種類及び管理・溶接機の種類・溶接電流・アーク電圧・溶接速度・溶接姿勢・予熱温度・施工時の天候及び気温・溶接順序等）　㋔社内検査の方法　㋕錆止め塗装　㋖輸送等について確認して下さい。

工作図の審査……工作図は，㋐鉄骨部材の詳細な形状，寸法，材質　㋑溶接及び高力ボルト接合部の形状，寸法，材質　㋒貫通孔の位置，径等　㋓仮設金物等について確認して下さい。

溶接方法の承認……使用鋼材等に対して適切な溶接方法，溶接材料となっていることを確認して下さい。また，サブマージアーク・エレクトロスラグ溶接の場合は，承認試験をして下さい。

溶接工の承認……当該鉄骨工事の溶接施工内容に応じた有資格者であることを確認して下さい。技量試験は，高張力鋼を使用する工事等で，高い品質を求める場合に行なって下さい。

使用鋼材等の品質確認……使用材料は，ＪＩＳ規格品とし，規格証明書と照合して下さい。（流通経路は，把握しておいて下さい。）規格証明書との照合ができない場合は材料試験が必要です。

現寸検査等……工作図に製作上必要な情報が十分盛り込まれている場合は，床書き現寸図を省略してもよいので定規，型板について行なって下さい。

切断後の鋼材材質確認……識別マーク等（日本鋼構造協会「構造用鋼材の識別表示標準」）で確認できない場合は，化学分析・機械試験を行ない，その結果とミルシートを比較して判別して下さい。

組立検査……開先角度，ルート間隔，ルート面，開先部の清掃状況，エンドタブの種類及び取付状態，水平スチフナーの目違い，裏当て金取付状態，ボルト孔の孔径・ピッチ，組立溶接（仮付け溶接）の状態，溶接熱によるひずみ対策等を確認して下さい。

製品の社内検査実施状況の確認……鉄骨加工工場の自主検査が，どのように行なわれたか，また，欠陥部の処置はどのように行なわれたか等を確認して下さい。

鉄骨製品の受入検査……溶接部外観検査は，余盛高さ，ビードの精度，アンダカット，オーバラップ，仕口のずれ等を確認して下さい。超音波探傷検査は，信頼のおける検査会社の選定及び検査技術者の資格に留意して下さい。（なお，初回検査率を記入して下さい。）

《現場製作における検査等の実施状況》

アンカーボルトの埋込等……アンカーボルトの据え付け精度は，建て方精度に直接影響を及ぼすのでアンカーボルトの位置、埋込み長等に留意して下さい。（ボルト位置は，±３㎜以下とする。）

建て方，建て方精度……建て方は，与えられた立地条件等から適切な建て方順序と揚重機種を組み合わせて行ない，建て方精度は，日本建築学会「鉄骨精度測定指針」等を参考にして下さい。
建て入れ直しは，できるだけ建て方の進行とともに小区画に区切って行なって下さい。
鉄骨工事中の鉄骨骨組は，荷重（固定荷重等）及び外力（風圧力等）に対して，十分な安全性を確認して下さい。（仮締めボルトは，２本以上かつ1/3以上とする。）

トルシア型高力ボルト受入検査……納品された高力ボルトとメーカーの社内検査成績書を照合して下さい。また，メーカー及び呼び径ごとに現場軸力導入確認試験によって確認して下さい。

摩擦接合面の確認……自然発錆の赤さび面を確認して下さい。また，ショットブラスト，グリッドブラストによる処理をしたもので表面のあらさが５０Ｓ以上のものでもよい。

食い違い・肌すき検査……ボルト孔の食い違いで，リーマ掛けによる修正ができるのは２㎜以下として下さい。
接合部で１㎜を超える肌すきがある場合は，両面摩擦処理をしたフィラープレートを入れて下さい。

高力ボルト本締め検査……高力六角ボルトは，一次締め付け後に付けたマーキングのずれによって確認して下さい。トルシア型は，ピンテールの破断によって確認して下さい。

共廻り・締め忘れ検査……一次締め付け後に付けたマーキングのずれによって共廻り等の確認をして下さい。締め忘れボルトは，異常のないことを確認のうえ締め付けて下さい。

要領書・工作図の承認……工場製作の要領書、工作図の審査と同様に行なって下さい。

溶接方法の承認……工場溶接の場合と同様の確認をして下さい。

溶接工の承認……屋外作業のため作業環境や作業条件がよくないので，実際の作業に要求される資格以上の資格を有することが望ましい。また，現場特有の作業やはじめて従事する溶接工に対しては，技量確認試験によって承認して下さい。

溶接作業条件の確認……天候，風速，気温，湿度（気温が０℃以下の場合は，溶接を行なわない。また，ガスシールドアーク半自動溶接の場合，風速２m/s 以上ある場合は，溶接を行なわない。ただし，適切な方法により対策を講じたものは，この限りではありません。）の管理を十分に行ない，それに対応した防風処置、予熱処置等をして下さい。

開先形状等……組立検査と同様に行なって下さい。

溶接部の検査……鉄骨製品の受け入れ検査と同様に行なって下さい。

所　見……検査結果が，不合格であった場合の処置等を記入して下さい。

編集委員会法令分科会
法令コーナー

290

「1階が鉄骨造又は鉄筋コンクリート造で2階及び3階が木造である建築物」の運用取り扱い

1階が鉄骨造または鉄筋コンクリート造で2階および3階が木造である建築物、いわゆる3階建て混構造住宅の計算方法に関する通達(建設省住指発第113号)が平成3年3月27日に出されている。それを受けて平成5年2月1日には建設省の監修で㈶日本住宅・木材技術センター(問い合わせ先☎(03)3581-5582㈹)より「3階建て混構造住宅の構造計算の手引き」が出され、これら建築物の構造計算の詳細が明らかになった。

そこで、平成5年4月より大阪府下特定行政庁連絡協議会構造分科会では、木造部会を発足させ、これら運用取り扱いについて検討を行っているが、平成6年4月1日の受付から、先述の手引きにならって、構造計算をすることとした。

通達の適用の範囲

通達は、次の項目に適合する建築物に適用する。

- 地階を除く階数が2または3であるもの
- 1階が鉄骨造またはRC造であるもの
- 2階および3階が木造であるもの
- 高さが13m以下で、かつ、軒の高さが9m以下であるもの
- 延べ面積が500m²以内であるもの

構造計算の取り扱い

①現状の取り扱い

大阪府下特定行政庁の3階建て混構造建築物構造計算の取り扱いは、これまで建築物の構造をルート1規模に限定し、1階鉄筋コンクリート部の水平時応力計算については、木造部の重量を5割増しとし、水平力を算定していた(建築基準法構造関係法令集1993年版488頁を参照)。

また、木造部は建築基準法施行令第46条の規定に基づき、当該階の構造耐力上必要な壁量を検討し、許容応力度計算については要求していなかったが、②の取り扱いに改正される。

②今後の取り扱い

今後は「3階建て混構造住宅の構造計算の手引き」にならって構造計算をすることとなる。

ここでは、現状の取り扱いとの相違点について簡単に述べる。

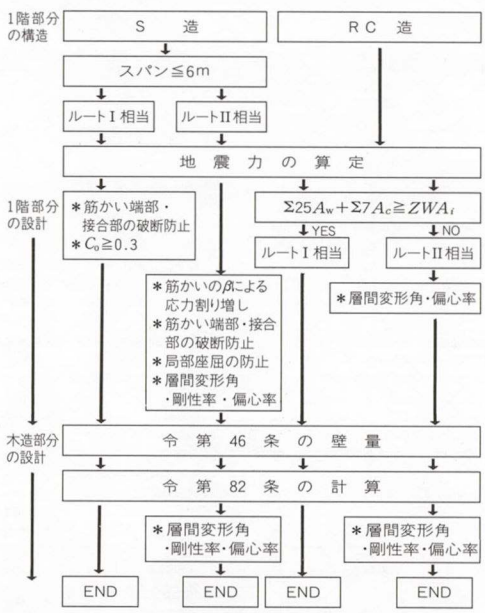
計算ルートは、ルート2相当までが可能となる。許容応力度の計算は、鉄骨部分、鉄筋コンクリート部分の検討(前途の木造部分地震力の割り増しは必要ない)はもちろん、木造部分に関しても、建基準法施行令第46条の壁量検討に加えて、地震力、風圧力、固定荷重、積載荷重、積雪荷重についても検討することになる。その結果、木造部の壁量が令46条の1.5～2倍程度必要となることもあるので、注意されたい。

なお、細かい運用取り扱いに関しては、大阪府下特定行政庁連絡協議会構造分科会木造部会で引き続き検討を行っている。

構造計算の概要

①計算ルート(図参照)

下部構造がルート1相当の条件は、鉄骨造の場合スパンが6m以下であること。RC造の場合は$\Sigma 25A_w+\Sigma 7A_c \geqq WA_i$を満足すること。ルート1相当の計算においては、1階の鉄骨造部分またはRC造部分、2・3階の木造部分とも令第82条の許容応力度計算を確認する。なお、RC造との混合構造の場合の地震力の計算は、1階分の地震力算定用重量が2階部分の地震力算定用重量の2倍を超える場合は、2階および3階のA_iは、地震力算定用重量を2階部分の地震力算定用重量の2倍とみなして1階部分のA_iは1として算定。



混構造住宅の耐震計算ルート

ルート2相当の場合、許容応力度計算を確認するとともに、1～3階の偏心率・層間変形角・剛性率(1階がRC造の場合は、剛性率の検討は2・3階部分のみでよい)の検討が必要になる。

以下に構造計算の概要をあげる。

・偏心率については、各階の壁配置のバランスが問題であり、各階の剛心は耐力壁の配置によって決まり、重心は各階の平面形の図心を採用してよい。

・木造部分の層間変形角γ_sは、壁倍率1、壁長1m当たり200kgの水平力によって1/120の変形が生じるとして、変形角γ_sを次式によって求めることができる。

$$\gamma_s=(1/120)\times Q_i/P_i$$

Q_i：当該階に作用する水平力

P_i：当該階の耐力壁の許容耐力の総和

$P_i=0.2\times\Sigma\alpha_i\cdot\ell_i$(t)

(α_i：壁倍率、ℓ_i：壁の長さ)

・各層のγ_sは次式によって求めた値になる。

$$r_s=1/\gamma_s$$

γ_s：当該層の層間変形角

・剛性率R_sは次式によって求める。

$$R_s=r_s/\overline{r_s}$$

r_s：各階の層間変形角の逆数

$\overline{r_s}$：当該建築物のr_sの相加平均

②木造部分の構造計算の概要

木造部分については耐力計算および変形計算を行うことになるが、2・3階部分の壁量は、純木造3階建ての場合と比較して1～2割増えることが想定され、令第46条の床面積により算定された壁量の1.5倍～1.8倍(1階がRC造の場合は1.5倍～2倍)ぐらいに増えることがある。また、間口が狭く奥行きの長い形状のもので、風圧力が卓越する場合は、それ以上の倍率となることもあるので、注意して設計していただきたい。

ここでは、その計算の主要な項目を述べる。

・壁の許容耐力P_iの算出は、令および告示による倍率1の耐力壁1mに対して200kgとして、次式で算出する。

$$P_i(t)=0.2\times\alpha_i\times\ell_i$$

α_i：当該耐力壁の倍率

ℓ_i：当該耐力壁の長さ(m)

・水平力の分担は、以下の考え方による。床構面の水平せん断剛性が十分に期待できる床(剛な床)にすることが望ましく、その場合は、水平力を$\alpha_i\times\ell_i$に基づいて各耐力壁に振り分けて計算する。

・耐力壁端部に生ずる浮き上がり力V_Tは、次式で算出できる。

$$V_T=V_S\times\beta-N_L$$

$$V_S=\Sigma V_i$$

$$V_i=Q\times h_i/\ell_i$$

$$Q=\alpha_i\times\ell_i\times 0.2\times Q_i/P_i$$

h_i：階高-0.3(m)

β：0.5～0.8(浮き上がり力に対して建物全体が押さえ込む効果を考慮した係数)

Q：各耐力壁に作用するせん断力(t)

V_i：当該階の回転による軸力(t)

V_S：当該階までのV_iの合計

Q_i：当該階に作用する水平力(t)

P_i：当該階の耐力壁の許容耐力(t)

大阪府下での確認申請時の添付書類

「(仮称)混構造用のチェックリスト」を、構造計算書の最初に添付する。また、木造部分の構造計算を先の「手引き」に沿って計算するため、「(仮称)構造計算シート」も活用されたい。

なお「(仮称)混構造用のチェックリスト」「(仮称)構造計算シート」については、大阪府下の各特定行政庁に問い合わせられたい。

また木造部分の構造図は、各階伏図、軸組図、詳細図等を添付することになるので、作成には「3階建木造住宅の構造設計の手引き」「住宅金融公庫共通仕様書」「木造建築物等の技術基準・同解説」等を参考にしていただきたい。

山本博文
大阪市計画局建築指導部審査課構造強度係長

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

第71回ICBO年次総会及び米国建築行政調査に参加して

1．はじめに

1993年9月10日～22日の13日間、日本建築主事会議（JCBO：Japan Conference of Building Officials）代表団の一員として訪米し、93年度ICBO(International Conference of Building Officials：国際建築主事会議）年次総会に参加すると共に、米国における建築行政の実態の調査・視察を行った。代表団はJCBOの主要な事業の一つである「建築行政に係る海外の団体との交流」を目的としてICBO年次総会に参加し、併せて米国における建築基準の内容やその運用の実態、街づくりの状況を調査するために派遣されたものである。

ICBOについて

ICBOは1992年に設立された、米国カリフォルニア州ウィッティア市に本部を置く建築基準・規格の制定機関であり、建築主事等を会員とする非営利の公益団体である。会員数は、1992年の時点で1万人を超える。

主な活動内容は、次のようなものである。

- UBC(Uniform Building Code：統一建築コード)の策定・改正
- 建築物・建築設備の安全性、維持保全の在り方の調査・研究
- 建築物に関する各種の規制の在り方に関する調査・研究
- 建築行為に関する各種の出版・教材開発
- 建築法規の執行・施行に携わる人々の専門技術の育成

2．第71回ICBO年次総会

1993年9月12日～17日の6日間、アメリカ合衆国全土及び諸外国からの加盟会員を含む約1050名（夫人約220名を含む）が参加して、カリフォルニア州サクラメント市において第71回年次総会が開催された。なお、JCBO代表団の参加は1991年以来3回目である。

期間中、約1000人が一堂に会して行われる総会、規格変更セッション、教育セッション等の他、ICBO各部門の会議・会合が開催され、関連行事として建築材料・設備の展示会等のイベントも行われた。

また、ICBO-JCBOの意見交換も行われた。

諸外国からの参加者は、我々JCBO代表団の他にカナダ、オーストラリア、台湾、香港等であった。

＜教育セッション＞

コンベンションセンターのホールに8人掛けの円卓が50以上並べられ、約500人が参加して行われた。裁判の事例についてのケーススタディと分析の勉強会である。判決の結果が報告される前に、各テーブル毎に討論が行われていた。事例のほとんどは建築主事、市の賠償責任、立入権に関するものであった。

＜規格変更セッション＞

ICBOのUBC規格は3年に1度大きく変更されるが、毎年変更されるものもある。変更の提案は誰でもできるが、建築主事による場合が多いようである。今回の総会では約500人が参加し、変更提案の趣旨、反対意見等が述べられた後、採決が行われていた。

3．各都市建築行政調査及び視察

(1)サンフランシスコ

米国入国1日目、サンフランシスコ国際空港から都心部へ向かう途中、日曜大工の店に立ち寄る。7m位はあろうかと思われる天井近くまで積み上げられた商品の数、量には驚いた。

続いて、ゴールデンゲートパーク、エンバカデロセンター（都心複合開発)、ピア39（埠頭整備)、マリーナ地区住宅街等都市再開発地域を視察した。住宅は木造の中低層のものが多く、道路に面して隣と軒を接するように建てられていた。地震時に倒壊しないようにとの配慮のようである。

(2) シアトル

ワシントン州経済開発局、シアトル市建築局を訪問。シアトル市職員より ・他の行政区域とのビルディングコードの違い ・建築可能な木造建物の規模 等について説明をうけた後、実際に木造共同住宅の建築現場を視察した。UBCで認められているのは5階までであるが、シアトル市のダウンタウンでは消防車が2～3分で到着できるので6階まで建築できるように変更しているとのことである。

この他、開校から約70年経った公立高校が生徒数の減少により閉校となりこの建物を民間ディベロッパーが買収し、共同住宅として再生した賃貸アパート（139戸）を視察した。日本では当然のごとく取り壊される様子が脳裏に浮かび、考えさせられるものがあった。

(3) タコマ

APA(American Plywood Association：アメリカ合板協会)本部・研究所を訪問。APA本部及び研究所の活動、スーパーハウスの開発・工法について説明を受けた後、研究所の試験施設を見学した。研究所では会員各社から送られてくる製品の調査を行っていた。2時間程度の訪問であったが、非常に積極的な活動をしているなとの印象を受けた。この後、タコマ市職員の案内で、木製ドームで世界最大と言われるタコマドームを視察した、意外と木製トラスのメンバーが細いのには驚いた。

(4) ニューヨーク

ニューヨーク市の都市計画局を訪問。都市計画局の業務概要、特別許可手続き、景観規制、ゾーニングコード等について説明を聞いた後、積極的な質疑応答が行われた。

ニューヨークには今回訪れた他の都市とは少し違った雰囲気があった。人、車の多さ、慌ただしさは、他の都市では感じなかったものである。一方、林立する摩天楼の中で、ヨーロッパ調の古い建物が非常に多く残っていたのは意外であった。

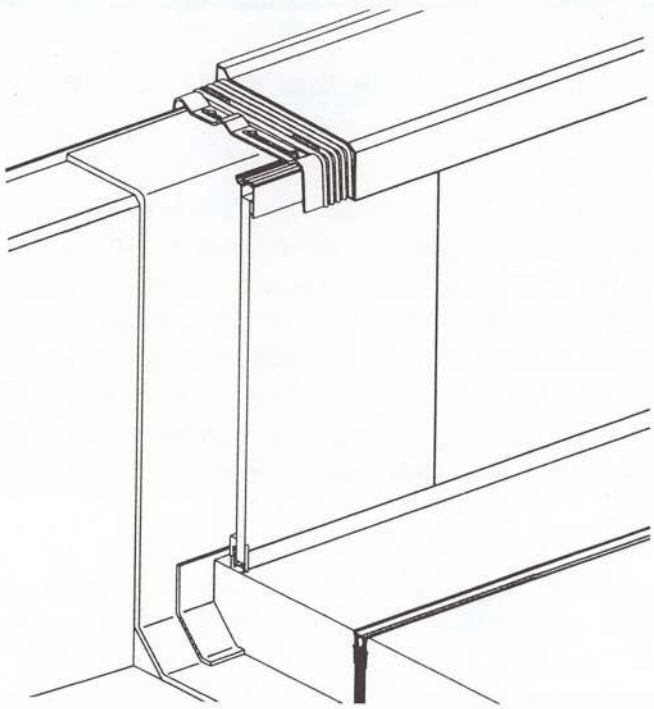
ワールド・トレードセンター、ジャイコブ・ジャビッツ・コンベンションセンター、ロックフェラセンター等の他、幾つかのウォーターフロント開発を視察したが、何れも強いもの、大きいものを好むアメリカを感じさせるものであった。

（環境試験室長代理　上田哲夫）

乾式工法

立上がりの防水層保護・化粧ボード仕上げ

PBSYSTEM
パラボードシステム

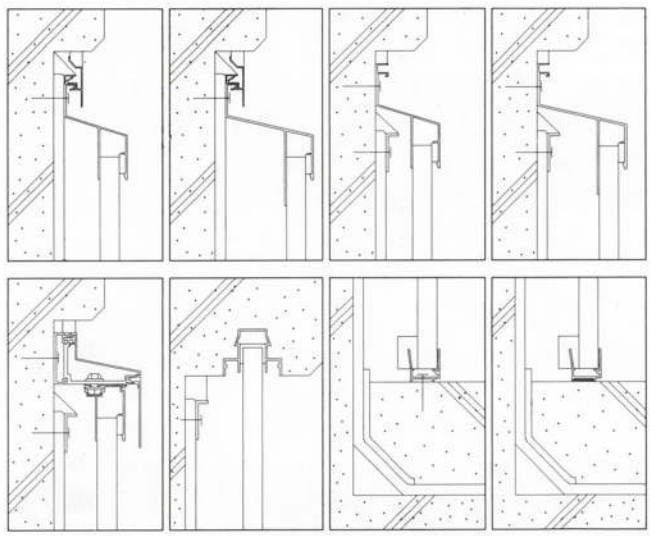


防水のパイオニア〈ヤマデ〉が可能にした、
まったく新しい屋上防水の立上がり乾式保護システム。
防水をトータルに考える〈ヤマデ〉ならではの
防水システムです。

乾式工法によるまったく新しい屋上防水システム〈パラボードシステム〉。屋上の立上がりの防水層を耐候性に優れた化粧パネルで保護するこのシステムは、意匠性に優れ、屋上のデザインを引きたてます。また、すべての部材がシステム化されているので、工期の短縮や省力化が可能です。〈パラボードシステム〉は、大きく分けて〈笠木タイプ〉と〈あご下タイプ〉の2タイプ。どちらも優れた耐久性と雨仕舞いを実現した先進のシステムです。

主な実績

東京都庁、最高裁判所、東京国際空港「ビッグバード」、恵比寿ガーデンプレイス
品川プリンスホテル、東京デザインセンター、森のホール21（松戸市文化会館）
関西国際空港、大阪市総合医療センター、けいはんなプラザ・住友ホール、ゲートタワービル
新広島空港、山陽新幹線・JR博多駅、KDD新神戸ビル、野村総合研究所、ほか。





あたらしいカタログが出来ました。

「パラボードシステム」の新しいカタログができました。
「パラトップ笠木」も合わせコンピューターグラフィック、
写真で「わかりやすく」「読みやすい」カタログです。
いますぐ、お近くの営業所にカタログをご請求ください。

塩ビ系シート防水

リベットルーフ® 防水システム
MMA樹脂積層のハイパールーフィング

新しいカタログが出来ました。今すぐお近くの営業所に、ご請求下さい！

創意・科学・技術
株式会社ヤマデ

本社：〒564 大阪府吹田市江の木町24-10　東京支店：〒111 東京都台東区浅草橋5-5-5（キムラビル）
仙　台(022)291-0877 大宮(048)654-4720 東京(03)3861-1126 千葉(043)244-4591 横浜(045)661-3563
名古屋(052)777-5561 大阪(06) 385-1261 神戸(078)272-2661 広島(082)263-5103 福岡(092)472-9611

新建材紹介コーナー 209

日本建築協会建材委員会

立上がりの防水層保護・化粧ボード仕上げ

パラボードシステム

株式会社ヤマデ
本社　〒564 大阪府吹田市江の木町24-10
TEL(06)385-8545
東京　〒111 東京都台東区浅草橋5-5-5(キムラビル)
TEL(03)3461-1125

❶——はじめに

屋上防水の立上がり面の保護は、従来「れんが押え」や「コンクリート押え」などの湿式工法が中心であった。

これらは実績のある工法であるが、施工に手間がかかるほか、経年によるモルタル仕上げ層のはく離や、漏水が発生した場合に原因調査や補修が困難であるなどの問題があり、(写真1、2)また、湿式工法は多数の職種(組積工、左官工、鉄筋工、型枠工等)を複合した労働集約型の工法のため、工期とコストがかかるというデメリットもある。

これらの問題を解決したのが乾式工法によるまったく新しい立上がり防水層の保護システム《パラボードシステム》である。

❷——パラボードシステムの特徴

パラボードシステムは、立上がりの高さに合わせて切断したボードを、上下部に固定したホルダーに差し込むだけで作業が完了し、工期の短縮を図ることができ省力化が実現できる。

また、各部材がシステム化されているので意匠効果が期待できる。(図1)

その特徴は、以下の通りである。(図2)

1.ボードに中空押出成形セメント板を採用

防水層を保護するボードは高強度で、耐候性、耐水性に優れ、いつまでも美しく防水層を保護できる。

2.通気システムの採用

防水層とボードの空間に空気を流通させる通気システムを取り入れているので、温度上昇によるアスファルト防水層の劣化が防げる。

3.雨水を排水できる下部ベースホルダー

下部のベースホルダーは内部に排水空間を有しているので、ボードの凍害や毛細管現象による汚染を抑制できる。

4.保守点検が容易

簡単にボードを取り外せるため、点検作業や漏水が発生した場合のメンテナンスが容易に行える。

5.納まりに対応した豊富な仕様

パラボードシステムは、様々な納まりに対応できる豊富な仕様が用意されている。

❸——採用するに到ったポイント

1.防水層の点検、補修が容易である。

2.上下の固定部材に通気システムを採用しているのでアスファルト防水層のダレを防ぐことができ、長期間にわたって防水機能を保持することができる。

3.乾式工法なのでモルタルの収縮によるひび割れ等の発生がなく、意匠性に優れている。

4.単一業者による一貫施工なので、現場管理が容易である。

5.重量物が少なく、揚重作業が軽減でき安全性が向上する。

6.システム化された部材による作業のため、工期短縮を図ることができる。

7.モルタルを使用しないので他部材を汚す心配がなく、周囲の養生手間が省ける。

8.トータルコストの低減を図ることができる。

❹——設計上の注意点

パラボードシステムを採用するにあたり次の点に留意したい。

1.下部のベースホルダーをビスで固定するため、作業可能な立上がりの高さの確保とアゴの出寸法の調整。(笠木一体タイプは除く)

2.立上がりの高さが600㎜を超える場合ボードの補強が必要。

❺——おわりに

露出防水の躍進がめざましい中、まだまだ押さえ構法の需要は根強いものがある。

防水構法を保護仕上げまで一貫したシステムとしてとらえる考え方が今後の課題とされている中で、従来工法のように多くの業種が介在する構法から防水工事と保護仕上げ工事が一業種で行える構法へと転換していくことが急務である。

•

パラボードシステムはそれらの課題に対し、乾式化という方法で一つの解決策を提示した。

新防水構法として今後の普及が期待できる製品である。

松本　章／建材委員

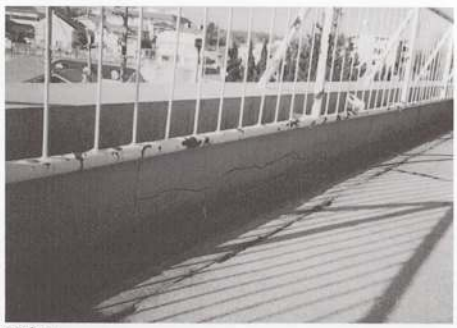


写真1



写真2

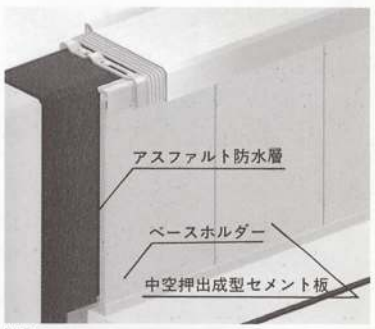


図1



完成



図2

建築の眼

建築家の職能の変化

ルネサンス期以来、建築家の職能は整備されもし、また制度から離れたところでも建築を創る思考専門家集団として認知されてもきた。近年、建築士法改正が話題ともなった。確かに生産側の建設産業のリストラがいわれ、しかも建築にかかわる産業は多様化し、しかも社会資本として単体の建築が、孤立して機能するユニテの思想が昔ばなしとなった現状では、建築家の職能の変化は目に見えて具体化しているといえる。

大学でも専門領域は拡大の方向にある。私達の大学でも建築学科は造形工学科に拡幅された。建築が総てだったのが、建築は一部になった。こうしたことは建築家の立場の変化ともなっているはずである。立場とは「より拠」とでもしておこう。以前の建築学であり土木工学、農学、家政学はたまた美学美術史、経済学がそれであった。現在もそれなのか、それとも別のものを手に入れたのか、である。自分の「より拠」が動いているということを、どこまで実感出来ているかに、今後の建築家としての職能を果たす能力がその人に有るかどうかは、かかっていると思う。文部省はリカレント教育といって、大学が社会人にかかわることを求めだしている。

河邊　聡　京都工芸繊維大学教授

ツーバイフォー工法に期待

ツーバイフォー工法が昭和49年にオープン化され、大阪府は、推進団体の組織化を通じ、フレイマーの育成や工法のPRなど普及に務めた。

爾来20年、この工法による新設住宅着工戸数は、平成４年度で54,006戸、シェアにして、3.8%となった。在来工法を補完する工法としてプレファブ工法に次ぐ、第３の工法として成長した。ツーバイフォーファンの一人として誠に喜ばしい事である。

18年前、アメリカ西海岸視察に際して、現地の木造中層集合住宅を見て、とても日本ではこうは行かないだろうと感じたが、建設省の実験住宅サミットハウスや民間企業のスーパーハウスを踏まえて、ついに、平成４年度建築基準法が改正され、木造３階建ての共同住宅が準耐火建築物として建築出来ることとなった。

そして、５年度、大阪府住宅供給公社が、全国に先駆けて、カナダと提携して、ツーバイフォー工法による賃貸住宅を建設することになった。誠に感慨深い。

単に、カナダスタイルの賃貸住宅が出来ると言うだけに留まらず、これを契機に、関西伝統のチャレンジ精神を発揮して、関係者の一層のご努力により、大いに普及することを期待する。引いては、府民の多様な住要求に応える、ゆとりある賃貸住宅の供給につながることを期待する。

笹川敏昌　大阪府建築部副理事

ナビゲーションシステム

飽和社会といわれ、消費は伸びず、不景気風が吹き荒れる中、数少ない売れ筋商品にカーナビゲーションシステムがある。市場も急速に膨らんでいると聞くが、更に道路交通情報システムとのドッキングが今後の課題と思われる。

そのメカは二通りあり、GPS(グローバルポジショニングシステム)方式と、自律航法システムとがある。前者は、上空21000キロの軌道を回る人工衛星３個からの電波を受け、液晶ディスプレーに位置を表示する仕組み。後者は、車輪の回転数と施回角をジャイロにより測定するもので、ジャンボ旅客機に搭載している慣性航法装置(略称INS、空中で機体の全方向への正負の加速度を超精密ジャイロにより算定するもので、超高価、しかも３台を搭載し、多数決による)を連想する。更にソフトとして、ディスプレーに写し出される道路地図全国分が一枚のCD-ROMに収まっていて、しかも縮小・拡大自由と、私の様な地図好き、かつ方向オンチには有り難いものである。然し一方、人工衛星の電波による壮大なシステムの割には、道路は狭く、不法駐車や渋滞でお粗末であるし、ハイテク商品全般にいえるが、人間の生来のカンとか、能力を鈍らせてしまう様な気がして、購入するとなると、いささか躊躇してしまう。

山下　勝　双星設計代表取締役社長

見えない力への抵抗

まだ正月気分の抜けきらない夜の一時、突然テレビに臨時ニュースのテロップが流れた。１月17日、ノースリッジ地震発生の第１報である。明け方当地を襲った直下型地震は死者34名を出した。このあたりのM６クラスの地震は約22年ごとに発生しているとのことだが、そういえば、23年前の71年にも死者25名を出したサンフェルナンド地震が起きている。89年10月死者63人のサンフランシスコ地震の記憶も新しい。今回の地震での被害は約70億ドルと見積られる。「人的被害が相対的に少ない、物的被害の大きい米国らしい被害」と東大地震研の太田教授が指摘されていたが、今世紀、関東大震災を経験する我が国と比べると確かに少ないかもしれない。注目すべきは、３階建アパートの倒壊により15名の死者が出、物的被害が人的被害に結びついている点である。我が国の地震発生の確立は100年に一回としても、近年その確立が高まっている今、地震に対して多少傷ついても建物の倒壊をさせない設計努力の重要性を再確認した。目に見えないなまずの力に愚痴をこぼさず立ち向かい、人と違って逃げることができない建物の気持ちを思い、日々の仕事におわれる今日この頃である。100年に一回は明日かもしれない。

藤崎安弘　㈱奥村組建築設計部長

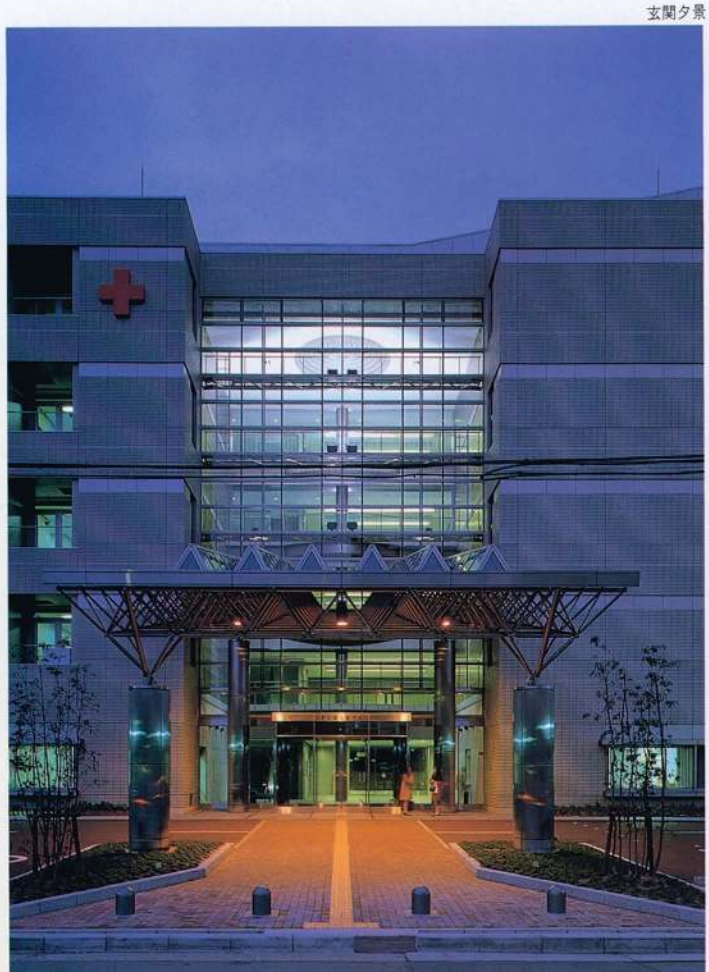
特集　伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈

■作品
愛知県白壁庁舎
沼津市立図書館
豊明市文化会館
文化センター サンアート
特別養護老人ホーム扶桑苑 扶桑町デイサービスセンター
国際環境技術移転研究センター
中部電力千代田ビル
名古屋センタービル別館
三重セキスイハイム本社ビル
マルカン酢伏見ビル
メイテック厚木テクノセンター
ニッタビル
アレックス
聖徳寺支坊 聖徳寺
中京ゴルフ倶楽部 石野コース クラブハウス
つくでカントリークラブハウス
稲武カントリークラブハウス
豊田中研福利厚生センター
豊田自動織機製作所シャインズ荘川
フォレスタヒルズ
富士電機三重営業所独身寮「ブルーアーク」
■Tokai Sketch Book
■遷宮
伊勢と遷宮／宇津野金彦
式年造替と桧／飯田喜四郎
神宮の御正殿と日本社会の理念・遷宮諸祭と聖化される御正殿／ローズマリー・ベルナール
御遷宮と神領民／井上静和
建築家のみた遷宮／桝林宏二
■神宮界隈
■おかげ横丁
おかげ横丁の企画意図／伊勢福
〝古さを創造〟した新しい町づくり／中村浩裕
■式年遷宮記念神宮美術館
遷宮の歴史と共に咲きつづける美の精華／河原光江
式年遷宮記念神宮美術館の設計について／種村　強
■斎宮歴史博物館
斎宮歴史博物館の建設について／榊　靖雄
斎宮歴史博物館の建築計画／前田佐智男
■建築家の見聞記
伊勢おはらい町の遊び心／井上昭彦
式年遷宮記念神宮美術館／福田泰造
斎宮歴史博物館を見学して／仙田　篤
■遷宮の建築技術を支える人々
「心」が第一／小工棟梁・岡田浩次
「やり甲斐」のある仕事／萱工・山本　剛
本物をつくって継承／錺職・森本安之助

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　森口雅文
副委員長　小宮三辰　林　金之
委　員　今津清直　岩田正弘　黒田清宏　後藤利秋　仙田　篤　細田泰彦　寺本英一　中村　尚　野口良一
畑中圭助　廣瀬敏郎　福田泰造　桝林宏二　松本壮一郎　森田富士男　盛田輝男　（50音順）

外観正面

玄関夕景



アトリウム見上げ



愛知県白壁庁舎

設計監理　愛知県建築部営繕課
　　伊藤建築設計事務所
施　工　建　築　フジタ・日本国土建設工事共同企業体
　　電　気　東邦・協和建設工事共同企業体
　　管　武田機工
　　空　調　足立・メイトー建設工事共同企業体
　　受変電設備　愛知電機製作所
　　電話設備　高見通信工業
　　昇降機設備　シンドラーエレベータ
　　環境整備　フジタ
　　植　栽　芝建

庁舎は愛知県庁から東方約600m、国道41号線より西へ道路1本入ったところにある。周りは住宅地で、幼稚園、公園などもあり閑静な環境にある。

県の研修会館が場所をかえ新築されることになり、その跡地に建設されたもので、これまで各所に分散していた県の機関と関係団体を集中化し、日本赤十字社愛知県支部及び、愛知県赤十字血液センターと一体化した共同ビルとしている。

周りの環境との調和には腐心し、特に北側の共同住宅、幼稚園への影響を配慮して、建物は5階建とし、敷地の南側に寄せて配置し、北側にオープンスペースを確保している。そのため北側の共同住宅、幼稚園への日影時間は以前より改善されている。オープンスペースの修景は歩道沿い等に植栽帯を設け、人と車のアプローチにも利用している。三方の隣地側は、外壁面を約5m後退させ、積極的に植栽等をほどこし隣接地への緩衝帯としながら、庁舎の通風、採光に有効活用している。

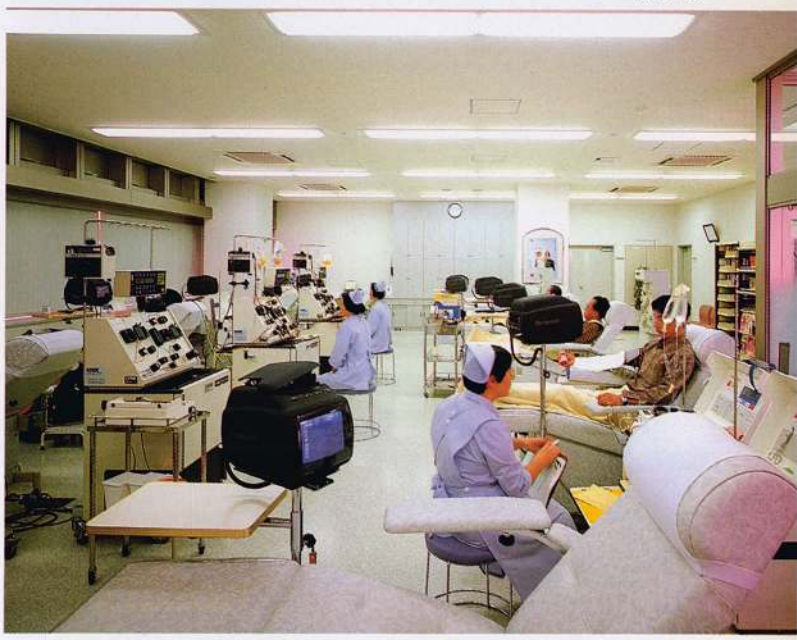
建物は県と日赤とで区分所有しているが、建築的には一棟の扱いであり、平面上は明解に区分している。五層吹抜のアトリウムは、ガラス・カーテンウォールで外部からもその区分をわかり易くし、職員や来訪者の語らいのスペースとして役立ててもらえればと考えている。

県民が気軽に立寄れる場と、親しみをもてる施設として利用されることを願っている。　（岡田満弘／伊藤建築設計事務所）

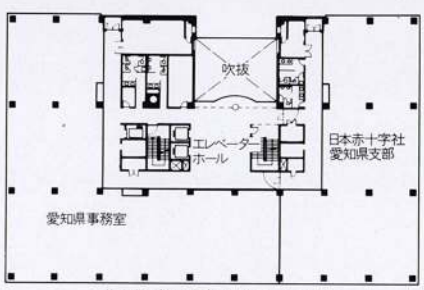
所在地　名古屋市東区白壁町地内
敷地面積　3,732.32㎡
建築面積　2,019.90㎡
延床面積　13,992.10㎡
構造規模　SRC、B2、5F
工　期　平成3年7月～平成5年9月
最寄駅　地下鉄名城線市役所駅
撮　影　加藤敏明、セントラルフォート



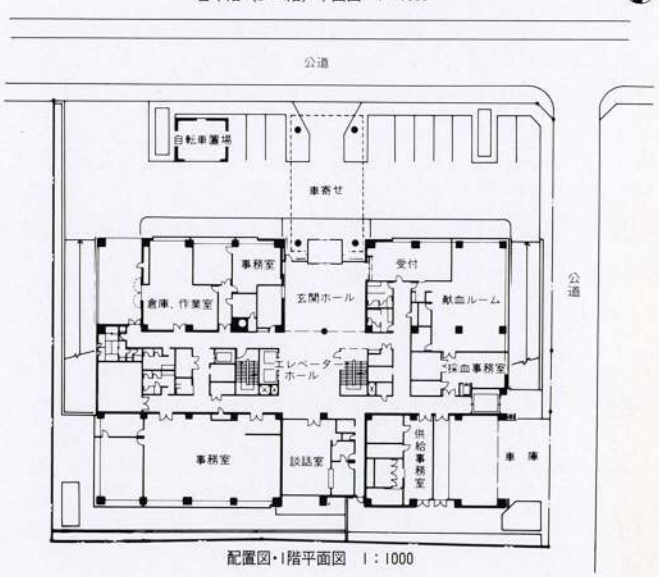
外観北西面



献血ルーム



基準階（2～4階）平面図　1：1000



配置図・1階平面図　1：1000

沼津市立図書館

設　　計　日建設計・名古屋
監　　理　沼津市　日建設計・名古屋
施　　工　大林組

所 在 地　静岡県沼津市三枚橋町9-1
敷地面積　3,700.01㎡
建築面積　2,599.18㎡
延床面積　11,440.35㎡
構造規模　SRC、一部S、B1、4F、P1
工　　期　平成2年10月～平成5年3月
最 寄 駅　JR東海道線沼津駅
撮　　影　福岡栄、柄松稔



正面側全景

沼津市立図書館は、多様化する市民の新しい知的欲求に応え、高齢化社会に対応する生涯学習と文化活動の拠点となることを目指して企画された。敷地は市街地の中心部でJR沼津駅にも至近距離に位置し、市民の幅広い利用が予想される。この立地を活かして市民生活に密着した「新時代の図書館」として将来とも柔軟に対応できる機能と、「開かれた図書館」として市民が気軽に利用できる図書館とすることを計画理念としている。

内部構成は来館者にわかりやすい図書館とするため、明快な平面・階構成としている。図書館全体の情報が受けられる総合レファレンス機能を持つカウンターを中心に1階を一般開架閲覧ゾーン及び児童図書室、2階を参考図書や郷土資料から成るレファレンスゾーン、3階を音と映像の資料ゾーンとし、各ゾーンとも平易な平面形のワンルームとして、自由なレイアウトと容易な管理に配慮している。

尚、収蔵本は全開架式としており、この点においても市民に開かれた図書館という理念の一端を表している。又、4階には時間外の単独運営も可能な会議室・視聴覚ホール・展示ホール・喫茶室等を配している。

建物中央には4層にわたる吹抜空間を設け、それぞれの閲覧フロアを視覚的・機能的に一体化を図って、楽しさを持った空間構成としている。そして吹抜最上部を外部に大きく張り出したトップライトとして自然光を積極的に取り入れ間接照明主体の人工光と併せて、明るく読書に優しい光環境としている。

外観は、「知恵の象徴」とされているフクロウ（古代ギリシャの女神アテナの聖鳥）を連想させる形として、わかりやすさと親しみ感などを表現すると共に、街の新しいランドマークとして市民に末永く愛される図書館としている。

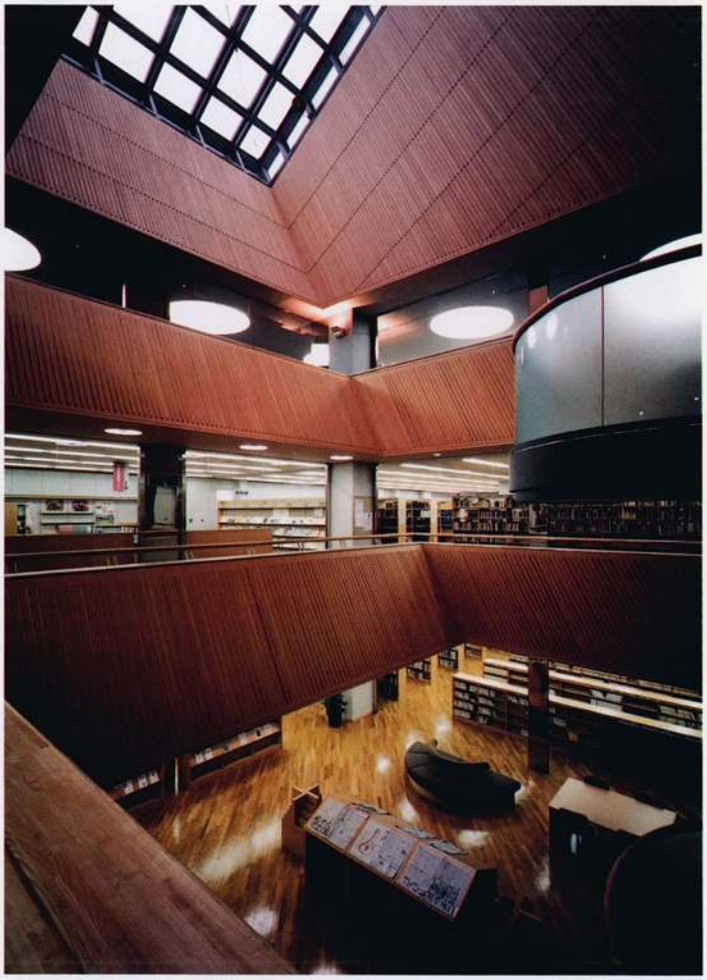
（南石周作・佐藤義信・村田政人／日建設計・名古屋）



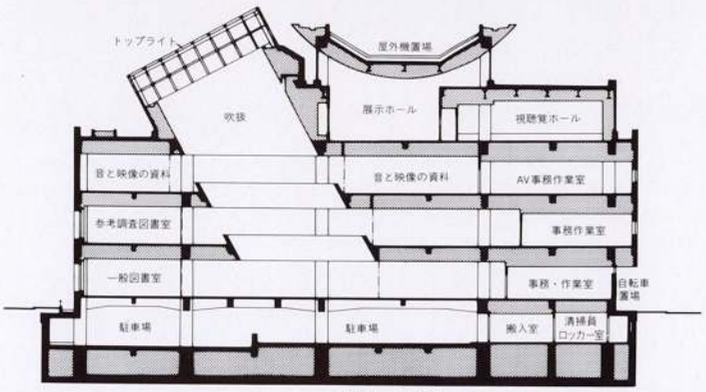
アプローチ見上げ



正面アプローチ夜景



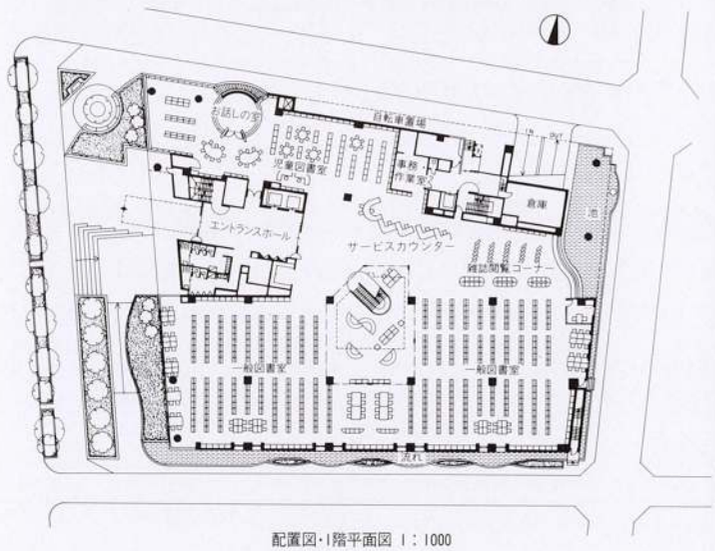
吹抜空間



断面図　1：600



1階一般開架閲覧ゾーン



配置図・1階平面図　1：1000



4階展示ホール

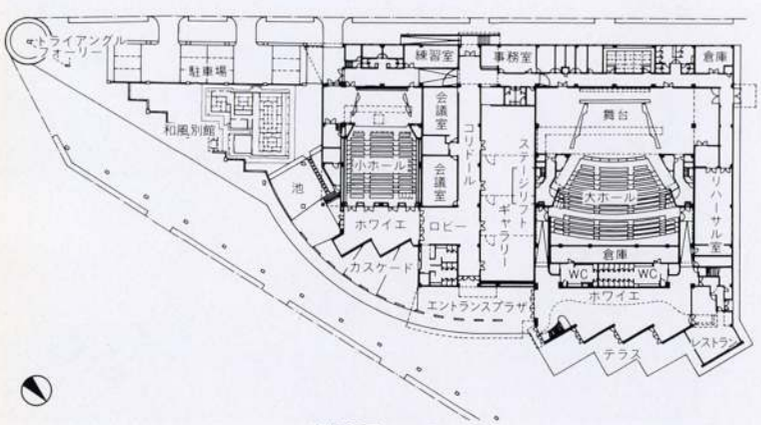


北側全景 メモリアルストーン

豊明市文化会館

設　　計　村瀬矧市計画事務所
監　　理　豊明市総務部財政課営繕係
　　村瀬矧市計画事務所
施　　工　東海・矢作・成幸建設工事共同企業体

所 在 地　豊明市西川町広原地内
敷地面積　12,128.29㎡
建築面積　4,570.27㎡
延床面積　5,076.665㎡
構造規模　RC、一部S、4F
工　　期　平成3年9月～平成5年10月
最 寄 駅　名鉄本線前後駅
撮　　影　フォトハウス　タナカ



1階平面図　1：1500

トライアングルがコンセプト

● 3つの施設のトライアングル

豊明市の中央に市役所と福祉体育館、そして文化会館、この3つの施設を中心に豊明市が文化面でも今後発展してほしいという願いが込められています。

● 3つの文化活動とトライアングル

「見る文化」「学ぶ文化」「作る文化」の3つの文化活動が、市民文化の向上と、文化、芸術の拠点となる文化会館をトライアングル構想として捉える。

● 3つの機能とトライアングル

文化会館には、ホールゾーン、ギャラリーゾーン、そして茶室ゾーンの機能があり、これら3つのゾーンをトライアングル構想として捉える。

● 3つの正面とトライアングル

敷地が三角形で、しかも3つの公道に面している。それぞれの公道に面して、東玄関、西玄関、北玄関が設けられ、3つの前面道路の性格に合致したユニークな敷地利用がなされる。

● トライアングル・プロット

施設の大きさの順番に、大ホール、ギャラリー、小ホール、茶室を配置し、高さ関係においても、大ホールの大空間から、茶室の小空間に至るまで順序よく三角形状の空間のバランスが生まれた。

● インテリアはトライアングルデザイン

大ホールの壁面と天井の反射板はトライアングルを基調にした〝楔〟を表わし記念事業の〝祝福〟の意味を持っています。小ホールの壁面と天井の反射板もトライアングルを基調に、特に壁面は〝扇状〟を示し、豊明市が未来に向けて発展する意味を込めたものです。施設の中央部には、東玄関と西玄関を直結するコリドールが設けられた。コリドールは施設全体を結ぶ〝道〟であり、天井は三角形、三角の天窓を頂く。

● トライアングルによる外構

三角形の敷地の角には3つのシンボルが設けられた。○△□のシンボル、○は西角のシンボル、□は東角のシンボル・メモリアルストーン、△は南角のシンボル、トライアングルフォーリー、三角形の凧の形は文化会館を象徴するシンボルである。三角形の敷地の周辺には、〝かがり火〟を表わした街路灯、ベンチ、キューブと共にストリートファニチャーの役目を果す。真に文化会館のコンセプトは、トライアングルづくめである。

（村瀬矧市／村瀬矧市計画事務所）

小ホール正面



南面全景 トライアングルフォーリー



ギャラリー



コリドール



茶室

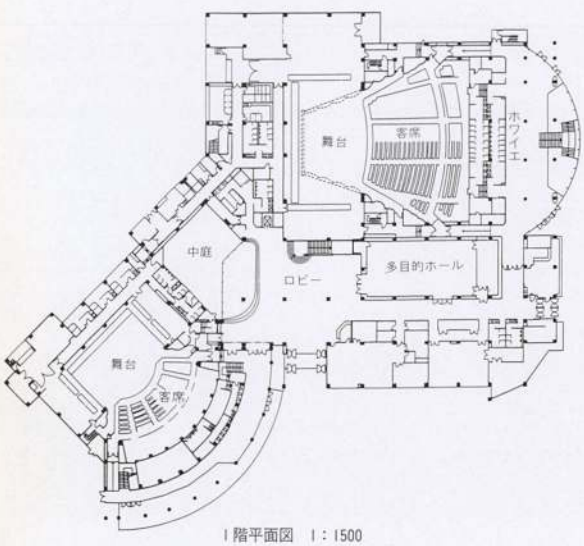


ロビーエントランス夜景

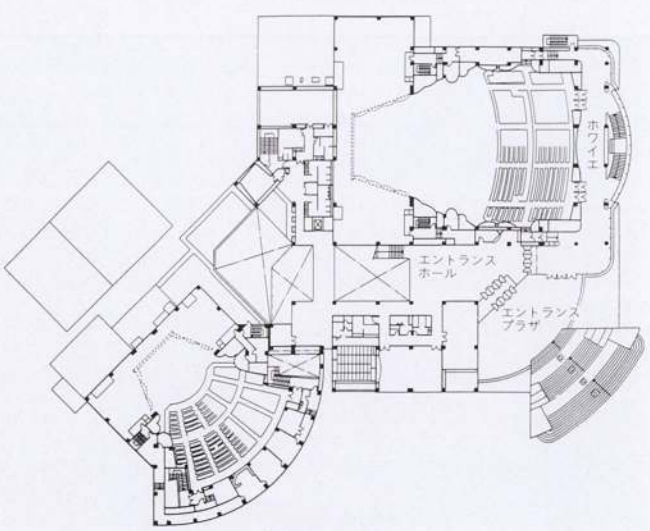
文化センター サンアート

設計監理　三好町都市建設部建築営繕課 東畑建築事務所
施　　工　大日本土木・矢作建設共同企業体
　　電気工事　川北・愛知建設工事共同企業体（川北電気工業・愛知電機工業所）
　　管 工 事　三機・愛三建設共同企業体（三機工業・愛三工業）
　　舞台機構　サンセイ
　　舞台照明　松下電工
　　舞台音響　松下電器産業

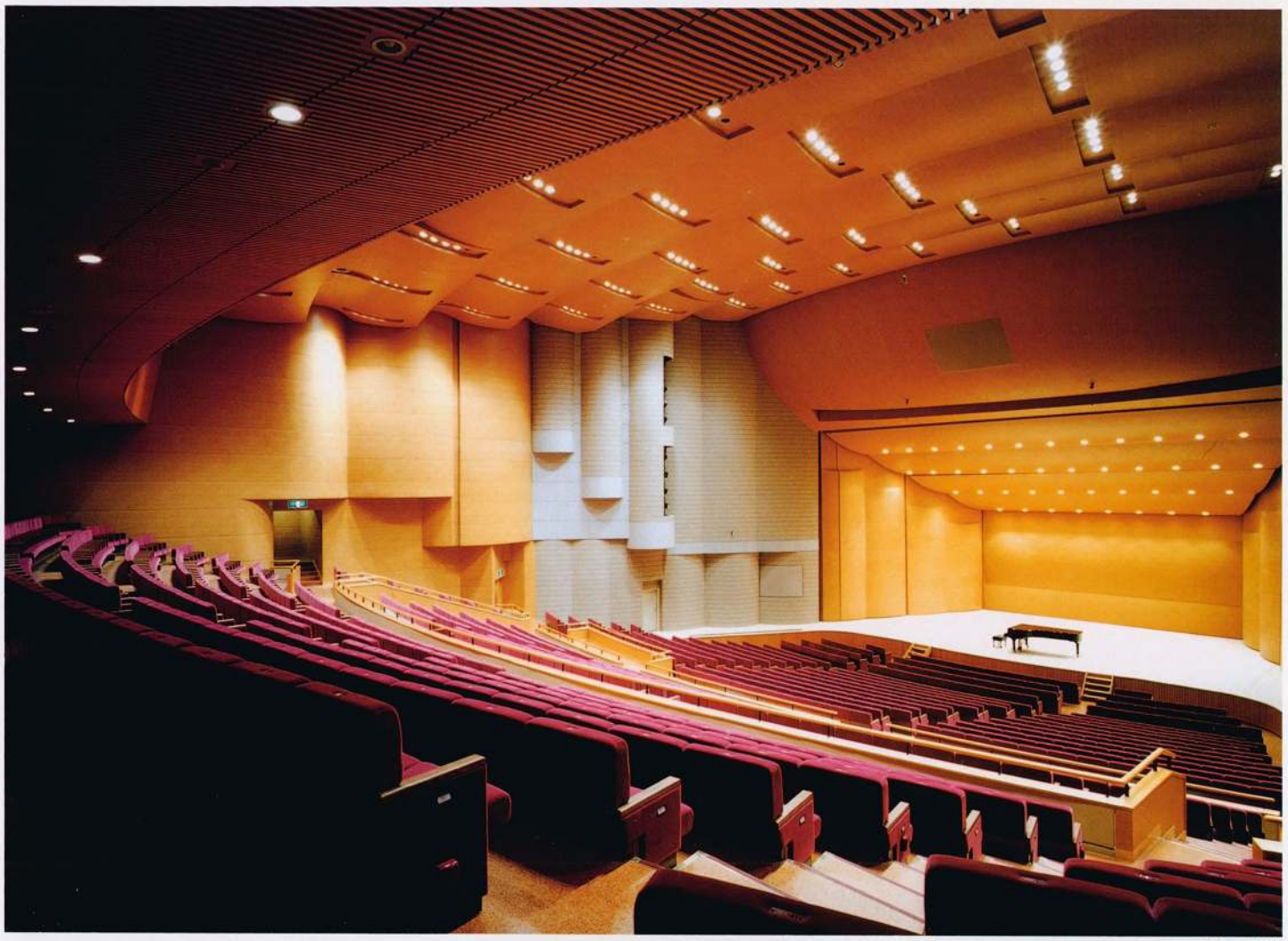
所 在 地　愛知県西加茂郡三好町大字三好字大慈山1-1
敷地面積　39,571㎡
建築面積　7,508.019㎡
延床面積　12,051.696㎡
構　　造　SRC、一部RC、3F
工　　期　平成3年4月～平成5年6月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線赤池駅
撮　　影　SS名古屋



1階平面図　1：1500



2階平面図　1：1500



大ホール客席

本施設は、勤労文化会館とふるさと会館の二つの施設で構成されています。サンアートは愛称「輝く太陽を受け、文化芸術を楽しむ場所」という意味から名づけられ、優れた芸術文化の展開の場として、また地域に根ざした新しい文化の創造の拠点として寄与できるものとし、多くの町民に愛され親しまれる施設として幅広く利用していただけるよう計画しました。

敷地のゾーニング計画については、隣接する保田ヶ池公園と一体となった文化公園ゾーンとしての環境と景観づくりを考慮し、敷地内にも植栽に依る緑を多く配置すると共に、遊歩道の整備など自然を多く取り込んだ文化施設となっています。

勤労文化会館は、見やすさと静かでゆとりある座席配置がされた1,033人収容の大ホールと421人収容の小ホールを中心に、レセプションホール、各種会議研修室、野外コンサートやイベント用の屋外町民広場などを完備し、様々な文化芸術の発展の場として条件を備えています。

ふるさと会館は、大慈庵と栄松軒の二つの本格茶室と、江戸時代に活躍した同町出身の南画家、伊豆原麻谷の山水画をイメージした日本庭園からなり、庭園内には同町と友好提携している長野県三岳村から流れる木曽の水を利用した夢水池、同村の石を使った小径等が配置されてます。

（東谷泰成／東畑建築事務所）



空撮全景



ロビー



ふるさと会館



南側外観

特別養護老人ホーム 扶桑苑
扶桑町デイサービスセンター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　鴻池組

所 在 地　愛知県丹羽郡扶桑町大字山那字番所下
敷地面積　7,500.55㎡
建築面積　2,095.03㎡
延床面積　3,611.29㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　平成4年8月～平成5年3月
最 寄 駅　名鉄犬山線柏森駅
撮　　影　SS名古屋



アプローチより見る



ブリッジと中庭



地域に開放するジャングル風呂(1階)



2層吹抜けの食堂



2階談話ホールと寮母室カウンター



2階廊下

愛知県北東部の扶桑町における定員100名の特別養護老人ホームの計画である。敷地は町が無償貸与し、民間の高坂福祉会が建設し運営する。

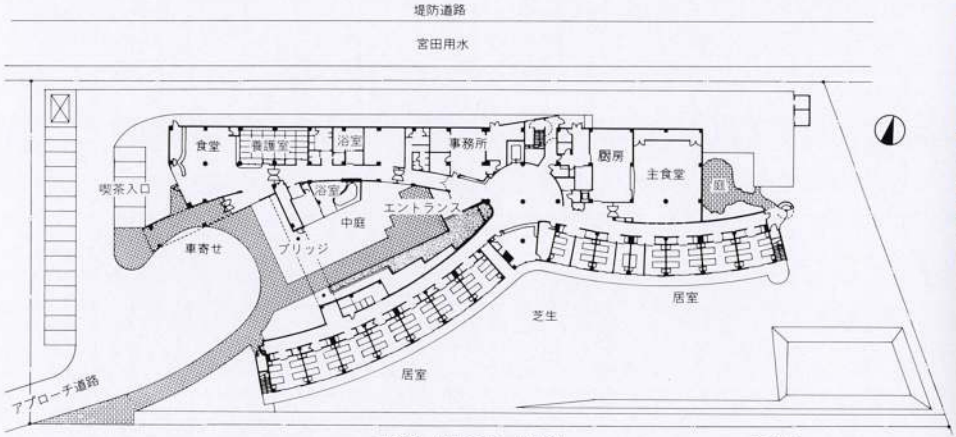
周囲には守口大根の畑が広がり、北東方向にはゆったりと流れる木曽川と犬山城が展望できる堤防道路沿いの敷地である。今回の計画での留意点は、①入所者ができるかぎり自立した生活ができ、②地域の人や家族が気軽に立寄れる雰囲気を作り、③周辺の自然を計画に最大限取り入れるようにすることである。

入所者が寝起きする居室は、南側の芝生の広場を囲む形で2階建ての家のように配置し、廊下は片廊下として居室の居住環境が低下しないように配慮している。主食堂は2階からも1階の様子が伺える様に2層吹抜けとし、デイサービスセンターの食堂・養護室はアプローチの近くに設け、喫茶店として地域の人も利用できる計画としている。浴室は犬山城を望む3階の「展望のゆ」の他に2階に機械浴室、1階に地域の人にも開放するジャングル風呂、ジェットバスを設けている。

入所者にとってひとつの世界となりがちな老人ホームでは、変化のある多様な風景を用意しておきたい。扶桑苑では、隣接する南のグランドでのソフトボールや、中庭を通って訪れる人、庭の花や木といったいろいろな風景が眺められるようにしている。

お年寄りは本来、家庭や地域で過ごすのが最も理想的である。家庭や地域の介護力が低下している今、いかに地域に溶け込んだ施設とするか、入所者の個別空間を確保した上で、自立の手助けとなるサービスが提供できる計画とするかが設計に携わる者の大きな課題であるといえよう。

(篠原佳則／安井建築設計事務所)



配置図・1階平面図　1：1200



エントランス



西面外観　三角と丸屋根



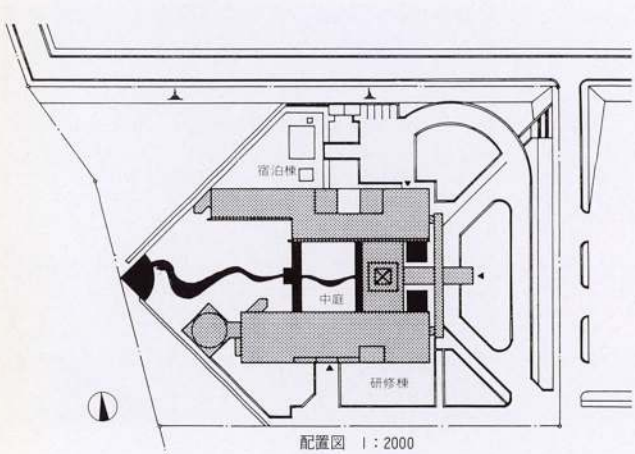
中庭　五十鈴川の流れるイメージ



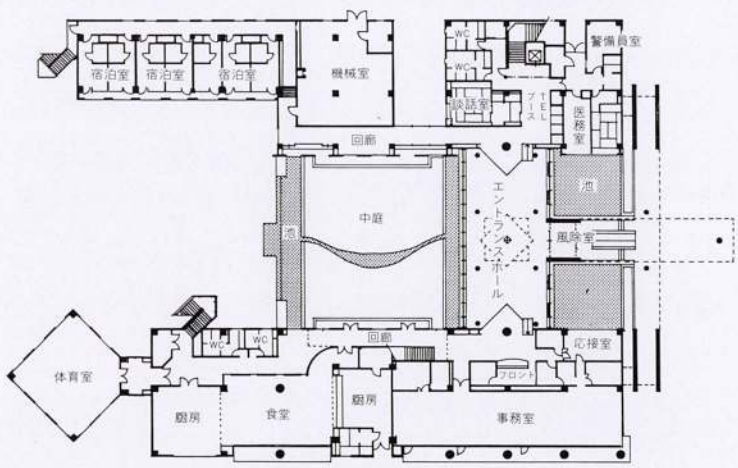
国際環境技術移転研究センター

設計監理	A&T建築研究所名古屋事務所
施工	大成・東急・生川・小林建設共同企業体
管工事	大成設備東海支店
電気工事	きんでん
太陽電池	昭和シェル石油太陽電池事業部
自動制御	横河ジョンソンコントロールズ名古屋支店
パコディンヒーター	若松物産
空調機	松下電器産業

所在地	三重県四日市市桜町字一之谷3646-1番地外120筆
敷地面積	10,750.25㎡
建築面積	1,767.45㎡
延床面積	3,525.72㎡
構造規模	RC、S、3F
工期	1991年11月～1992年10月
最寄駅	近鉄湯の山線湯の山温泉駅
撮影	センターフォト



配置図　1：2000



1階平面図　1：800

東南面アプローチ　鳥居としての渡り廊下をくぐりエントランスへ入る

●地球環境問題と建物のイメージ

地球環境問題を考える時、現代の産業技術の発展なくして考えられない。日本の産業技術を駆使して、この地球環境問題を解決していく事が、重要な課題と考えられる。本設計においては、新しい技術としての材料(アルミ・ラスタータイル)を外壁に使用する事により、ハイタッチなイメージを造り、中部地域の産業の中核施設となるよう考えた。又、宇宙空間をイメージする三角と丸屋根を使用する事により、宇宙規模における地球環境問題を考えると同時に産業技術の発展をイメージした外観とした。

●三重県の中核施設としてのイメージ

日本における歴史的建造物としての伊勢神宮を現代の建築空間に取り入れる事を考え、三重県の中核施設としての位置づけを考えた。建物の中央を流れる水は、五十鈴川の流れを現代風にデザインしている。この水の流れを中心に、鳥居としての渡り廊下をくぐり、池にかかった橋を渡るとエントランスに入る。現代風の中庭には、中央の川の向かいに滝が流れ、日本庭園の流れの奥には、社をイメージしたモニュメントを配置している。

●日本的やすらぎの内部空間

研修・宿泊施設としての安らぎと潤いを持ったソフトな内部空間を提供するため日本の伝統的手法である格子、水に映る影を作ることにより、安らぎのある日本的内部空間を構成している。

(A&T建築研究所名古屋事務所)



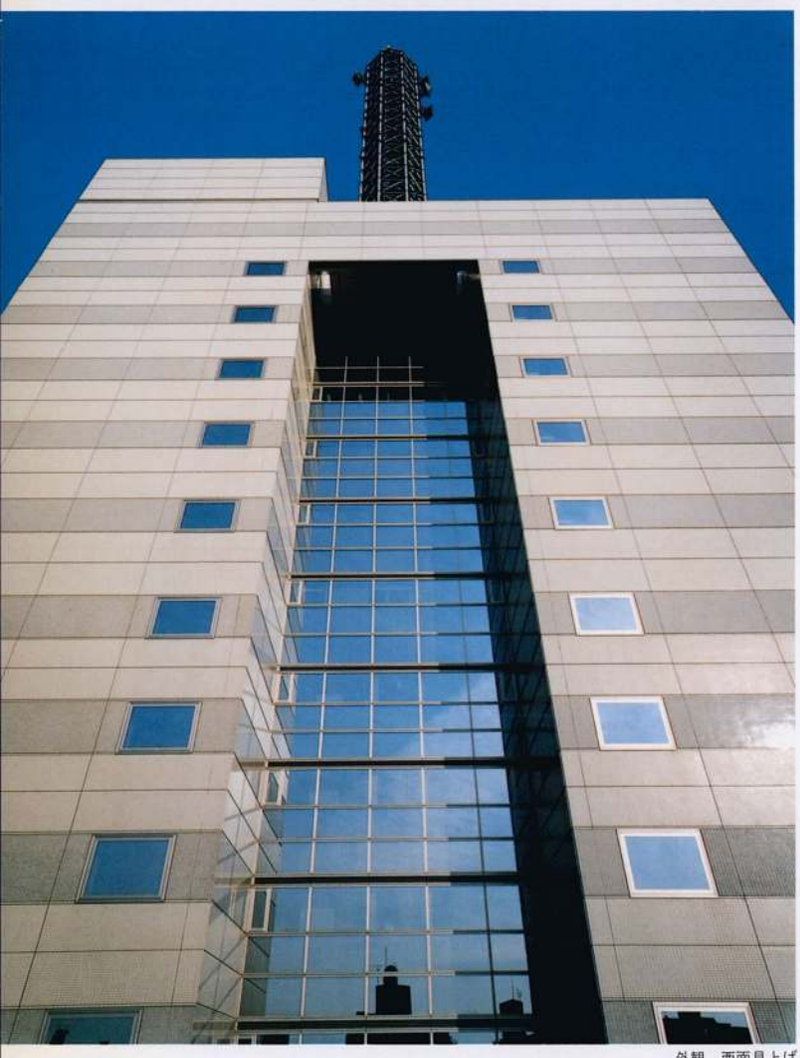
夕景



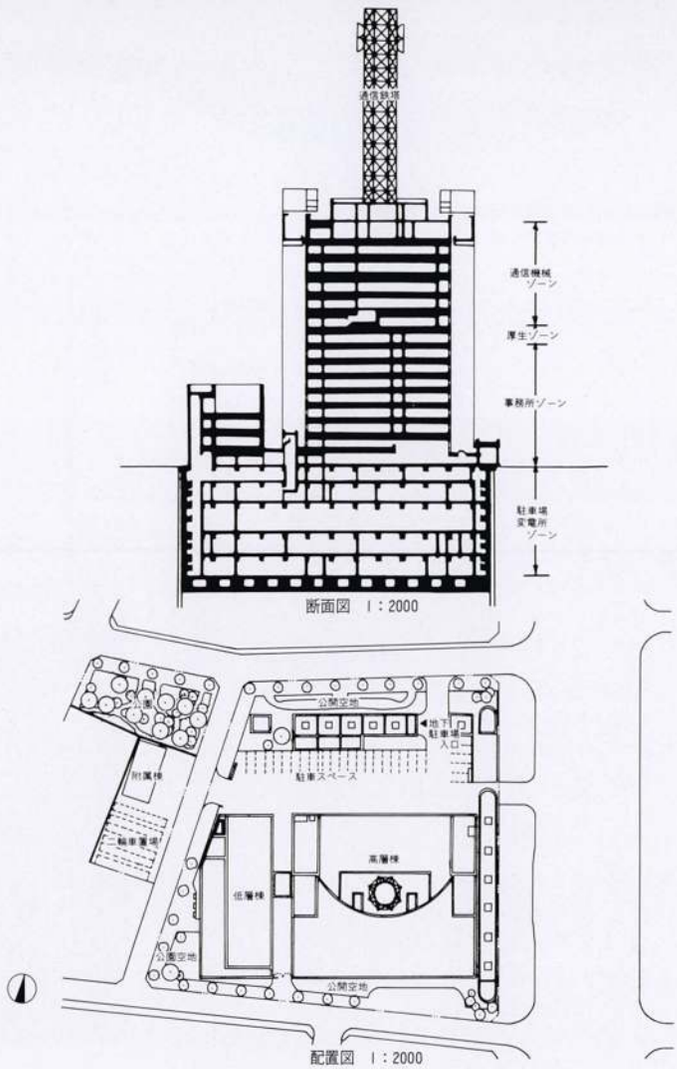
外観　南西面遠望



外観　夜景



外観　西面見上げ



断面図　1：2000

配置図　1：2000

中部電力千代田ビル

設計　基本：中部電力　実施：日建設計・名古屋
監理　中部電力　日建設計・名古屋
施工　鹿島・大成・大林・佐藤共同企業体
　　電気　トーエネック・東光・川北・中央共同企業体
　　空調　トーエネック・大気社・川崎共同企業体
　　衛生　ダイダン

所 在 地　名古屋市中区千代田２丁目12-4
敷地面積　9,221.42㎡
建築面積　4,077.45㎡
延床面積　63,213.19㎡
構造規模　地下部SRC、地上部S、B6F、15F
工　　期　1989年３月～1993年11月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線鶴舞駅
撮　　影　SOAR STUDIO

中部電力千代田ビルは電力の安定供給を計るため、地下に超高圧変電所、地上に支店・営業所用途を有する事務所機能に加え、通信所・制御所等の高度情報機能を併せもった複合の中枢建物である。親しまれる企業イメージを高めるよう、周辺道路に接した別敷地を含めて総合設計制度を適用し、積極的な広場・緑化整備を行い、周辺との調和をはかっている。

支店・営業所・電力所・通信所・制御所等が入居する高層棟と、地下超高圧変電所のコントロールセンターとなる低層棟の二棟を、北側周辺住居への日影の影響および建物の圧迫感を出来る限り少なくするよう敷地の南側に配置し、北側に生じる空地は作業用大型車の駐車場と地下超高圧変電所の大型機械搬入搬出作業を行うための構内作業スペースとしている。

平面構成は地下超高圧変電所および通信鉄塔との整合性と共に、インテリジェント対応の機能、情報機能ビルとしての特殊性（系統の２ルート化・セキュリティ確保・設備機器の拡張・更新への対応等）を配慮し、併せて省エネルギーを目指した平面計画となっている。

外観は、周辺の建物との調和および多用途のための各階の階高の違いを感じさせないことなどを意図し、磨きモザイクタイルを使用した横ラインのデザインでまとめ大規模建築の威圧感をなくしている。

また、地上165mにおよぶ通信鉄塔は正八角形の二重チューブ鋼管トラスト構造により横揺れにも強い剛性の高い鉄塔としている。尚、地下６階(GL-33m)におよぶ大規模な地下工法については、工事の安全性・工期の短縮を考慮して逆打工法が採用されている。

（三浦忠誠・川瀬友造・井村峻／日建設計・名古屋）


公開空地


事務室


社員食堂


指令制御室


航空写真

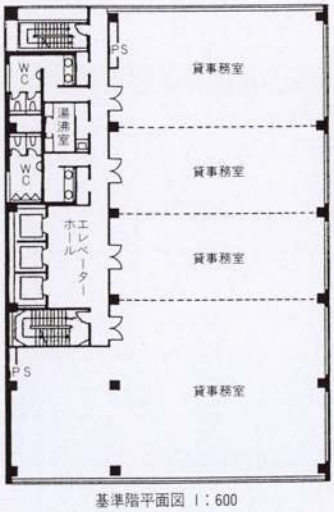

開閉器(GIS)室

名古屋センタービル別館

設計施工　竹中工務店



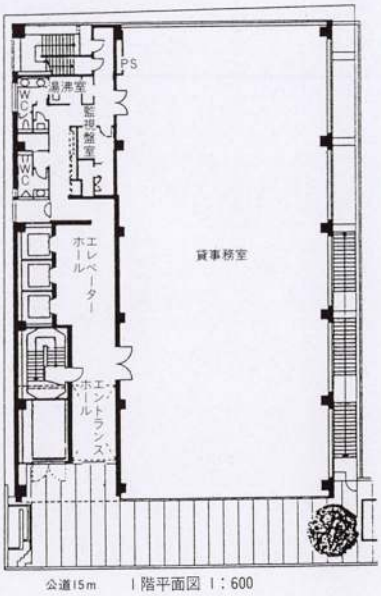
外観正面



基準階平面図　1：600



ファサード見上げ



公道15m　1階平面図　1：600

所 在 地　名古屋市中区錦２丁目2-22
敷地面積　1,097㎡
建築面積　 856㎡
延床面積　8,898㎡
構造規模　SRC、S、B2、8F、PI
工　　期　1992年２月～1993年５月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線丸の内駅
撮　　影　河野　豊

建築地は名古屋市中心部で、古くからの繊維問屋街の北端に位置しているが、近接する桜通りは一昨年地下鉄も開通し、駅前から容易にアクセスできるビジネスの拠点として、大きく変貌しつつある。
昭和37年に本館は竣工したが、当時BCS建築賞をはじめ多くの賞を受けており、以来永く当地の代表的なオフィスビルとして親しまれてきた。別館はこうした社会的背景の中で、本館の西側に隣接して、インテリジェント対応の高機能ビルとして、計画されたものである。
本館が竣工して30年余。新しいオフィスのニーズにもとづきインテリジェント化により階高やスパンは、より大きくゆとりあるものに変わって来ている。内部空間のこうした変化を踏まえた上で、本館と別館とのデザインの調和を図ることが、今回の設計の重要なテーマであった。
四周に配されたバルコニーにより、水平線の強調された重厚なイメージの本館と比較して、アルミと高性能熱線反射ガラスの構成によるカーテンウォールは、均等に水平に分割され、階高の存在を消し、軽快でハイテクな表情を作っており、伝統と現代の調和が図られている。
また、全面に設けられたオープンスペースは本館より、連続しており、狭い街区において、道ゆく人々にゆとりを与えているし、カーテンウォールに映る空の広がりが上部空間を開放し、光と風をもたらしている。
オフィスの内部は、スパン16.3mの無柱空間で、天井高2.7m、床には全面H-50のOAフロアが敷き込まれている。水廻りは大きくゆとりを持たせ、脱臭トイレ、あるいは、レストルームのハイカウンター等、オフィスワーカーにくつろぎの時を与えている。　（土井敬三／竹中工務店）


エントランスホール


1Fエレベーターホール


基準階湯沸室


基準階事務室



西よりのぞむ

三重セキスイハイム本社ビル

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　矢作建設工業



北面外観

所 在 地　三重県津市寿町120番地
敷地面積　1,319.14㎡
建築面積　436.71㎡
延床面積　2,863.77㎡
構造規模　SRC、S、B1、6F、P1
工　　期　平成4年7月～平成5年6月
最 寄 駅　近鉄線津駅
撮　　影　SYUEI

敷地は津市の南東方向、海辺に近いフェニックス通り沿いにある。周辺は住宅が多く、高層の建物が少ない地域にあり、３方道路に囲まれている。

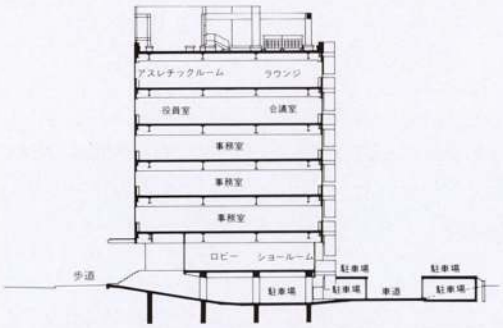
日常、社員は車を利用することが多く、周辺の環境への配慮から、アプローチは北側前面道路のみとした。また駐車スペース部分は道路レベルより半階下げ、植栽で囲むことによって、騒音の問題や道路を歩いている人々の目線を考慮した。

外観は１階玄関廻りを花崗石貼とし、四周をガラスと磁器タイルで構成し、一部ラスタータイルを使用してアクセントにしながら、端正さを表現した。

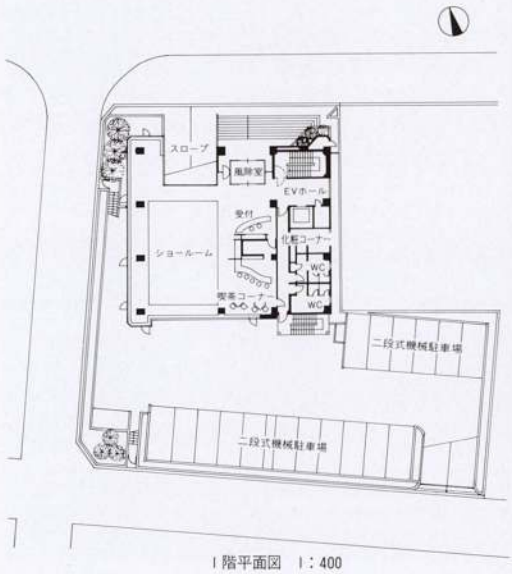
１階ロビーについては、ホテルラウンジのような優雅さを演出するとともに、個展などが開催できるギャラリーとして、地域の人々に開放していくことを意図して計画している。

また、６階は、アスレチックルーム、シャワールーム、茶室を設けて事務所内で心身のリフレッシュができるように社員への配慮が十分にされている。海辺が近いこともあって、各フロアーからの素晴らしい眺望も、この建物の一つの特徴である。

（中島誠男／安井建築設計事務所）



断面図　1：400



1階平面図　1：400



エントランスホール



ショールーム



オフィス

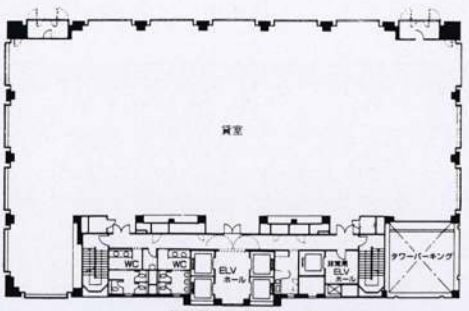
マルカン酢伏見ビル

設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中工務店、清水建設

所 在 地　名古屋市中区錦１丁目10-1
敷地面積　1,981㎡
建築面積　1,331㎡
延床面積　15,943㎡
構造規模　S、B1、12F、P1
工　　期　1991年10月～1993年２月
最 寄 駅　地下鉄東山線伏見駅
撮　　影　河野　豊、青山賢三



北西面外観



基準階平面図　1：800



外観ディテール

■はじめに

建築地は名古屋の中心部にあり、周辺は江戸時代からの整然とした街区割の面影を残しながら、街区環境の整備が進んでいる場所です。また周辺には下園公園や御園小学校など良質な景観の要素が残っています。設計するにあたって、これらのことに留意しつつ将来にわたって内外の変化に対応しうる建物を造ることを基本方針としました。

■デザインについて

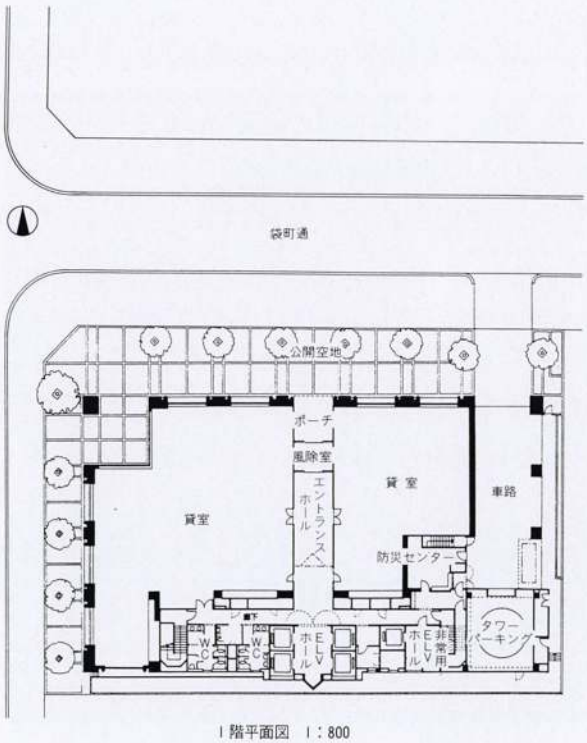
場所の歴史性、オーナー、テナントの特性(バイオ・コンピュータ)を捉えてデザインの切口を『歴史性と未来性の交錯』としました。すなわち、かって近くを流れる堀川が物流・往来の動脈であったころの風景<石積の護岸、桟橋、帆柱、さざ波>をイメージの源泉とし、それに現代の息吹であるハイテクなイメージの素材、ディテールをオーバーレイし、デザイン要素としました。

■建物の特徴

周辺の公園、街路等と調和することを狙い、総合設計制度を活用して緑地を持った公開空地を街路に面して設け、併せて街の軸線に沿うシルエットを持った外観を創りました。建物の外装には地場の製品であるホーロー鋼板と電解研磨処理されたアルミカーテンウォールを組み合わせ、清新でリッチなイメージを醸し出すことを狙いました。

内部は全館OAフロアを敷くなどインテリジェント対応のビルとするとともに、コンパクトではあるが共用部のアメニティを高めることに留意しました。また環境への配慮として、リサイクル可能な材料選択、オール電化、省エネ設備、省ハロン、省フロン、施工にあたっては廃棄物の削減に留意して工事を進めました。

(宮武　仁／竹中工務店)



1階平面図　1：800



エントランスホール



エレベーターホール

メイテック　厚木テクノセンター

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　飛島・ナカノ建設共同企業体

東丹沢の麓に、濃い緑の山々に囲まれて立地する。
多分野にわたるソフト開発、人材育成の研修拠点。
人が「自然」に接し「未来」を語るよう研修室に
隣接、分散して設けられた7つのミニアトリウム
は、虹の色に塗り分けられる。
薄暮の中に浮かび上がる、虹の窓は「ゆめ」を求
めるメイテック社のアイデンティティを創出する。
（南石周作・若林　亮／日建設計・名古屋）

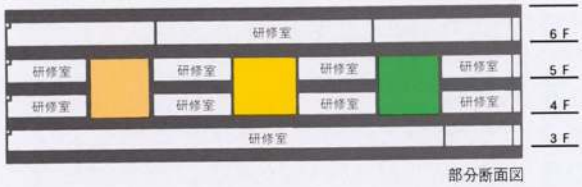
所 在 地　神奈川県厚木市森の里青山15
敷地面積　7,228.25㎡
建築面積　1,891.97㎡
延床面積　14,572.36㎡
構造規模　本部棟　S、SRC、B1、14F、P1
　　講堂棟　SRC、B1、3F
工　　期　1991年7月～1993年2月
最 寄 駅　小田急線本厚木駅・愛甲石田駅
撮　　影　SS東京



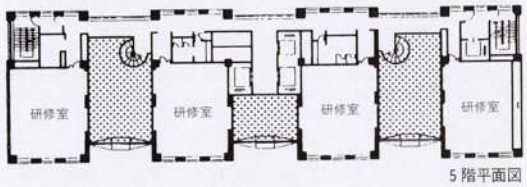
ファサード



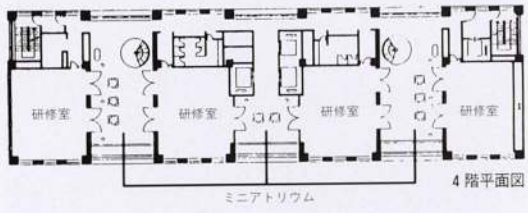
夕暮、薄暮に浮かび上がる七色（虹）のミニアトリウム



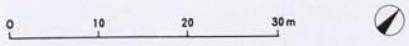
部分断面図

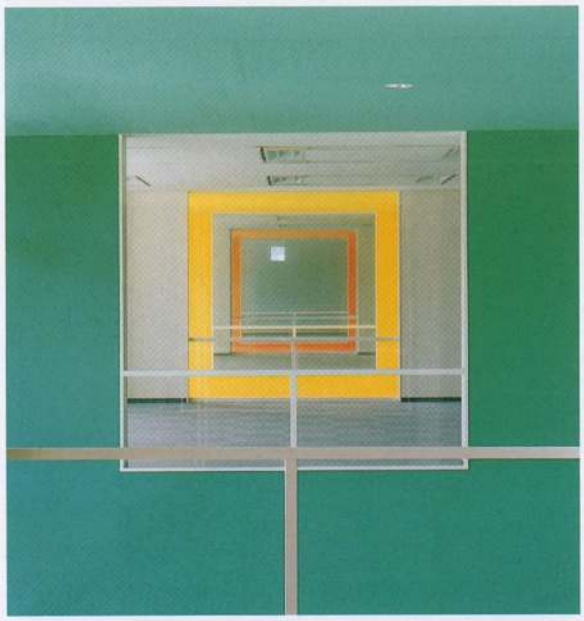


5 階平面図



4 階平面図



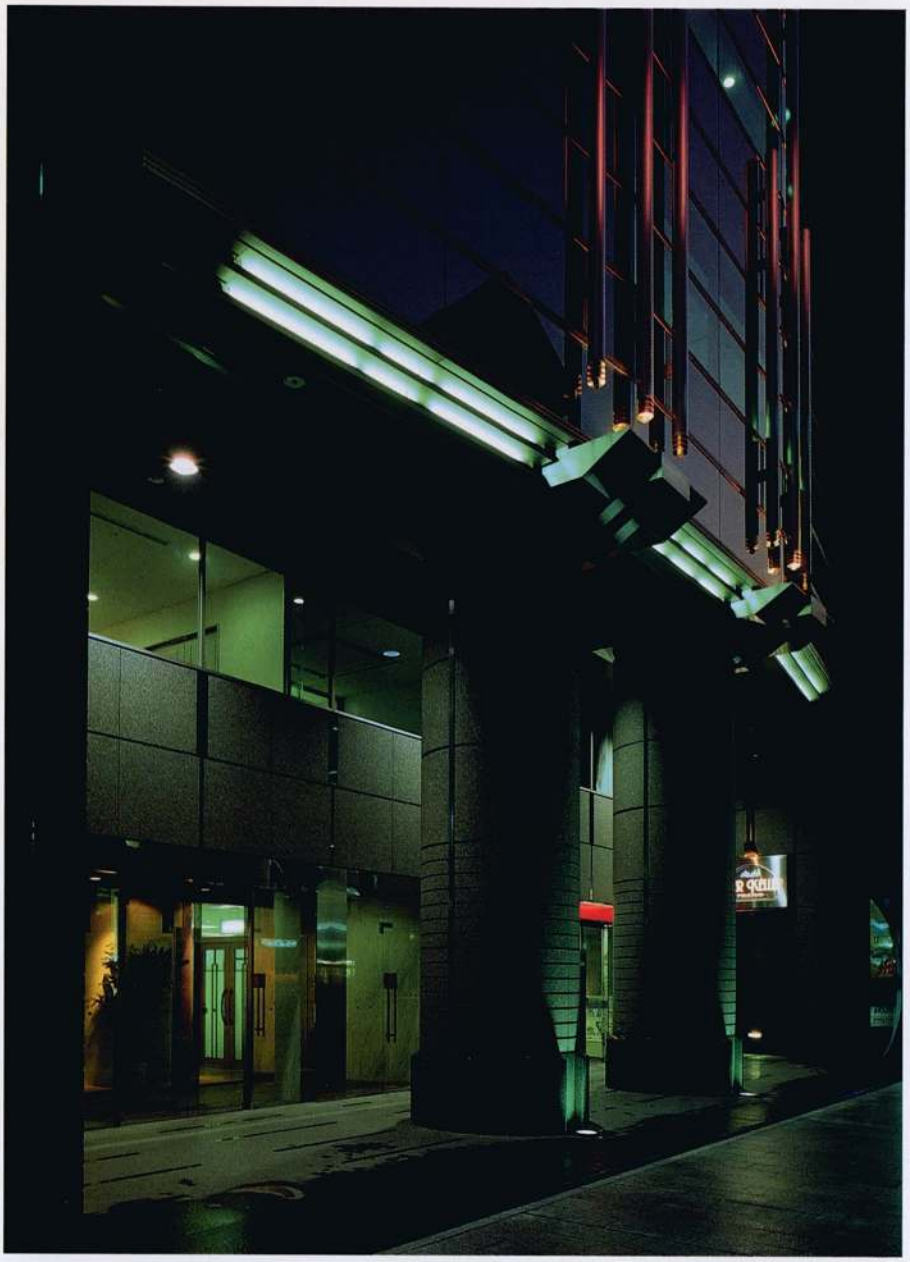

研修室から 3 つのミニアトリウムを見通す


ブラウジング、リフレッシュ、情報交換のためのミニアトリウム


ディテール：ミニアトリウムの開口、手前左は講堂棟のシリンダー

ニッタビル

設計監理　清水建設一級建築士事務所
施　　工　清水建設・奥村組共同企業体



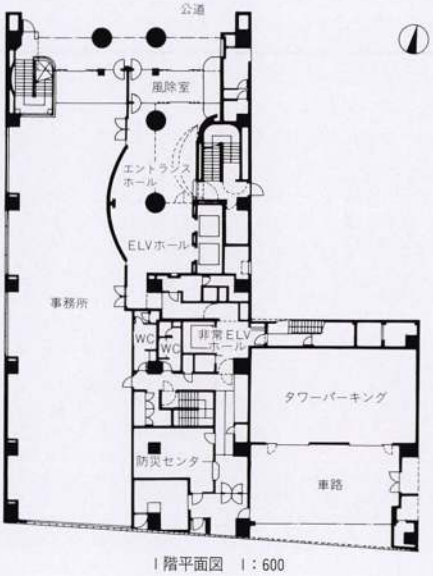
外観（エントランス夜景）



外観（広小路側）



外観（見上げ）



1階平面図　1：600

所 在 地　名古屋市中村区名駅南1-1707、1710、1711
敷地面積　1,142.78㎡
建築面積　981.72㎡
延床面積　9,951.13㎡
構　　造　SRC、S、B1、11F、P1
工　　期　平成3年3月～平成4月9月
最 寄 駅　JR名古屋駅
撮　　影　アラ井建築写真事務所、フォト昴

この建物は、名古屋の目抜き通りである広小路の名駅近くで、商業と業務施設が複雑に混在する場所に誕生したテナントビルである。
この地に大正末期から居を構えていたニッタ株式会社のコリント様式の建物を取り壊し、最新の設備を持ったテナントビルとする話が持ち上がったのと、殆ど足並を揃える様に広小路通りの整備が始まった。
そこで我々がとくに考慮した点は、いかに街並への融和を計りつつ、オフィスビルとしての気品を持ったアイデンティティのある建物とするかであった。その解決策として2つのデザイン的な試みを行った。
1つは、建物の記憶を残す事。
旧ニッタビルの持っていた様式的な部分を建物各所に残す事に依り、歴史性を感じられる建物にする事。
2つ目は、建物のイメージがギリシャ神話で言う女神「ダイアナ」に重なる事から、月を題材にしたモニュメントや装飾を行い、物語性を感じられる建物にする事であった。
これらの演出に依り、ミラーガラスのカーテンウオールを持った地上11階建の先進的なインテリジェントビルでありながら、街並に対しての配慮を感じられる親しみの有るビルとして、新しい広小路通りの景観に貢献出来る様願っている。
（原田慎一／清水建設 設計本部名古屋支店設計部）


エントランスホール


2Fロビー


地下エントランス階段


外観（エントランス）（彫刻：藤原吉志子作「月を運ぶ」）

アレックス

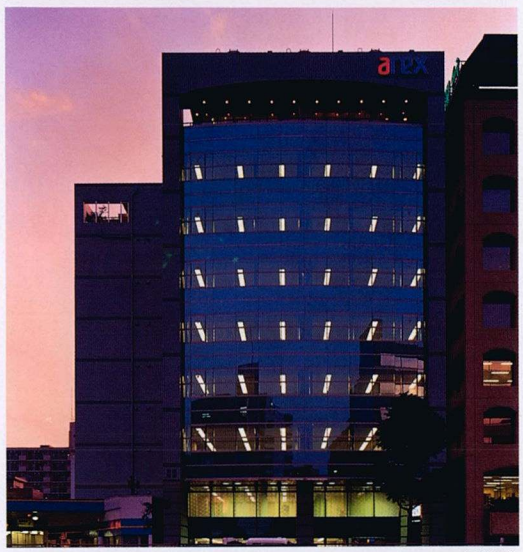
設計監理　鴻池組名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店



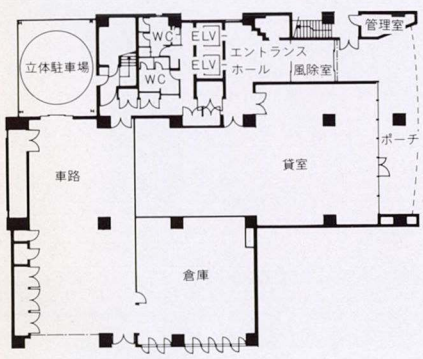
正面側外観



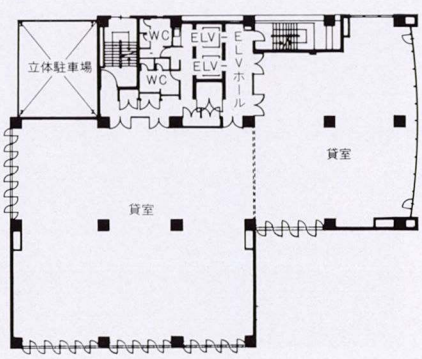
正面ポーチ



東側夜景



1階平面図　1：600



3階～8階平面図　1：600

所 在 地　名古屋市中区丸の内一丁目404-1、404-2
敷地面積　919.70㎡
建築面積　711.73㎡
延床面積　6,135.15㎡
構造規模　SRC、9F
工　　期　平成4年2月～平成5月6月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線丸の内駅
撮　　影　そあスタジオ

当ビルは、名古屋の南北の幹線道路である伏見通りに面し、地下鉄鶴舞線丸ノ内駅の直近で、北には名古屋城の外堀を隔て三の丸の官庁街に接する等、交通、環境とも恵まれた、賃貸オフィスビルです。

地上８階までをテナント部分、９階はビルオーナーの専用住宅として、立体駐車場も西側部分に併設しています。

建物の外観は、そのオフィスビルとしての機能性と、それを取り巻く環境に調和したデザインとするため、正面はバックマリオンカーテンウォールと高性能熱線反射ガラスによる大曲面として、その周壁部とその他の外壁をタイル張としたソフトで、軽快なファサードとしています。

また、１階、２階は前面道路よりセットバックしたピロティーとし、白大理石で明るくデザインされたエントランスへ、自然にアプローチできる計画としています。

内部はエレベーターホール、オフィス部分とも、落ち着きの中にも明るい、アメニティー性の高いインテリアとしてまとめました。

（仙田　篤／鴻池組名古屋支店設計部）



南側夜景



玄関廻り


1階エレベーターホール



外観　東南面

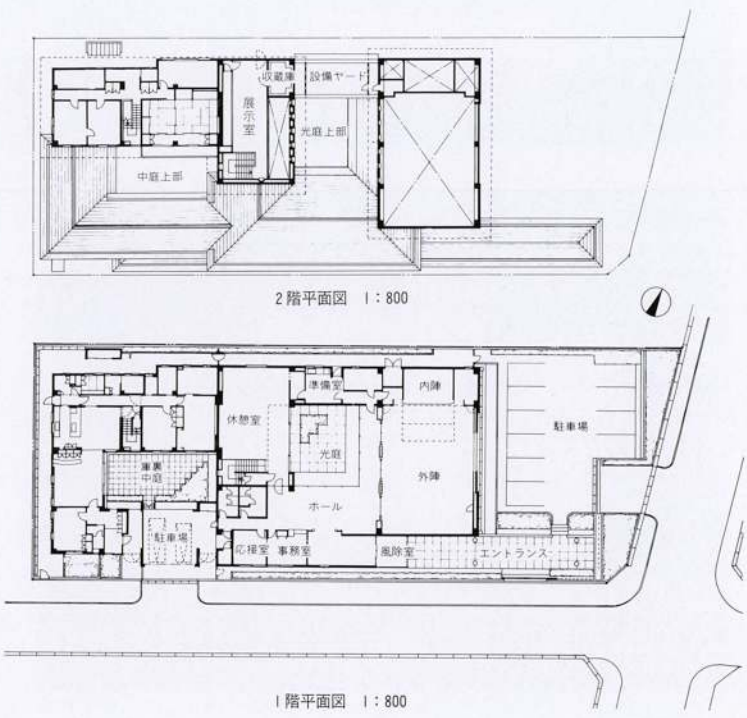
聖徳寺支坊 聖徳寺

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市名東区平和ヶ丘４丁目300番
敷地面積　1,653㎡
建築面積　892㎡
延床面積　1,032㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1992年10月～1993年９月
最 寄 駅　地下鉄東山線一社駅
撮　　影　加藤敏明



外観　東面



2階平面図　1：800

1階平面図　1：800



ホールより光庭を見る

聖徳寺は真宗大谷派に属し、東別院建立前には、尾張領内における触頭をなした由緒ある寺である。天文18年(1549年)4月、織田信長がこの寺で斎藤道三と会見して以来、出陣の日にはこの寺で軍立が行われていたと言われており、寺宝として開基の閑善上人木像をはじめ、徳川家光朱印、武田信玄、豊臣秀吉、石田三成などに関する古記録を多数所有している。この建物は、これら資料の展示と、広く地域の人々の交流の場として利用される事を目的とし、名古屋市名東区に聖徳寺の支坊として建設されたものである。

この地は閑静な住宅地であるが、市街化の波により低層の住宅が密集してきている。この地にあって、各施設をお寺としての厳粛な雰囲気の中に構築する為、平面計画においては、中央に端整な中庭を配し、それに対して各施設を開放させる構成としている。

建物は、寺の機能である外陣、内陣、展示室、休憩室と、住職の住いである庫裏で構成されており、外陣は多目的に利用できる様、昇降ステージ、AV装置等を設け、インテリアデザインにおいても寺の様式を消したデザインとしている。

外観のデザインは、質感のある割り肌タイルと硫化銅板により、寺としての風格を表現すると共に、住宅地内としては大きなボリュームのこの建物が威圧感を与えない様、繊細なディテールと住宅的なスケールにする事により周辺環境との調和を図った。

(神谷敏光／竹中工務店)



光庭をとおして休憩室を見る



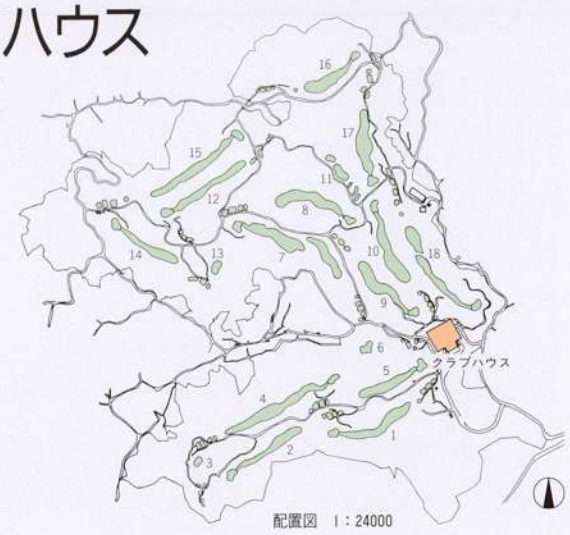
展示室



外陣より内陣を見る

中京ゴルフ倶楽部 石野コース クラブハウス

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水建設
　　電　　気　川北電気工業
　　衛生空調　大気社



配置図　1：24000



外観南西面

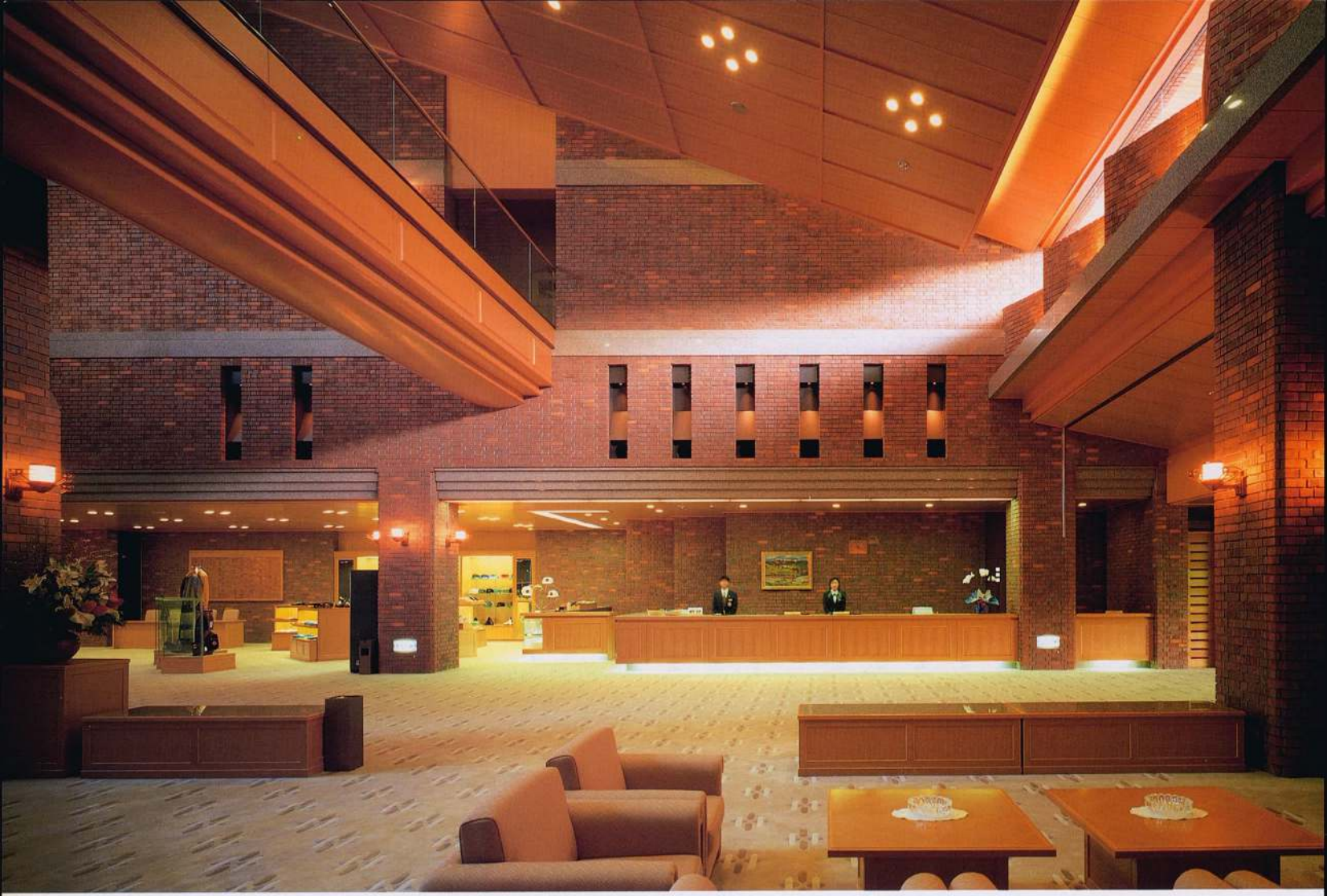
中京ゴルフ倶楽部 石野コースは、中京テレビ放送株式会社の関連会社である中京ゴルフ倶楽部株式会社が開発し、1993年10月に開場した。コースは愛知県豊田市の北部にあり、名古屋の中心から東へ約35キロ、車で1時間たらずの便利な処にあり、ゆき届いたサービスとゆとりのあるクラブライフの提供を目指して開業して以来、大変好評のようである。

ゴルフ場の開発が、環境破壊の尖兵のように云われる昨今、特筆すべきは、工事中はもとより完成後の施設の運営管理に至るまでのあらゆる面で「環境の保全」をまっとうする努力がはかられていることである。建物としては、クラブハウスの規模が通常の2倍近いものになっているのもそのためである。

一つには、クラブハウス周辺の景観を大切にしながら、利用者や管理の便をはかるために地下に70台余収容できる駐車場を設けたことと、従業員の労働環境をよくして、接客サービスの徹底をはかるために、普通別棟で扱われることの多いキャディーをはじめとする従業員の施設をハウス内にとり込んだためである。一方、設備面でも、厨房で使う一部の火熱以外は給湯や空調の熱源もすべて電気にしたことが挙げられる。クリーンなエネルギーを積極的に利用して、公害の発生を排除しながら、これまでと違った省資源、省エネルギータイプの方式を採用して、その経済効果をもねらった設備としている。

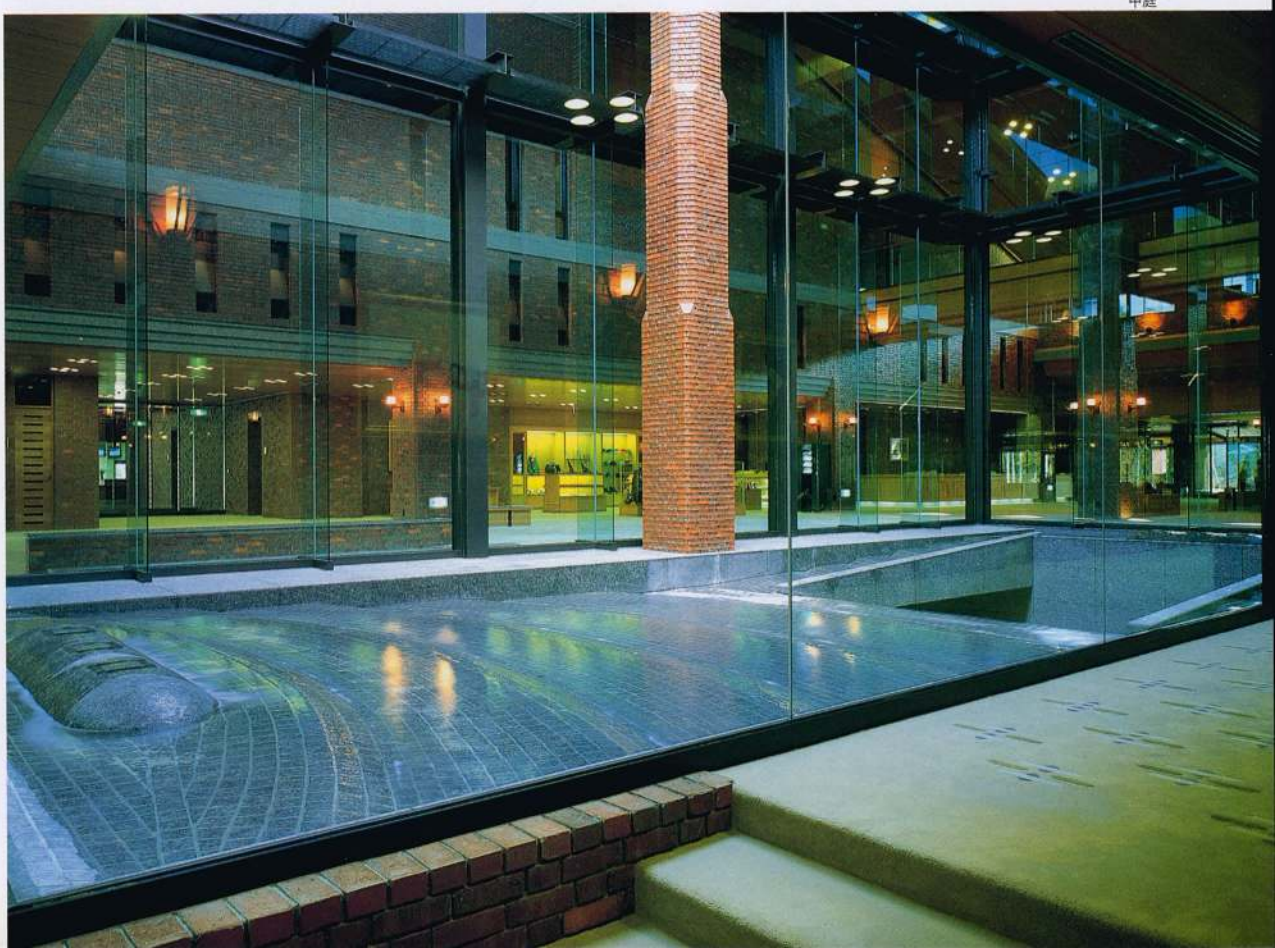
平面構成は、光庭とプレーヤーズホールをとり囲んだ明解な型で、基本的にはワンフロアータイプとし、日常のクラブライフは一つの階で完結するようにしている。光庭は彫刻家吉見岳洋氏のデザインと製作指導により、石と水とで「瀬」をつくり、ゆったりした水の流れで、時々刻々と変化するあかりと音を楽しませてくれている。

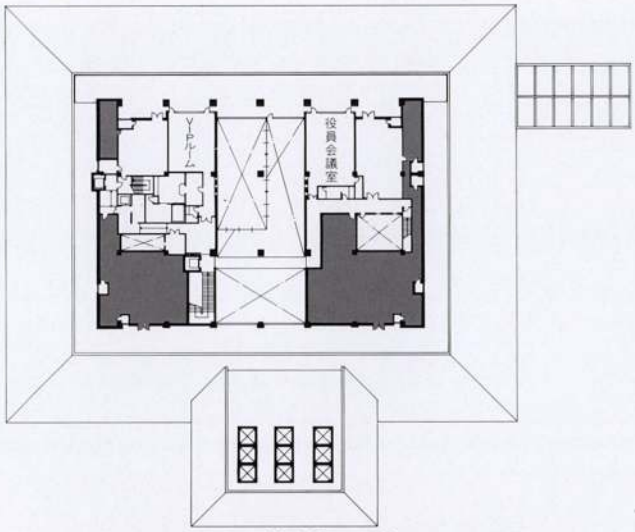
雄大な勾配屋根と深い軒の出のシンプルな形は、遠望してもその規模を感じさせず、周辺の景観にも馴染んでいる。屋根の玄昌石、床の花崗石、壁の焼過煉瓦と木の天井の組合せは、内外共通したもので、時間をかけて味わい深い建物をつくりあげるために選んだ素材と、それにふさわしい構法である。　　（森口雅文／伊藤建築設計事務所）



1階フロント廻り

中庭

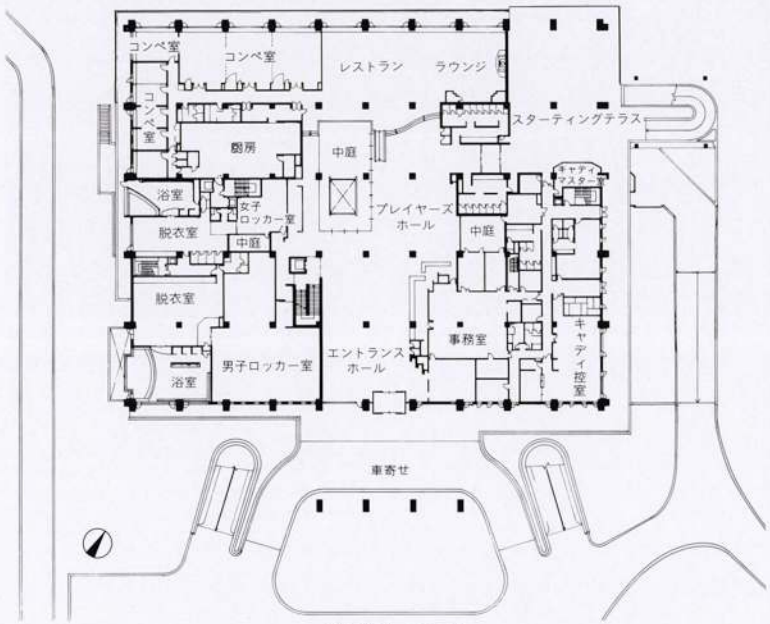




2階平面図　1：1200



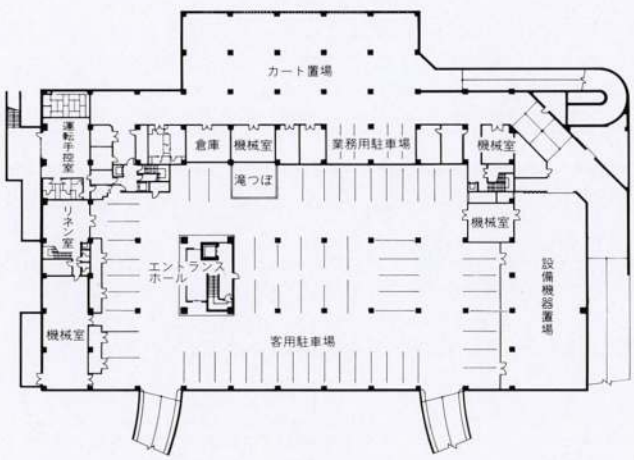
1階レストラン



1階平面図　1：1200



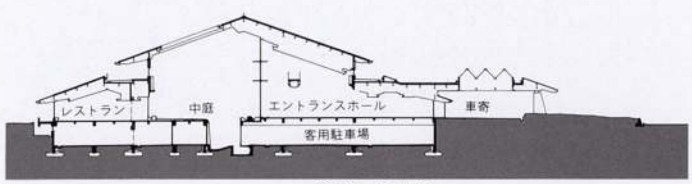
2階VIPルーム



地下1階平面図　1：1200



No.1スタートハウス



断面図　1：1200

所 在 地　愛知県豊田市芳友町地内
敷地面積　1,206,561㎡
建築面積　5,705㎡
延床面積　9,565㎡
構造規模　SRC、一部S、B1、2F
工　　期　平成4年3月～平成5年7月
最 寄 駅　名古屋鉄道三河線西中金(にしなかがね)駅
撮　　影　加藤敏明、SS名古屋

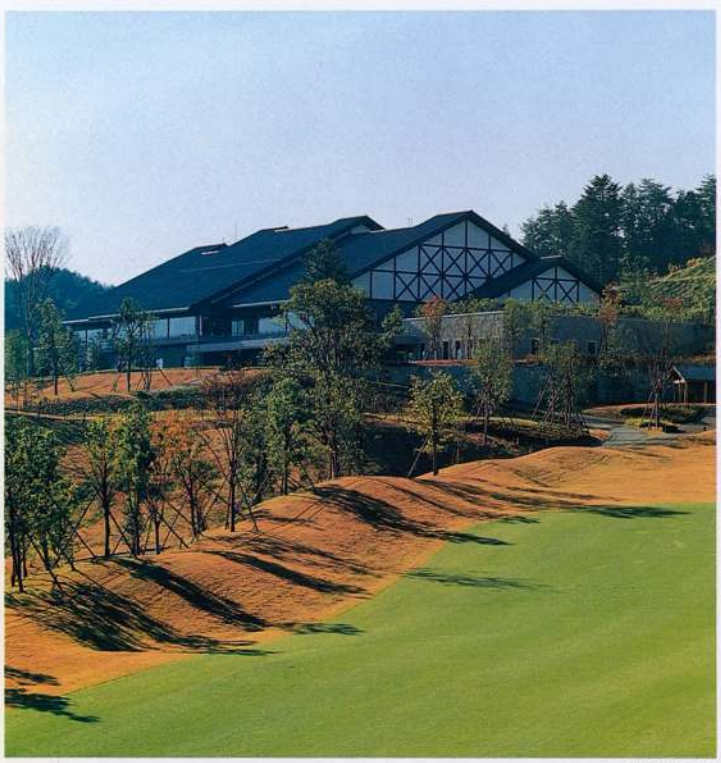


クラブハウス車寄せ

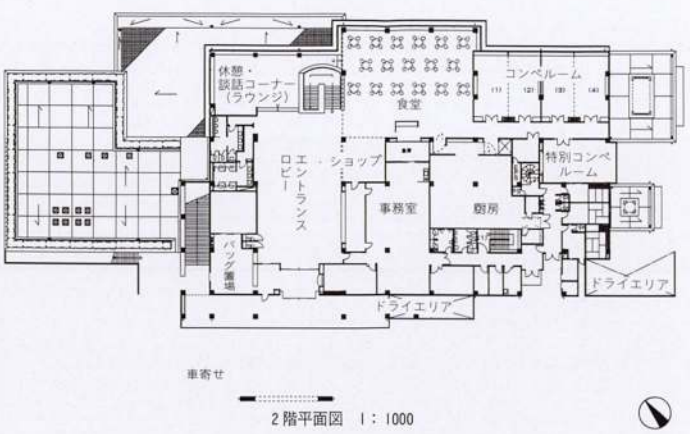
つくでカントリークラブハウス

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　愛知県南設楽郡作手村大字高里地内
敷地面積　約1,190,000㎡
建築面積　3,306㎡
延床面積　4,918㎡
構　　造　RC、2F、一部3F
工　　期　1992年6月～1993年8月
最 寄 駅　名鉄東岡崎駅
撮　　影　センターフォト



コース側(No.1)より



2階平面図　1：1000



1階平面図　1：1000



エントランスロビー

つくでカントリークラブは、愛知県の避暑地として最近脚光を浴びている三河の山間、南設楽郡作手村、作手高原の一画に大成建設グループ、有楽土地㈱の新規事業として計画された。

標高600mに位置するコースからは、なだらかに拡がる緑の山並みと、遠くには南アルプスを望むことができる。この素晴らしい自然の中に立地するクラブハウスは、何よりも〝周囲の環境に溶けこんだたたずまい〟を基本コンセプトとしている。

外観は、切妻大屋根をデザイン基調に濃紺のS瓦と外壁には、土色のタイルを配し、重圧で落ち着いた装いをかもしだしている。

インテリアは周囲の環境をそのまま内部に取りこみ、木目を基調とした内装で統一している。特にエントランスホール床には作手の名草「さぎ草」が清流に浮かぶイメージをデザインしたじゅうたんを配し、地元の人々にも好評を博している。

又、食堂、談話ロビー、コンペルーム等は明るく開放的なヒューマンスケールの空間を心掛け、コースを借景する快適なクラブハウスとしている。

爽やかな高原、そびえたつ樹林に囲まれた大自然の中で、一つの小さな白球を通じて得られる親交は時には、その大自然にも負けない大きな友情を育む。このクラブハウスが、そんなドラマの一舞台ともなればこれに勝る喜びはない。

（梅村幸夫／大成建設設計部）



ロッカールーム



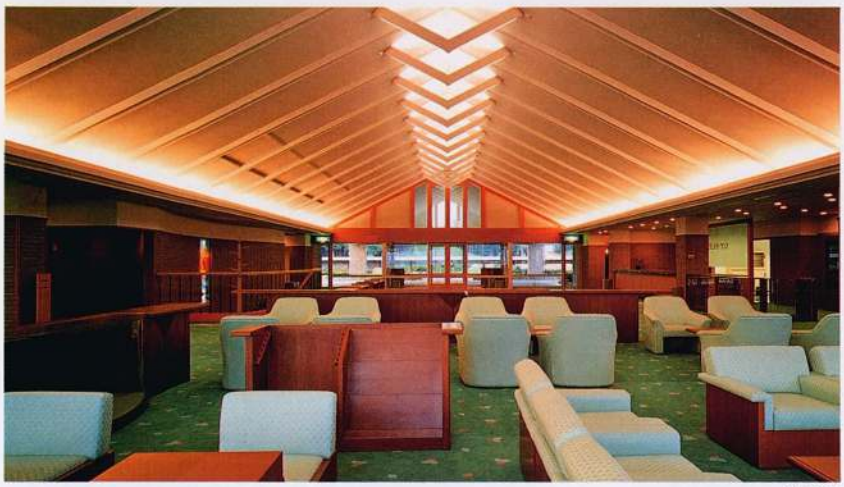
浴室



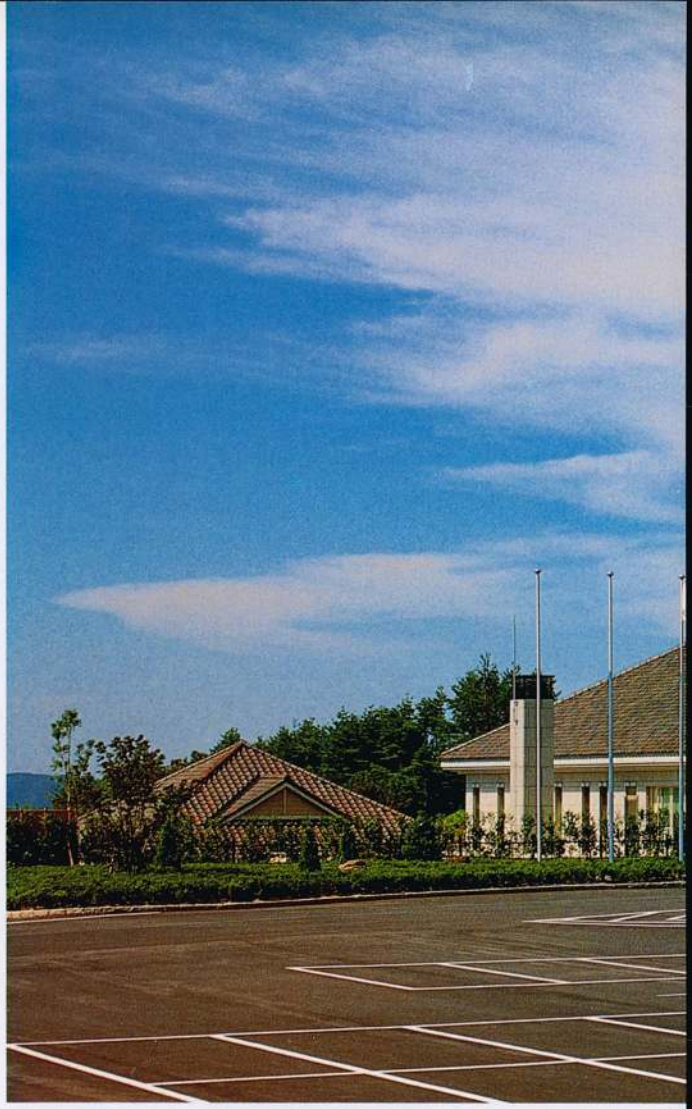
食堂



玄関車寄せ



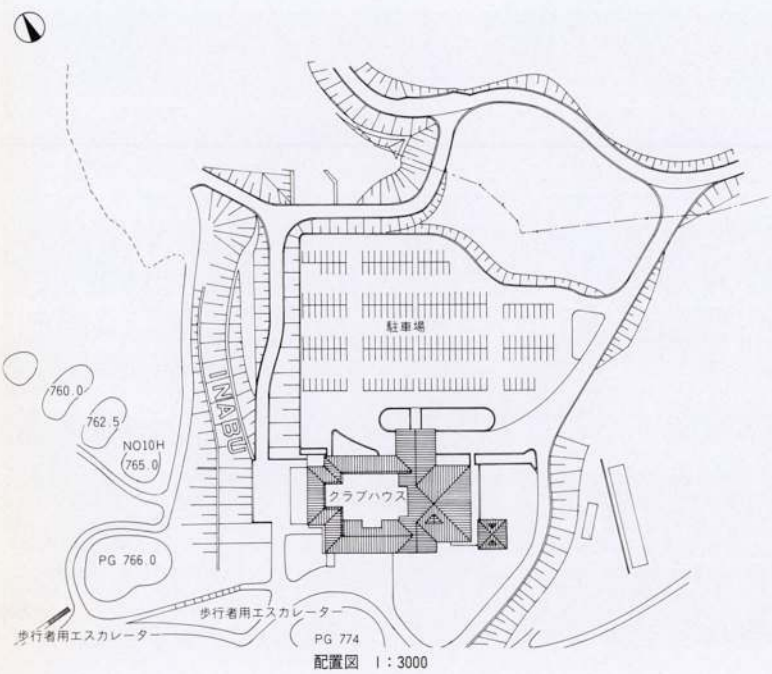
ラウンジ



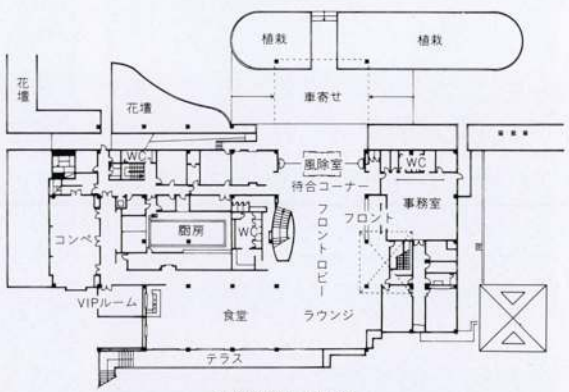
稲武カントリークラブハウス

設　計　大成建設名古屋支店
施　工　大成建設名古屋支店・角文建設共同企業体

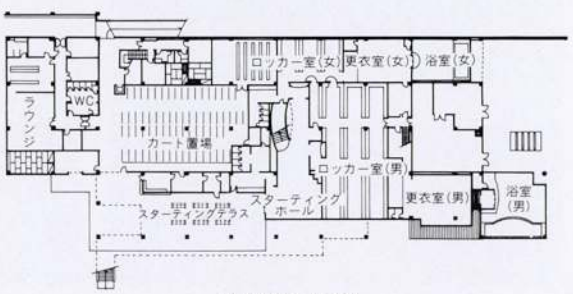
所 在 地　愛知県北設楽郡稲武町
敷地面積　74,757㎡
建築面積　2,778㎡
延床面積　4,343㎡
構　造　RC、一部S、3F
工　期　1992年4月～1993年5月
最寄駅　名鉄豊田駅
撮　影　SS名古屋



配置図　1：3000



2階平面図　1：1200



1階平面図　1：1200

駐車場より車寄せをみる

稲武カントリークラブは名古屋の中心部から車で90分、愛知県の北東部に位置し、春は山桜から新緑、秋には紅葉と四季折々の表情があり、遠くは岐阜、長野の山並を望める標高800mの眺望の素晴らしい環境に立地している。

当クラブは名門南山カントリークラブの姉妹コースであり、林業の稲武町の村おこしとして誘致されたゴルフ場である。南山の企業イメージを表現しながら、自然環境に調和し、地元町民にも愛される落ち着いた雰囲気づくりをクラブハウスの設計テーマとしている。

建物の佇まいは南山の英国風イメージを踏襲し、山並に融合する三角形の連続する屋根形状とし、四季を彩る甍としている。

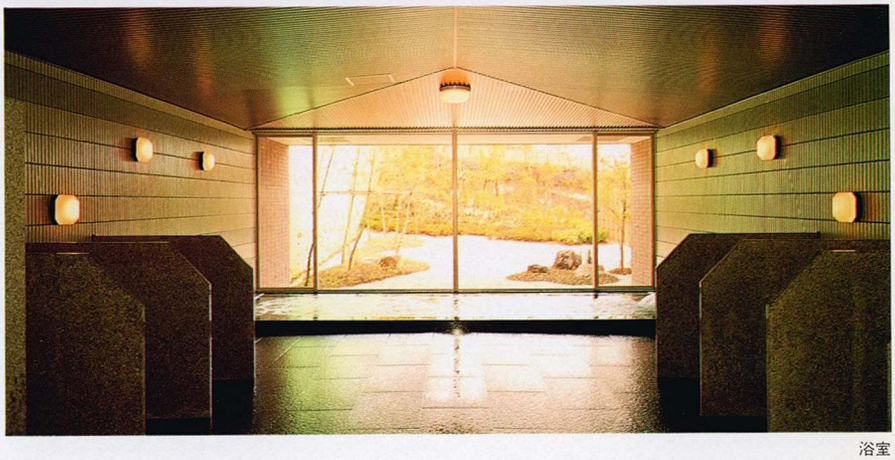
平面計画に於いては、解り易い客動線と運営しやすいバック動線を心掛けている。敷地のレベル差を生かして、エントランスを2階、コースへは1層下がって1階とし、ラウンジ、食堂、コンペルームなど主要部は2階に配し、明るく開放的で、パノラマ的眺望が得られる計画としている。

エントランスを入ると、広々とした開放的なロビー、ラウンジ越しに山並が望め、自然と内部に誘導され、コースとの劇的な対面により、プレイ意欲が高められる。内装はナチュラルな質感のあるタイルと木を基調とし、直交する屋根形状を内部にとり込んだ空間構成とし、明るくダイナミックな印象を与えている。

(川地正数／大成建設設計部)



食堂



浴室



敷地全景

豊田中研福利厚生センター

設計施工　竹中工務店



西面外観



ティールームよりアリーナを望む



アプローチ外観

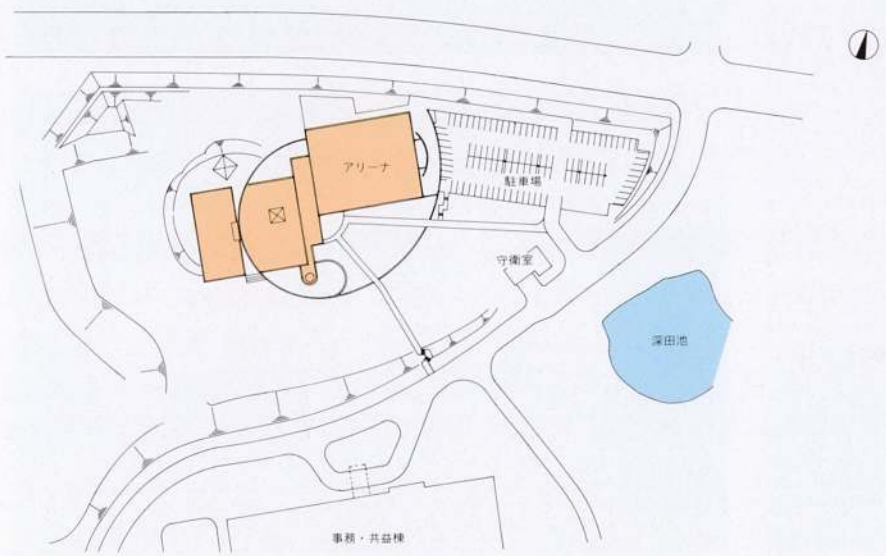
豊田中央研究所が立地する愛知県長久手町は、名古屋市のベッドタウンとして、そして学術研究の中心地として急速に発展しつつある町である。その中で当研究所は、敷地内の積極的な緑化により、自然と共生する理想的な知的作業環境を形成している。

設計にあたり、まず敷地の持つ特性を読み取り、単に自然環境に同化させるのではなく、積極的に共生させる事を目指し、環境の有機的成長と、人への思いやりのある形の象徴として「スパイラルループ」をデザインモチーフに選び、平面形態を始め各所で展開している。また建物全体を低くおさえ、緩やかな曲面屋根が、建物を主張しつつ、スカイラインを優しく形成している。

内部においては日本的な空間をイメージし、径路空間により各室を有機的に結ぶと共に、緑と光と風を積極的に導入し、計画した。地窓風の低くおさえた開口部、障子越しの光をイメージした乳白フィルム貼のガラス、そして外部との一体化をはかる全面ガラス等を各所で使い分ける事により、空間毎に光に変化を持たせ、独自の表情をつくっている。

アリーナは、建物のボリュームを抑え、天井を高くするという相反する２つの条件と、空間の優しさを実現する為、単層シェル構造を採用することとした。この構造の採用により、機能的な使い易さと共に、単層シェル構造の持つ明解さ、しなやかさ、そして美しさを、そのままデザインに昇華させ、スポーツに相応しいアリーナ空間を創り出した。

（野村昌宏／竹中工務店）



配置図　1：3000

所在地　愛知県愛知郡長久手町大字長湫横道41-2
敷地面積　279,720㎡
建築面積　4,138㎡
延床面積　6,164㎡
構造　RC、S、2F
工期　1991年10月～1992年11月
最寄駅　地下鉄東山線藤ヶ丘駅
撮影　SS名古屋、青山賢三



アトリウム



アトリウム



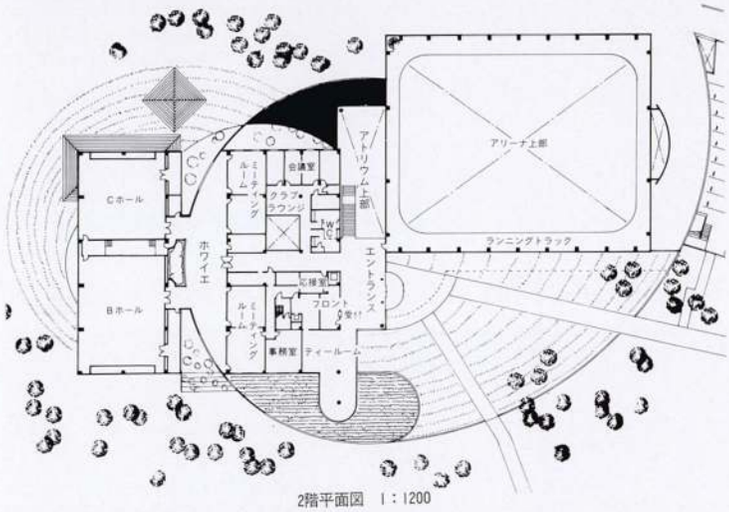
エントランス



ホワイエ



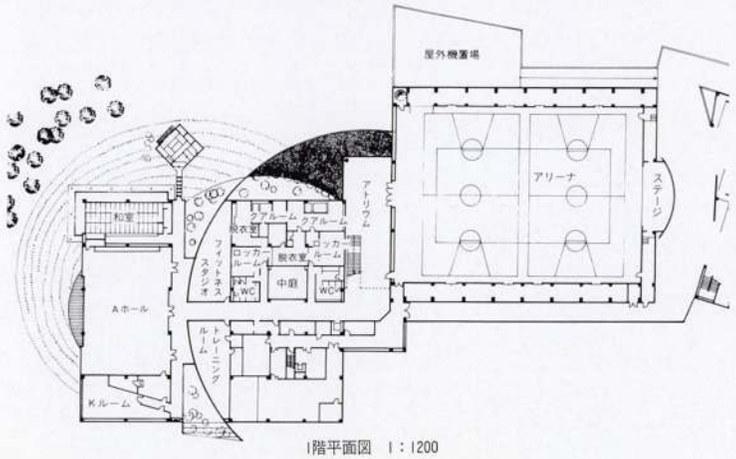
アリーナ



2階平面図　1：1200



ティールーム



1階平面図　1：1200



Kルーム



西面外観

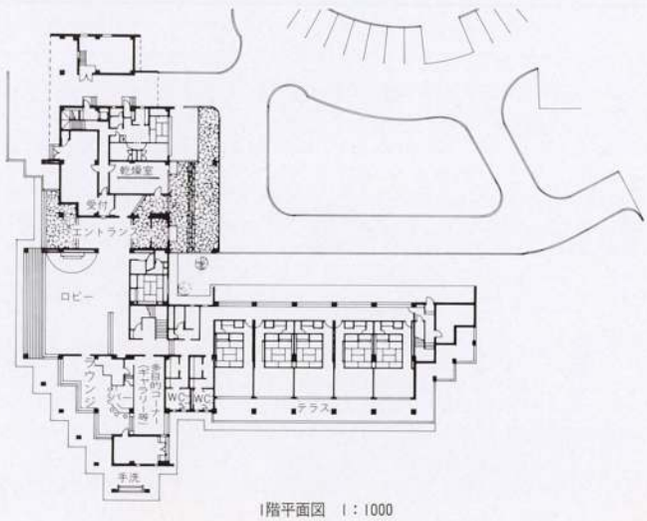
豊田自動織機製作所シャインズ荘川

設計施工　竹中工務店

所 在 地　岐阜県大野郡荘川村大字赤谷字ませど1282-2
敷地面積　17,078㎡
建築面積　 1,609㎡
延床面積　 2,446㎡
構　　造　RC、2F
工　　期　1992年4月～1992年12月
撮　　影　青山賢三



配置図　1：3000



1階平面図　1：1000



2階廊下



レストラン



ロビー

敷地は北に白川郷、東に飛騨高山が位置する荘川村のほぼ中央にあり、北西に御母衣湖を眺む緑豊かな別荘地の一角にある。

「ゆとり」と「やすらぎ」をテーマとして、従業員のリクリエーションと余暇の充実のため、山菜採り・清流釣り・ゴルフ・紅葉狩り、スキー等、四季を通じて楽しめる長期滞在型保養所として計画された。

外観は森のスカイラインに合わせ、棟の高さに変化をもたせた切妻の勾配屋根、深い軒先、コーナーの柱列とバルコニー・テラスのフレームにより陰影をもたせ、外壁は木々の表皮のもつ淡い赤褐色系の色調でまとめたデザインとして周囲の自然に同化させた。

眺望の確保と寒冷地・豪雪地帯という気候条件から、建物は敷地勾配に合わせて高台にL型に配置し、その周辺には除雪を考慮した芝生広場、木立に囲まれた駐車場をレイアウトした。

「季節の移り変わりを感じる」を設計コンセプトとして、白樺林に面したパブリックスペースを中央に配置し、1階は吹抜をもつロビー、大きな窓のラウンジとギャラリーで構成し、2階は御母衣湖を遠望できるレストラン、浴室等を設置した。

西に向けた宿泊室ゾーンは、多様化するニーズに対応し、家族利用を中心に、見晴らしの良い窓とバルコニー付のグレードの高い客室とし、廊下は自然光を取り入れた広く、高い空間として明るく快適な「子供たちのプレイルーム」として計画した。

管理ゾーンは建物の両サイドにコンパクトにまとめ動線を短くし、地下でつないだ配管・配線ピットにより設備メンテナンスを考慮した。

(田中了介／竹中工務店)



エントランス



西北面外観



セントラルガーデンより池越しにのぞむ



フロント内部

豊田市街より矢作川を渡り車で10数分の丘陵地に位置するフォレスタヒルズは、トヨタ自動車㈱社内関連団体との共同出資により、「ゆとり、ときめき、やすらぎ」をテーマとして建設された、地域にも開かれた新しいタイプの厚生施設です。

丘陵地の自然を最大限保存し、かつ各施設相互の利用促進や賑わいをもたらすことを意図して、敷地中央とアクセス道路のみ造成し、一部自然林を残した広場と谷筋を利用した池を中心にして施設を集約配置しました。

ホテルフォレスタは、会議、宴会、談らん、スポーツ、宿泊と巾広いニーズに応える中心施設であり、ナチュラルカラーの磁器質タイルをベースとして周囲の緑に調和した外観としました。屋内テニスコートは、集成材トラス梁を骨組としたテフロンコーティング膜屋根による明るく柔らかな雰囲気のインドアコートとなっています。

（高山順行・葛原定次／日建設計・名古屋）



ウォーターパーク



◀木造集成梁と膜による屋内テニスコート

所在地　豊田市岩倉町一本松1番1他343筆
敷地面積　762,958.15㎡
建築面積　9,614.26㎡
延床面積　17,494.11㎡
構造規模　センターハウス・スポーツクラブ　SRC、B1、5F、P1
屋内テニスコート　木、RC、1F
工　期　1992年5月～1993年5月
最寄駅　名鉄三河線豊田駅
撮　影　センターフォト

フォレスタヒルズ

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　清水建設

ホテルフォレスタ外観



配置図



航空写真

富士電機三重営業所
独身寮「ブルーアーク」

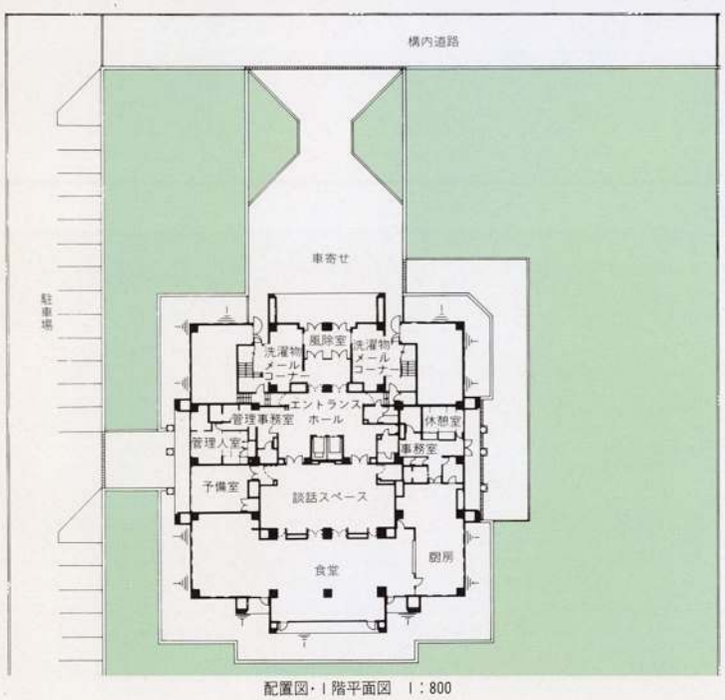
設　計　企画　富士ライフ
企画・基本
実施・監理　清水建設一級建築士事務所
施　工　清水建設
設備　富士電機総設
電気　富士電機工事



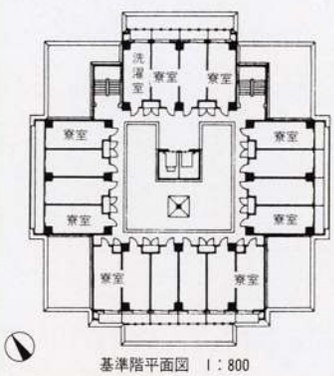
外観北東面



夜景



配置図・1階平面図　1：800



基準階平面図　1：800

所在地　三重県四日市市富士町1-27
敷地面積　6,527.40㎡
建築面積　895.05㎡
延床面積　6,826.52㎡
構規模造　SRC、15F、P1、247室
工　期　1990年8月～1992年3月
最寄駅　近鉄四日市駅
撮　影　SS名古屋

敷地は近鉄四日市駅より車で10分ほどの工場ゾーンの一角に位置する。21世紀の充実した生活を演出する器となり得るよう主に4つのテーマを盛り込んだ。

①集団生活と個人生活のバランスのとれた空間。
②自然との共生。
③町並みに融合し、親しみのあるランドマーク。
④防災上安全性の高い空間。

個の生活を充実させる為、寮室は、

①専有面積21㎡。
②ユニットバス・ミニキッチン・空調機など標準設置。
③洋服入れ、机、書籍棚、などファニチュア造付。とし自室完結型とした。寮室のインテリアは方位ごとに4つの異なるカラーで変化と面白さを演出した。

又、エントランスロビー、談話室、食堂などパブリックスペースを充実させ集団生活ならではの触れ合いの場を提供している。

ロの字プランであり、2階から15階までのボイド空間が、自然彩光、通風、見通しのよさ等豊かな環境を創り出している。このボイドは、避難上も有効な要素となっている。

全体色調はアースカラーのライトグリーン、最上部切妻形状、周辺に十分の空地、など環境への調和を図った。

寮生より館名を募集し、ブルーアーク(青い箱舟)という名前を頂戴した。

(高木義寛／清水建設 設計本部名古屋支店設計部)


エントランスホール


食堂


談話室


寮室


吹抜見下げ

Tokai Sketch Book



豊橋社会保険事務所庁舎

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　杉本組
所 在 地　豊橋市蔵口町３丁目96
敷地面積　1,459.51㎡
建築面積　　578.42㎡
延床面積　1,197.77㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1992年９月～1993年２月
最 寄 駅　JR東海豊橋駅



富山県社会保険診療報酬支払基金

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　佐藤工業北陸支店
所 在 地　富山市黒崎高木割20
敷地面積　2,653.49㎡
建築面積　　798.51㎡
延床面積　2,641.29㎡
構造規模　RC、4F、P1
工　　期　1992年６月～1993年４月
最 寄 駅　JR西日本富山駅



鈴鹿農協本館

設　　計　東畑建築事務所
施　　工　鹿島・浜口・田中建設共同企業体
所 在 地　三重県鈴鹿市地子町字川原ヶ田1268
敷地面積　14,190.00㎡
建築面積　1,367.20㎡
延床面積　5,622.29㎡
構造規模　SRC、RC、6F
工　　期　1991年10月～1993年２月



桑名信用金庫朝明支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　大成建設名古屋支店
所 在 地　三重県三重郡朝日町大字小向字七反田350-1
敷地面積　1,910㎡
建築面積　　482㎡
延床面積　　786㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1992年９月～1993年３月
最 寄 駅　近鉄名古屋線伊勢朝日駅



名古屋ステーション開発本社ビル

設　　計　安井建築設計事務所
施　　工　JR東海建設
所 在 地　名古屋市中村区竹橋町1508番１、２
敷地面積　　399.01㎡
建築面積　　296.67㎡
延床面積　1,644.98㎡
構造規模　S、6F、P1
工　　期　1992年５月～1993年２月
最 寄 駅　JR名古屋駅

特集　伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈

“伊勢”という地名の響きは、我々にまず、どこか尊さの中に庶民的な親しみを感じさせ、続いてそれぞれの対象のイメージへと思いがつながる。それは、神宮の木々に宿る神聖な静寂さや、玉砂利を踏み締める洗心の音や、五十鈴川の清き流れの水面の輝きであったり、或いは内宮前の賑やかな風情ある街並みや、古くから人々に馴染まれてきた名産品であったりと、人それぞれの心の思いの情景へと発展する。

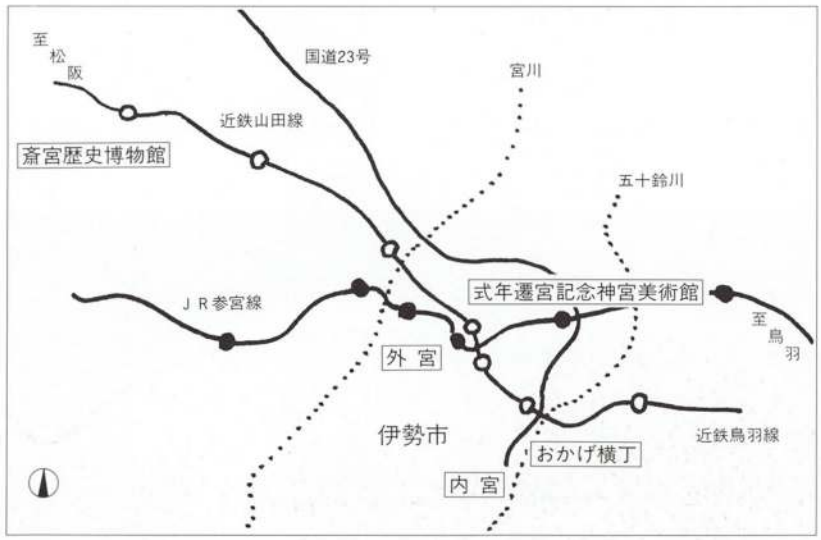
それほどに我々の心には、“伊勢”は郷愁感を伴う特別の心象であり、神仏に対する尊びの心が漂う。恐らく、日本人は子供の頃よりこの地について、〈お伊勢さん〉〈お伊勢参り〉〈お伊勢詣で〉等と耳にして、神話や歴史を通してその存在を認識し、また要人の参拝の報道を度々目にする等につけ、畏敬の念が心に育まれているせいなのであろう。

その伊勢の神宮で、折しも61回目の式年遷宮が昨年執り行われ、20年に一度という機会でもあることから、この度の東海特集のテーマとして取り上げることとなりました。また、この遷宮に関連してなのか、周辺地域での施設造りや、門前の街づくりが実施されていることから、これも併せて特集に取り上げました。

遷宮の意義については、それぞれの分野の様々な説が聞かれ、意義深く興味の尽きないところです。本特集の中でも各執筆者がそれぞれの観点からお考えを述べられていて、遷宮に対して、新たな関心を引き起こさせてくれることと思います。

終わりに、この特集ができましたのも多くの方々の暖かい御協力によるものですが、とりわけ式年造営庁技官の愛知工業大学教授飯田喜四郎先生、神宮司庁営繕部技師宇津野金彦さんを始め、神宮司庁の御理解御協力があったればこそと深く感謝申し上げます。

（東海支部特別編集委員会）



遷宮

伊勢と遷宮

宇津野　金彦

1．普遍的システム

平成５年の秋、伊勢の皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）において、第61回の神宮式年遷宮が執り行なわれた。

この神宮の式年遷宮とは、東西に相接して並ぶ２つの御敷地を舞台にして、20年に一度、正殿をはじめとする諸殿舎御門等の造替と、正殿殿内に奉納する御装束並に御神宝の調進をもって、現つ宮（あきみや）から新宮（にいみや）へ大神を遷し奉る儀式のことであり、その制度的基盤は、７世紀後半の天武・持統朝を通じて確立され、内宮では持統４年(690)、外宮では同６年(692)に第１回の遷宮が斎行されて以来、国家的儀式として、およそ1300年の歳月の中で61回の歴史を重ねてきた。

古代には、住吉、香取、鹿島などの有力な神社にあっても式年の遷宮が行なわれていたが、今にその制を伝えるのは伊勢の神宮のみであり、「伝承の美学」「新陳代謝する建築」などの今日的評価とともに、我国特有の文化として広く知られている。

ここで61回の遷宮史を述べる余裕はないが、とりわけ中世の戦乱期に内宮、外宮とも120年余に及ぶ正遷宮の中絶がありながらも、中世末期になおかつ再興され現在に至っている史実は、遷宮というシステムが保有する強靱な復原力はもちろん、そこに内在する普遍的な構造を示唆する事柄として、取り敢えず注目に値しよう。

2．常なる生命

式年遷宮の意味については、これまでに様々な側面から論じられているが、その基本的観念は、概ね「くり返し」という言葉に集約されよう。すなわち、20年一度の宮遷しとは、61回の数字が物語るように、式年の20年目を結節点にしたくり返しであり、それはいわば物質と精神の甦りを象徴する。この意味において式年遷宮は、永遠性の形象化に他ならないであろうし、またそのような観念は、恐らく、太陽、山、樹木、川などの自然あるいはそれが齎す自然の産物を信仰の対象とした古代人が、自然やその産物の存在を、絶対的なものとしてではなく、周期的な再生を遂げながら絶えず若々しい生命を保ち得るものと見做した、いわゆる古代的な自然観に通底を持つように思われる。つまり古代の人々は、自然のサイクルの中にこそ、常なる生命を見い出していたのである。

したがって、かかる観念を建築的に言へば、建物の造形美よりも、建物の形式とその配置構成を維持し再生産してゆくことが、式年の造替制に果された初源的に重要な役割と考えられよう。

一方、諸家の説かれるように、式年遷宮は、毎年の秋に行なわれる神嘗祭を大きくした儀式に相違ない。しかしながら、遷宮が式年のくり返しによって永遠性を象徴するのと同時に、それが国家的儀式であるが故に記念性をも追求したことは、少なくとも建築に限っては否定できないであろう。高さ16丈とも８丈ともいわれる古代の出雲大社本殿が、その巨大さをもって記念性を志向したのに対して、伊勢の神宮では、巨大さ（現内宮正殿の地上から千木先端まで約40尺）よりも、むしろ祖形の反復という周期的交替システムの中に、永遠性の証を希求し、記念性の確立を目指したのである。

3．伊勢の重浪

このような神宮の式年遷宮に託された永遠への祈りは、もとより伊勢の土地柄に由縁するものであろう。万葉集が載せる次の歌は、



皇大神宮新殿地古殿地
（神宮司庁弘報課提供）
平成５年撮影

伊勢の自然と風土を高らかに謳い上げている。

「やすみしし　わご大君　日の皇子の　聞し食す　御饌つ国　神風の　伊勢の国は　国見ればしも　山見れば貴し　川見れば　さやけく清し　水門なす　海も広し見渡しの　島も名高し……」(巻13、3234)

大和の東方に位置する伊勢の地には、古代の人々が、その遥か海の彼方に存在すると信じていた理想郷のイメージが付纏うのである。

天照大神の伊勢鎮座を伝える『日本書紀』垂仁天皇25年条の神託は、そのことを端的に示している。

「是の神風の伊勢国は、常世の浪の重浪帰する国なり。傍国の可怜し国なり。是の国に居らむと欲す」

常とは永遠を意味し、常世とは古代人にとっての楽土—理想郷である。その常世の国に最も近く、絶えず常世からの浪が打ち寄せ、海と山の幸に恵まれていることが鎮座の理由とされる。「重浪帰する国」にみる幾重にも打ち寄せる波こそ、伊勢の理想郷としてのイメージを形象的に認識せしめるものであろう。古事記歌謡の冒頭を飾る出雲の新室寿ぎ「八雲立つ　出雲八重垣　妻ごみに　八重垣作るその八重垣を」の歌は、幾重にも雲や垣がある様がめでたく、また倭建命の大和の国寿ぎ「倭は国の　真秀ろば　畳なづく　青垣山籠れる　大和しうるはし」(古事記、景行天皇)も、幾重にも山々に囲まれている様が祝ぎ事で、これらは、伊勢の「重浪」に共通する永遠志向の表現であった。

4．東と西

正殿以下の諸殿舎御門の配置は、現在、南北を基軸にするが、この軸性が古代にまで遡り得ることは、福山敏男氏の精緻な殿舎復原によっても間違いはない。しかしながら、原田敏明氏が指摘されるように、遷宮祭本来の意義は、造替遷宮ではなく、あくまでも祭典遷宮として理解されるべきであり、したがって、遷宮祭においては、建物配置が示す南北の軸性よりも、遷宮ごとに東から西、西から東へと宮処を移す東西の軸性の方が重要となりかつ先行する、とみてよかろう。第60回の式年遷宮に奉仕された川添登氏が、古代の寺院・神社建築を比較した上で、神宮の社殿について「むしろ私は、遷宮という祭が先にあり、それを強調するために、茅葺、素木造といった古い建築様式が採用されたとみたい。私は遷宮祭に奉仕して、新旧対称のあざやかさをまざまざとみることができたのである。」(「伊勢神宮」)と述べられるのは、その点にも関連していて興味深い。

この東西の軸性に関して注目されるのは、豊受大神宮別宮の土宮(外宮域内)である。正宮の南方、御池を隔てた対岸に位置し、山田原の土地の神として古い由緒をもつこの宮は、大土乃御祖神を祭神とし、御殿は古来より東面して建つが、その東面に加えて、大治3年(1128)別宮に列せられて以降、明治22年度(1889)の遷宮まで、左右ではなく前後(東西)に宮遷しが行なわれており、東西の軸性に対する信仰の篤さが看取されよう。

東西の軸性から連想されるのは太陽であろう。天照大神は『日本書紀』(神代上)には日の神「大日孁貴」とされ、一方、伊勢地方には、二見の夫婦岩に象徴される如く、古くから太陽信仰の盛んであったことが民俗学者達によって報告されている。このような神宮と太陽との2重の意味での関わりは、東西の軸性とも決して無縁ではなかろう。

さらに、その軸性に関連して言えば、古代の日本では東と西の各々が神聖なる方位として崇拝されていたとする中西進氏の言及も無視できない。延暦23年(804)撰述の『皇大神宮儀式帳』が引く天照大神の伊勢鎮座にまつわる所伝には、太田命が倭姫命に答えて、五十鈴川の上流に大神の宮処に適した場所が在ると申し、その地を「朝日来向かう国、夕日来向かう国、浪の音聞こえぬ国、風の音聞こえぬ国、弓矢鞆の音聞こえぬ国」と寿いでいる。この朝日、夕日の語は、「纏向の　日代の宮は　朝日の　日照る宮　夕日の　日影る宮……」(古事記、雄略天皇)に代表されるように、宮処の祝め詞であるが、しかしその常套的な句は実存する聖地にあってこそ相応しく、それ故に現実性を帯びている。とすれば、「朝日来向かう国」、「夕日来向かう国」とは、太陽の修辞を用いた東と西の御敷地に対する比喩的表現ではなかろうか。それに続く浪も風も弓矢鞆の音も聞こえぬ国という表現には、この世から隔絶されたいわば洞窟の如き暗闇の世界が感得せしめられ、それは中西進氏の言われる太陽の出口・入口としての聖なる穴に通じるものであり、大神の鎮まり坐す御敷地を暗示しているかのようにも憶される。

5．四重の垣

神宮の社殿配置にみる特色のひとつに、正殿と東西宝殿を中心にして、その周りに内から外に向かって廻らされた瑞垣、内玉垣、外玉垣、板垣から成る四重の垣が挙げられる。他の神社の垣が2重ないしそれ以下であるのに対して極めて特徴的なこの四重という構成は、第1回の遷宮に際して整えられたようであり、したがって遷宮の初発の段階から意識的に構想されたものといえよう。

ではその四重の垣とは何を意味するのであろうか。恐らくそれは、周囲の自然からの隔絶とか聖と俗の厳然たる区別といった拒否的な構想に基づくのではなく、例えば瑞垣の語が万葉集には「楾垣」(巻13、3262)あるいは「水垣」(巻11、2415)と詠まれているように、自然が有する常なる生命を、幾重にも廻らされた垣によって、造形的に表現することを意図したように思われる。式年遷宮が20年一度のくり返しであるのに対し、この四重の垣は、幾重にもあることが永遠の象徴と考えていた古代人の宇宙観を、一層明確にそして恒常的な形として具現化したものに違いない。四重を廻りではなく、東西南北の各面とすれば、東四八重、南北八重となり、まさに八重垣に繋がる。

(うつの　かねひこ／神宮式年造営庁技師)

〔参考文献〕
川添登　『伊勢神宮』平凡社　昭和48年
同　『木の文明の成立』(上)、(下)日本放送出版協会　平成2年
福山敏男・稲垣栄三他　『神宮—第六十回神宮式年遷宮—』小学館　昭和50年
原田敏明　『村の祭祀』中央公論社　昭和50年
中西進編　『古代の祭式と思想』角川書店　平成3年
中西進　『古代日本人の宇宙観』日本放送出版協会　平成6年
大林太良　『伊勢・出雲』講談社　昭和55年
神宮司廳編　『神宮大綱』神宮司廳刊　明治45年

遷宮

式年造替と桧

飯田　喜四郎

式年造替

35年も前のことだが、京都御所を訪れる機会があった。落ち着いたたたずまいの古い御殿を通って小御所に案内されたときの驚きは、未だに忘れられない。小御所は再建されたばかりであった。伝統技術で丁寧に仕上げられたばかりの桧の淡い金色に近い明るさと、それを地にして浮かび上がる鮮やかな色調の襖絵の華やかさ。それは荘重だが薄暗くてやや陰気な古い御殿からはとても想像できない息をのむ美しさであった。

それから約10年たった昭和44年、古代ローマ遺跡の調査のため北アフリカに赴く途中でパリに立ち寄り、ノートルダムの北側に住む知人を尋ねた。留学生であったころしばしば訪れた大聖堂は、風雨で洗われる鐘塔や飛梁を除けば、埃とかびと煤煙に包まれて、触れれば衣服が汚れるのでは、と思われるほど真っ黒であった。それが今や汚れをすっかり洗い落として700年前を思わせる純白の衣をまとい、黒くて厳しいノートルダムとは打って変った、若々しくて優しい穏やかな姿になった。

私たちが比較的短い年月の間に、一つのモニュメントの古い姿と新しい姿を目にすることができるのは、通常きわめて稀である。小御所はたまたま花火の燃え殻で炎上して再建された直後であり、ノートルダムが13世紀中期の姿に戻ったのは、果断なドゴール大統領と明敏なマルロー文化相の決定による。神宮の式年造替は通常巡りあえないこのような機会を、20年ごとにすべての人びとに提供しているのである。

私たちはこれらのモニュメントを、色や形、規模や比例、構造や材料などを総合した姿（形態）として意識する。この姿は木や石や土などの素材を加工し、組み合わせて造られているが、姿に先立って素材が意識されることはない。まして目に触れることのない加工や組み立てなどの技術や構法は、一般に私たちの意識にさえのぼらない。このようにモニュメントは姿を通して私たちに働きかけるので、建設者はモニュメントに建設者の理念を最もよく表明する姿を与える。

素材とその加工技術や組み立ての構法は、いかに貴重で非凡で類例のないものであってもすべて、モニュメントの姿をつくり上げるための手段にすぎず、手段そのものの価値は、それを用いてつくり出された成果の価値とは次元を全く異にする。それに加えて、モニュメントを形づくる素材は木であれ石であれ、経過する時の流れに長短の差はあっても必ず老化し消滅する。素材を加工し、組み立てる技術はたとえ緩慢でも、より効率の高いものに必然的に変化する。したがって時間を超越して存在できるのは、モニュメントの姿だけである。素材や技術ではなく、まさにこの姿こそ建設者がそのモニュメントに託した理念を表明しているのであり、さらにこの理念は若々しくて欠けるところのない姿においてはじめて、最も力強く明瞭に表明される。

老化し消滅する古い素材や変遷する技術に固執せず、同質の新しい素材を用い、同一の規模・形式・構法を守りながらすべての社殿をもとの若くて美しい完全な姿に20年ごとに立ち帰らせる神宮の式年造替は、再建という大事業を提起することによってその姿が表明する理念を定期的に広く人々の間に喚起し、高揚する。120年余の中断期はあるものの、この制度に基づいて1300年以来受け継がれてきたこの伝統は、世界に全く類例のないわが国の一大文化遺産である。建造物としての即物的な側面からいえば、式年造替はもとの姿を確実に伝承させる、形態保存の卓越した制度といえよう。



ノートルダム大聖堂（昭和44年）



ノートルダム大聖堂（昭和29年）


御稲御倉（造替後）


同左（造替前）

桧の調達[注1)]

私たちは素材の美しさを尊重するが、純木造の神宮の社殿、特に造替で若々しく甦る社殿の姿には、素材の新しさが大きくかかわっている。素材のうち最も主要なものはいうまでもなく桧で、第61回造替では12年間に分割して約12000本（約１万立方メートル）の木曽桧が調達された。当時の木曽桧の伐採量は年間８～10万立方メートルであるから、造替用材はその１％にすぎない。しかし社殿は古来の寸法の部材で再建されるので、太く長い原木を必要とする。例えば正殿の円柱は長さ８メートル、末口直径70センチ、棟持柱は長さ11メートル、末口76センチの原木から切り出すが、これらの柱に組み合わされる部材にも当然太い原木を必要とする。

このような大径木の入手は明治時代にすでに困難だったため、明治末年に木曽御料林に約8000ヘクタールの専用林（神宮備林）が設定され、造替用材の確保が図られた。終戦と共に御料林も神宮備林も廃止されたが、後者は学術保護林や桧大材保存林などとして規模を半分以下に縮小されながらも保護されてきた。しかし平成３年から文化財建造物用などの特注材に限って旧備林から択伐（選別伐採）すること、植林期間を150年として桧を安定供給すること、年間10万立方メートルに達した天然桧の伐採量は漸減させ、平成８年以降は

将来も木曽から安定供給される直径約40センチ以下の桧原木は、造替に必要な原木の約40％で、残りはすべてそれよりも太い。[注2)] このような状況では造替用に集成材の一時的使用も止むをえないと思われた。一時的というのは、神宮では大正末年から隣接する山林（宮域林）で大径木を育成しているが、まだ70年しか経過していないからである。大径木から切り出す部材のうち、板や角材は集成材で代用し易く、また風雨にさらされる状態で集成材の角柱を使用してすでに20年以上経過した校舎も現存する。しかし厚い萱（かや）葺屋根の荷重をうける棟持柱や円柱はすべて、軽微なエンタシスをもつ先細りの部材である。構造用集成材でこのような円柱をつくる場合、加工しにくいという問題を解決しても、円柱表面に接着剤の黒い筋が幾本も露出することになる。

この問題の対策を考えているうちに、性急なために見落したことがあるのに気が付いた。旧備林の択伐が始まったとしても、大径木の蓄積量は70万立方メートル以上といわれるので、たとえ大径木だけを年２万立方メートルづつ択採しても、皆伐には35年以上かかる。したがって平成25年（第62回）と45年（第63回）の造替に必要な円柱用大径木の調達は、経費[注3)]の問題を別にすれば不可能ではない。他方、宮域林の桧は間伐と土壌改良で成長が促進されており、約70年で65センチに達したものもあるという。順調に成長すれば平成65年（第64回）以降の造替用大径木は、一部を除いて宮域材に期待できるので、集成材の円柱は杞憂にすぎないことが分かった。

解体材の再利用

平成６年には月読宮はじめ12別宮の造替、旧社殿の解体と解体材の譲渡が行われる。耐久性の乏しい萱や厳しい条件で風雨にさらされる千木、鰹木、葺板などは廃棄されるが、そのほかの解体材は再利用できる材質を保持している。昭和48年（第60回）造替の解体材は全国の神社からの申請に基づいて、約250社へ譲渡され、再利用された。昭和４年に造営され、29年（第59回）に解体された内宮古殿は、熱田神宮の本殿として現存する。内宮・外宮両正殿の棟持性は周知のように、さらに20年間宇治橋鳥居となり、その後は神宮を離れて関の追分（三重県関町）と桑名「七里の渡し」の鳥居として生き続ける。

これは確かに敬神の念に基づく再利用である。しかしそれは同時に、自然の与えたものを尊重し、自然に順応して共存してきた、わが国古来の生き方を反映しているのではないだろうか。私たちは少くとも昭和30年代まで、木造建築はもちろん、鉄筋コンクリート造の６～７階のビルでさえ取り壊さずに移転して使用するつつましい心を持っていたのである。

（いいだ　きしろう／神宮司庁神宮式年造営庁技監・愛知工業大学教授）

注1）第61回の造替工事全般については、「建築保全」1992・11・No 80、「伊勢神宮の式年遷宮」小幡祥一郎（神宮司庁式年造営庁技術総監）
式年造替用桧材の調達と神宮林については、「山林」1994・1・No 1316、「伊勢神宮の式年遷宮と神宮林の使命」嶺　一三（東京大学名誉教授、神宮境内地保護委員会・神宮自然保護委員会委員）を参照されたい。

注2）造替用原木のうち、末口直径40～58センチのものは全体の56％、60センチ以上は４％以下である。

注3）式年遷宮の経費もすべて全国からの寄付金でまかなわれる。今回の遷宮の経費は330億円弱で、そのうちの約55億円は木曽国有林からの桧の購入にあてられた。

Jingu's Goshōden and the Ideal of Japanese Society

神宮の御正殿と日本社会の理念

by Rosemarie Bernard

The sanctuaries of Jingu were reconstructed in October 1993 for the ceremonies of the Shikinen Sengu (periodic transfer of the symbols of the deities to adjoining new sanctuaries). Well known in the West as the archetype par excellence of Japanese architecture, the main sanctuary building (goshōden) thus stands again in absolute perfection, as yet untainted by the weather, in the middle of the inner sanctum in Naiku (the inner sanctuary) and in Geku (the outer sanctuary).

The form of the goshōden is generally said to be that of the typical granary or storehouse of ancient Japan. It goes without saying that in the course of its history it has undergone significant change in detail, whether this be in the technology of carpentering or again in the degree to which the outer structure is adorned with carefully crafted pieces of gilt bronze. Yet, as a concept, an archetype of the ideal residence of the deities, it can be said not to have undergone change as concerns its structure, its situation over a central sacred pillar (shin no mihashira 心御柱), or of the suedama (据玉) or lacquered spheres atop the corridor which runs along the sanctuary building.

The suedama (据玉), probably as much as the question of the shin no mihashira as an axis mundi, are of particular interest. No doubt of continental influence, these directional reference points situate the goshōden as the center of the universe. This universe, conceived in ancient Japan as being the world, is now conceived of most probably as a particularistic world : Japan itself, or the essential meanings and referents of Japanese society. This is all the more apparent if one considers the series of four fences which enclose the goshōden and mark increasing degrees of proximity to its centrality.

Having increased in number over time, the fences are clear boundaries not to be crossed, save by priests in their ritual functions. The transgression of boundaries in Jingu is, however, ritualized as well, for every twenty years on the occasion of the Oshiraishimochigyoji (お白石持行事) more than two hundred thousand worshipers, who are members of groups from prescribed areas, carry white pebbles onto the grounds of the inner sanctum. Thus, only once in twenty years may the devout enter the sacred grounds, "transgressing" the boundaries of a world not fully sacralized until the prelude to the final ceremonial activities of the Sengu. When the inner sanctum is sacralized and the deity has reached her abode in the ceremony of the Sengyo (Shikinen Sengu), it remains concealed by gates (mikaki 御垣) and curtains (mitobari 御幌), closed to all but the most devout worshipers for special pilgrimages (特別参拝).

Yet concealed, Jingu is also revealed. In the wake of the transfer ceremonies which leave the former main sanctuary buildings devoid of the symbol of the deity goshintai (御神体), the former inner sanctum is left to stand for half a year, revealed in all the beauty of its state of disrepair only to believers and supporters … in other words only to those who may appreciate the meaning of their transgression of space still imbued with the sacredness of the deity now transferred. However, even this world, formerly defended by its definition as the most sacred grounds, is later obliterated, its sacredness allowed to devolve all over Japan, of which it had been the center. This system of the distribution of (kozai 古材), of the devolution of charismatic morsels of Jingu to smaller Shinto sanctuaries nation-wide for the sake of their own periodic reconstructions or repair, is an affirmation of the centrality of Jingu as a symbol of Japanese society unified by common beliefe and sharing in common goals.

遷宮諸祭と聖化される御正殿

ローズマリー・ベルナール

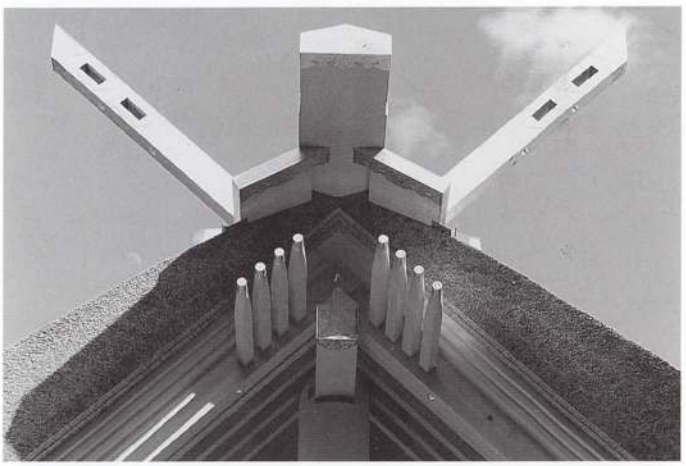
今年の十月に斉行された、第六十一回神宮式年遷宮への段階で、神宮の中心である両宮、即ち天照大御神の鎮座される内宮と、豊受大御神を祭る外宮にて、新宮が平成四年から五年秋の間に造営された。第六十一回式年遷宮のクライマックスは、御遷御（内宮は十月二日、外宮は五日）という、新殿に御神体を遷す荘厳な儀式である。

御遷御への準備が進むにつれて、新宮の造営がスタートしたが、建築側の準備やその造営過程は、昭和六十年から今年十月までの間に行われた遷宮諸祭の目的や象徴的な意味に従って強調された。例えば、四年三月に行なわれた上棟祭の際に、新しい正殿の位置が古規に違わないことを確かめた後、神職と式年造営庁職員一同の引綱に手をかけて御棟木を揚げ奉るという儀式、又は同年七月に正殿の御屋根を葺き終わった後に、御金物を打ち付け飾り奉る儀式である奠祭（いらかさい）などによって建物としての新しい正殿が徐々に完成された。

ところが、新しい正宮の中心にある正殿が御戸祭（みとさい）（五年九月）の際に完全に竣工成ったと、造替（ぞうたい）遷宮説の上で、又は建築家の立場から考えられても、祭典を中心にした説によると却って小工（こだくみ）の手から外した、神職しか奉仕できない、建築と関係のない祭典が斉行されることによって、正殿が御神体を納める聖なる建物に儀式的にされると言えよう。

従って竣工以後は、正殿が先清（あらいきよめ）られた後、杵築祭（こつきさい）の際に神宮には万代まで日本国の生命の保証があるようにとお祈りする神職によって、正殿の御柱根がつき固められることや、御鎮祭（ごちんさい）における大宮地の神を祭ること、さらに御遷御の当日に行われる御飾の際御装束（おんしょうぞく）を新宮の殿内に装飾して御遷御への準備を調えることによって、神様のお遷りになられる聖なる所となるのである。

（ローズマリー・ベルナール／ハーバード大学大学院人類学専攻博士課程・皇学館大学神道研究所研究生・カナダ・モントリオール生まれ）



御遷宮と神領民

井上　静和

1．はじめに

伊勢神宮は御皇室の御祖先を祭る社であり、125社の宮社の一大神社群の総称として神宮といわれている。神宮には三種の神器の一つ「八咫鏡」を宝鏡として奉祀して、天孫降臨の際の神勅において神宮の祭が形づくられていると考えられている。

吾が児、此の宝鏡を視まさんこと、当に吾を視るがごとくすべし、与に床を同じくし殿を共にして、斎鏡となすべし

との神勅が下され、吾は天照大御神を、吾が児は瓊々杵尊を示し、宝鏡は天照大御神の御魂代として常に一体として瓊々杵尊は天照大御神の御心として国土を治められるべきことが明示されている。このような神宮の特性を理解することで日本人は勿論、外国の人々にまでも尊崇の念を起こさしめ神宮は〝心のふるさと〟・〝世界の聖地〟とか言われて来ている。例えば英国の文明史家・歴史家であるアーノルド・トインビー(1889～1975)博士は昭和42年、2度目の訪日の折、神宮に参拝し、神楽殿において毛筆で下記の如く記帳している。

Hare, in this holy place, I feel the underlying unity of all religions.
Aronold　Toynbee　29　November, 1967
この聖地において、私はあらゆる宗教の根底的な統一性を感得する。
アーノルド・トインビー　1967年11月29日
(所功「伊勢の神宮」)

と記し伊勢は世界的な聖地と達観している。さてもう一人、母親が日本人で欧州統合運動の創始者・政治学者のオーストリアのリヒアルト・クーデンホーフ・カレルギー伯爵は昭和45年10月に参拝し、その印象を故郷をみる思いと語っている。

伊勢神宮には、自然と人間・古さと新しさが、それぞれ調和した日本の素朴な姿が残っている。私はいま日本人の祖先たちが一生に一度は訪れたということの神宮のもつ精神的な重みがわかるような気がする。この精神は現代の世界が求めているものと一致する。　(毎日新聞、10月21日)

これは伊勢神宮を把握するにあたって重要な処である。日本人もしくは日本の原点、神宮の歴史的原点を端的に語り尽している。そして外国人が感じる以上に日本人は生命の生きぶきを神宮に感じとることが出来るであろうと思われる。各人その表現の仕方が異っていても、伊勢神宮への観点は高邁であって日本の神を本質的に捉えているように思われる。この伊勢の地に鎮座された神宮は御皇室により国民により守り伝えられ、その間に何度となく御遷宮が営まれた事は国民の崇敬によるものでしかない。江戸時代、松尾芭蕉が奥の細道の旅を終えた年の9月、参拝して、

たふとさに　皆押し合ひぬ　御遷宮

の句をあらわしていることは有名である。古来より御遷宮は「皇家第一の重事、神宮無双の大営」(遷宮例文)といわれて来ている。大東亜戦争後は神宮が一宗教法人となり、御遷宮も〝民営遷宮〟へと変化し、第59回を昭和28年に、第60回を昭和48年に行い、今回は民営後3回目となり、20世紀最後の御遷宮となった。

2．神都・神領民について

第61回御遷宮の主要諸祭と行事は古来と変化せぬものであった。御造営元年として昭和60年に御遷宮準備が始められた。5月に御新殿の御用材を伐り出すにあたって御杣山(みそやま)にいます神を祭る山口祭と心御柱の御用材を伐採するにあたっての木本祭が執り行われて、8年の歳月をかけて進められ約30の祭・行事が無事に執行された。

古くから神領民と称されてきた伊勢・二見・御薗の地元3市町民が中心となって次の行事に参加をしている。1つは「御木曳(おきひき)行事」、2つ目は「宇治橋渡始式」、3つ目は「御白石持行事」であった。

「御木曳行事」は昭和61年4月に第1次を昭和62年5月に第2次の2回執り行われた。御木曳は御新殿造営に必要な御用材を両宮(内・外宮)の神域へと運ぶ伝統行事である。(室町期に初めて見られ、江戸期には本格的に実施された)第1次・第2次と共に地元の


御木曳行事（陸曳）


御木曳行事（川曳）

神領民と全国からの希望者の１日神領民の奉曳団が結成され、約30万の人々が参加した。「太一御用」(太一は最高の意をあらわす神宮の独標) の旗印の下に神宮へは陸路による陸曳き、内宮には五十鈴川を利用する川曳き(腰まで川に漬かり、ソリに乗せた御用材を曳く)共に木遣り唄による勇壮な時代絵巻きを彷彿させるような行事である。皇太子・浩宮徳仁殿下は曳綱を執られて御歌会始に御歌をよせられた。

お木曳の　車の音色　高らかに　響きわたりぬ
初夏の伊勢路に　(中西正幸・「文武新論」)

五月晴の中、澄んだ木遣りの声が聞こえてくる感じがする。

「宇治橋渡始式」は平成元年11月に行われた。まず宇治橋の守護神を祀る橋姫神社で祭りを行い、次に技師が一万度祓の麻を最古(元和五年＝1619年)の擬宝珠に入れて高欄に被せて、その後、神領民から選ばれた渡女(老女)を先頭に全国から招かれた３代揃いの夫婦が続き、神宮と国民との道がつくられ、その月だけで約13万人の人々が渡った。第60回のこの式典に参列した山口誓子は「渡女は　神の紅葉に　衣被ぐ」の句を残している。

遷御の儀を迎える平成５年、７月から８月にかけて真新しい御正殿の周辺、瑞垣の内側の内院の敷地に純白の敷石を奉献する「御白石持行事」が行われた。あらかじめ宮川より拾い集めておいた白石を地元の神領民・80奉献団、約75,000人と、１日神領民55,000人が参加して行われた。初日の７月31日午前８時30分、8,500人が白石をソリに乗せ御木曳行事と同様に両宮に運び込み、御祓いの後、新正殿に向かい、各自が白布に白石を包んで内院へ立ち入り敷き詰める行事が８月30日まで繰り広げられた。

このように神領民の参加する盛大な行事もさることながら、伊勢の観光の象徴であった「大鳥居」が平成５年10月１日に再建された。初代の大鳥居(昭和31年、松下幸之助寄進、鉄筋コンクリート製・高さ17m・幅12m)は交通量の増加、県道の拡幅工事のため昭和63年撤去された。しかし、御遷宮に間に合うように再建を求める声があがり、平成５年２月に三重県多度町の勢濃工業が寄進し、県道鳥羽松阪線(御幸道路)を跨ぐ形で建設された。鋼鉄製、高さ22.5m・幅31m・檜の素木色であった。(中日新聞、９月28日) 又、津の百五経済研究所が御遷宮による地域経済に及ぼす経済波及効果は1,244億円と試算を発表(中日新聞、10月11日)、平成６年７月からの祝祭博をも含めて21世紀へのステップとして地域活性化を行おうとしている点も見過ごすことは出来ぬであろう。

日常生活に於いても伊勢の町は神宮を戴く門前町であり、他地域と異なるという感じを受ける。それを示すものとして神都であるという点から各家々の玄関に見られる〝しめ飾り〟がある。それも単なるしめ飾りではなく飾りに〝笑門〟もしくは〝蘇民将来〟の文字の書かれた札が真中にあり、一年中、玄関に飾られている。〝笑門〟は笑う門に福来るのように解釈され、〝蘇民将来〟は説話にある話で兄(蘇民将来)が人間の姿を借りた神を厚くもてなして栄え、後世、災厄をのがれるお守りの言葉になったといわれている。又、家々の屋根の形にしても伊勢ならではないかと思われる処がある。神宮の平入りの殿舎に対して、市民の住居は妻入りの屋根を持ち神宮に遠慮している風である。又、生活の中の神への想いについて伊勢出身の生方たつゑは「伊勢路」の中で、

> 新しい着物が新調されると、きまって私は月初めの一日にそれを着て、すぐ近くの外宮へおまいりしたものだった。……新しい着物を、まず神さまに霊きよめしていただいてという意味にちがいない。……「朝と夕方は道路の中央をさけて、お歩きなされや。その時間は神さまが氏子を守るために道をお通りなさるんやで」……伊勢という土地柄は神を疎外してはならないしきたりがしみこんでいたのであろう。　(後藤裕文「伊勢志摩路」)

と神都ならではの考え方がある。伊勢を訪ねられたら、宝永４(1707)年創業の赤福餅—五十鈴川と安永４(1775)年創業のへんば餅—宮川とを賞味されたらどうであろうか。反馬餅は宮川を渡ると神域となり、籠や馬を置いて歩くため名づけられたという。赤福餅では毎月一日についたち餅といって季節感のある餅を売り出している。毎月１日と15日とが神宮の月次祭であることに関連している。これなど昔からの信仰と現代的な商法が一致した伊勢ならではの感じがする。今でも伊勢では衣・食・住をはじめ様々な日常生活の面で神宮との関わりが見うけられる。

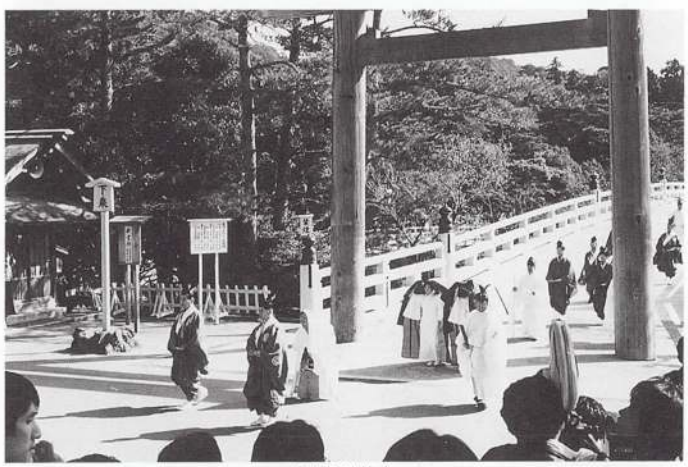
3．おわりに

パルテノン神殿は今日、旧神殿であり廃墟である。神々の生命が祭られてこそ神殿であり聖地である。神宮はその点、1200年の間、連綿として伝わり守られて来た。伊勢を中心とする神領民の人々が伝統を受けつぎ御遷宮に対する思いを保ち続けている。

(いのうえ　よしやす／愛知高等学校教諭)

※写真提供は神宮司庁より

参考図書　新人物往来社・歴史読本・「遷宮の謎」、三重県教育県民会議「明日の日本」、所功「伊勢の神宮」、後藤裕文「伊勢志摩路」


宇治橋渡始式


御白石持行事

遷宮

建築家のみた遷宮

桝林　宏二

I

昨年の８月23日、家内の姉夫妻の招きで１日神領民となり、外宮の御白石持行事に加わった。曽根町から外宮迄だからもう目の前であったが、10時すぎ頃から市内をエンヤ！エンヤ！の掛け声と共にねり歩き、一の鳥居の前で昼食の後、真新しい四斗樽を積んだ奉曳車と木遣子が気勢をあげながら最後の運び込みを楽しんだ。神域に入ると、白布に白石を包んで胸にかかえ、お祓いを受けたのち御垣内に入る。板垣の門をくぐり、外玉垣、内玉垣、さらに瑞垣の奥に入ると、萱葺切妻屋根、棟持柱、高欄の居玉が美しい新宮が私達を迎えてくれた。正面桁行三間（10.18m）、側面梁間二間（5.76m）と云われているが、白布から白石をとりだしてそっと奉献する。押され乍ら二度、三度と振り返って見た。廻縁、高床、千木、鰹木と目を向けて全体のスケールをと思ってみたが、身近で見ると高床が３ｍ近くもあり、軒の出が力強く迫っていたので何か後ずさりする思いがしたものである。

神宮の創祀については「日本書紀」にしるされている原文をみると、――時に天照大神、倭姫命に誨へて曰はく、「是の神風の伊勢国は、常世の浪の重浪帰する国なり。傍国の可怜し国なり。是の国に居らむと欲ふ」とのたまふ。故、大神の教への随に、其の祠を伊勢国に立てたまふ。因りて、斎宮を五十鈴の川上に興つ。是を磯宮と謂ふ。則ち天照大神の始めて天より降ります処なり。

伊勢神宮について必ず引かれる一節である。作家の足立巻一氏の「つらぬく永生の思想」、「神宮のこころと歴史」の一節にこんなことが書いてある。「いまの社殿は洗練されすぎている。フシ一つない良材が選びぬかれ古式を守って組み立てられている。随所に精巧な飾り金具が光っている。しかし、はじめごろは用材にはフシも多く、削りようもずっと荒々しく、飾り金具もなかったはずである。よって敷く石は丸い石はダメで、とがったゴツゴツした石だと言はれた。」と。たしかに那智の白い平たい石を新宮のまわりに敷きつめてみたい気持ちになるが、この石一つが７世紀前半から続いている常世の幻想ではないかと思う。

II

今年１月元旦、長男夫婦が東京より帰勢して家族５人でお伊勢参りに出掛けた。車２台で早目に津を出発、御幸道路の分岐道迄は、あっと云う間に着き、なんだ今年は不景気というので人が少ないのかいな、と思っていたが、さあ、あとがいけない。伊勢高速道の西インターが閉鎖、参宮街道２本に車が集中して、全く動かなくなり、ついておいでと云ったのに先に行ってしまったために、はぐれてしまい、お参りも別々、すごい人波に終日うろうろしてしまった。大晦日から元旦にかけてお参りしたのはこれで三度目だが、宇治橋から広い表参道、深い森と五十鈴川のせせらぎ、玉砂利をさくさくと踏みしめる気分は格別だが、石段に近づくにつれて人、人、人の波で又、動きがとれなくなって、石段をよーち、よーちと上りきると今度は狭い拝殿の前で押しあい、へしあい、満員の通勤電車以上の大混雑である。

正殿は外玉垣、内玉垣、瑞垣と三重の垣の奥深くにおわしますのにお参りの人々は外玉垣南御門、つまり門前で100円玉が頭にコチーンと当ったり、ハンドバックがひっかかったりでもう大変。壮大な森の中にひっそりと建つ内宮のたたずまいが表参道の奥深いゆったりとした道程に対して石段を上りきった拝殿前の広場がいちじる



御白石持行事



御白石持行事

しく狭いのは何故だろうかと、いつも考えさせられるのである。

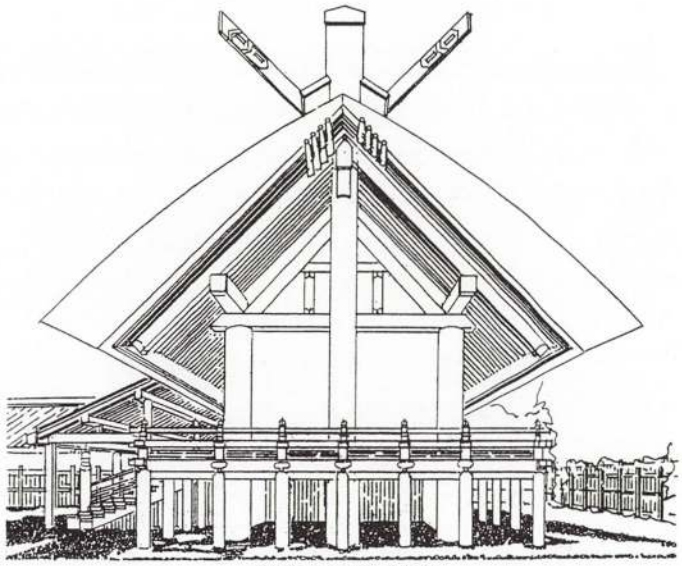
森や山に宿る精霊崇拝に始った古代日本人の信仰祭祀は原史時代に農耕生活に結びつき日本固有の神道の礎を築いた。古代人は神社に集い、祭祀によって心を通わせた。全国８万社を数える神社。その頂点に立つ古社が伊勢神宮や出雲大社だから、いわゆる〝伊勢型〟と〝出雲型〟であろう。柱や岩に宿る神が、いつから神殿に祭られたか―。

考古学調査で現在確認されている最古の神殿跡は、６世紀の松野遺跡（神戸市）と高塚遺跡（天理市）の二カ所しかない。「伊勢型」は弥生時代に中国南部から伝わった倉庫。「出雲型」は古墳時代に朝鮮半島を経て大陸からきた住宅建築がルーツ、と云われている。

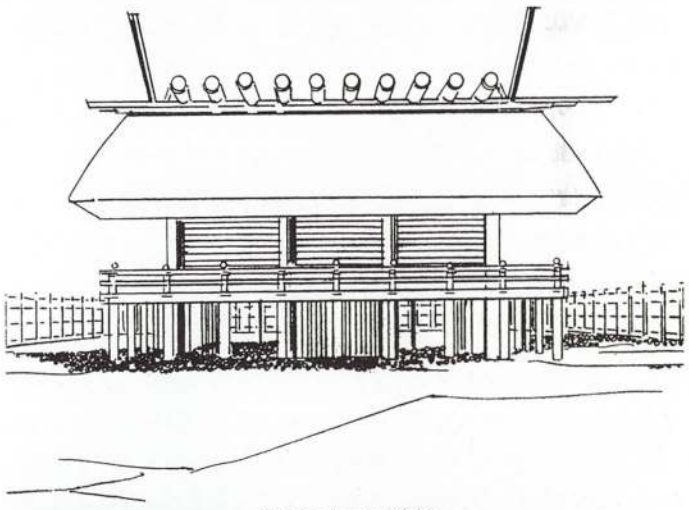
二つの型の異る重要な問題は屋根の形で、「ムクリ」と呼ぶ凸形の曲線に対して「テリ」と呼ぶ凹曲線であろう。16世紀に再建された京都の清水寺がこの両方の屋根をもつ寺院としては例外とされている。神社の形がどうこう云う気持ちはないが「神明造り」と云うこの社を近くで見つめ、写真や書物で新殿と古殿が並ぶ空中写真を見て感じることは、あのどっしりして厚くふくらみのある萱葺の屋根が太い白木の柱に支えられ、棟木を両妻につきだして、その上に丸い鰹木を並べ風穴のあいた千木がかぶとの様にぴんと突き出している。この形が日本のこころのふるさと「お伊勢さん」ではなかろうか。

20年毎の御遷宮の度ごとに街並みも道路も随分と様変りした。昭和28年の伊勢神宮遷宮を記念して、宇治山田駅前に建てられた伊勢会館。その頃は山田駅（今の伊勢市駅）の前から外宮、内宮と二見を結ぶチンチン電車がのんびりと、たおやかに走っていたのに。

（ますばやし　こうじ／日本建築協会東海支部幹事・㈱大和建築事務所所長）



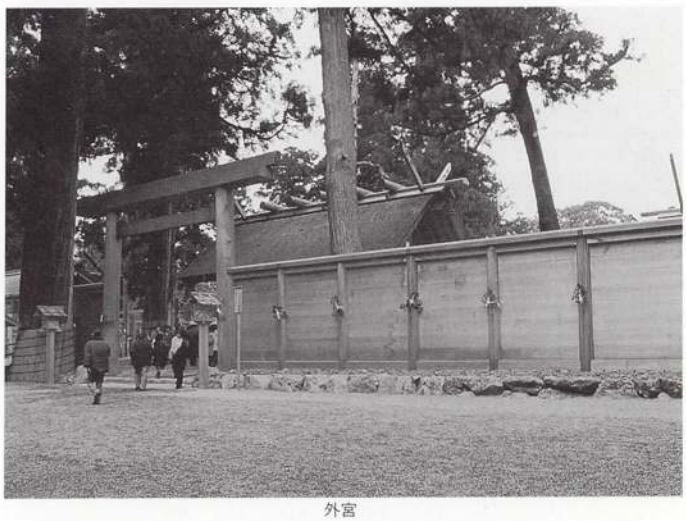
新宮のスケッチ（筆者）



新宮のスケッチ（筆者）



五十鈴川



外宮

「おかげ横丁」の企画意図

有限会社 伊勢福

1.「おかげ横丁」の事業目的

近世の伊勢神宮は民衆信仰の対象として特別の位置を占めていた。お伊勢参りに訪れる人は、最盛時には一日数十万人を数えたといわれる。伊勢は、参宮という名のもとに、近世封建社会の枠組から解放され、諸国の人々が階層を超えて触れ合うことのできる町であった。庶民にとっては、一度は行ってみたい憧れの地であり、日本一の広い神域をもつ神宮は、神々しさに満ちた非日常的な空間であった。全土からの参拝者を迎えて、伊勢の町は神と共に生きる町として、宿場町、市場町、さらに古市にみられる如く遊興の町としての性格をもつ明るい開放的な町であった。人々は、伊勢を訪れることによって、この上ない祈りと祭りの非日常的よろこびを体感することができたのである。

近代においても、その伝統的な風習は受け継がれ、津々浦々から町内や村内の団体、修学旅行の青少年が訪れ、伊勢の町は賑わった。しかし、戦後の伊勢は、民主化の中でその位置づけが大きく変化し、人々の信仰・祈りの面においても、また、行楽、観光の面においても、多様化がいちじるしく進み、全国各地の観光・行楽地のひとつに過ぎなくなってしまった。昔と何ら変わらぬ伊勢神宮の神域の荘厳さに比べ、伊勢の町には、かつての賑わいは見られなくなり、活気と魅力を失いつつある。当然のことながら、町のたたずまいもまた、次第に疲弊の色を濃くしつつあった。

「内宮おはらい町まちなみ保全事業」は、伊勢特有の建築様式である「切妻・妻入り」を基本として、往時の町並みを再生しようとするものである。平成元年9月、市独自条例「伊勢市まちなみ保全条例」の制定に至り、平成2年6月には「内宮おはらい町まちなみ保全地区並びに同保全計画」を告示し、保全事業をスタートさせている。伝統的建造物群保存地区のようにいわゆる凍結保存ではなく古いまちなみを新たに創出することに重点を置いている。このことにより、住民に過大な制限をおしつけることなく、現在の生活を損なうことのない、「生活のにおいのするまちづくり」を進めることができたのである。また、平成4年10月に無電柱化工事完了。平成5年7月には、おはらい町再舗装（石畳）工事完了。

「おかげ横丁」計画は、伊勢おはらい町の中心区域に、この町の伝統的な町並みを整備するとともに、三重県下の伊勢路に色濃く残る伝統的な建造物とその町並みを復元整備し、遊・食・楽の賑わいを創出するものとして計画した。本計画の推進によって、伊勢参宮客をはじめ、伊勢路観光に訪れる客に、新たな魅力づけをおこない、三重県下への観光、物産関連産業の振興・発展をうながすものである。

2.「おかげ横丁」の基本的な考え方

（1）基本理念

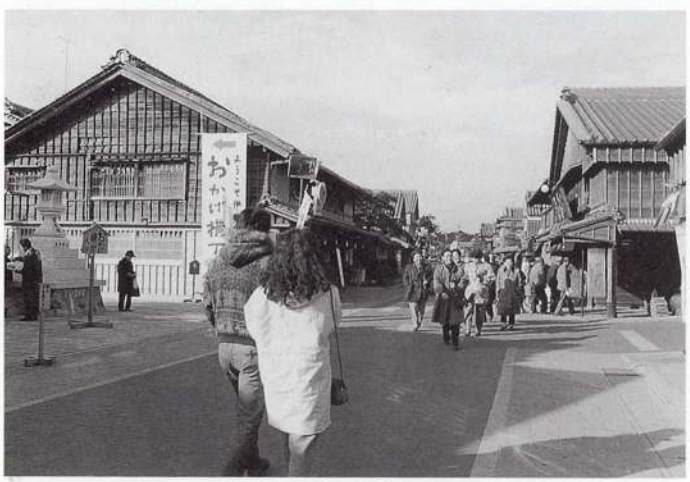
神宮のまち伊勢にふさわしい歴史と伝統文化の香り高い町並みを再現する。そして、味に、まつりに、伝統の技に加えて、新しい知的感動のある場を創出し、魅力ある、賑わいの町を再生する。それは、この町の伝統を継承し、未来に向けて発展させる「人づくり」につながるものである。また、地場産業の歴史をふまえ、文化と習俗にのっとって、バイタリティとクリエイティビティのある「ものづくり」（町並み、展示、催事、商品）＝“集客装置”を創造するものである。

（2）基本的な考え方

①「伊勢らしさの」の創造

●庶民的な界隈性にみちた情緒に富んだ町空間

伊勢神宮は庶民にとって親しみと憧れの「お伊勢さん」であった。



観光客で賑わう「おはらい町」



「おかげ横丁」のシンボル的な櫓（右前方）

そこから、伊勢らしさがうまれた。町は神と共に生き、庶民のあふれる明るい開放的な空間であった。人々が何の分けへだてなく触れ合える町であった。そのような庶民的な、界隈性にみちた町をつくる。

●情報あふれる町空間

全国から集まる人々は、この町に「おらが国」の文化、産業、物、情報のさまざまを持ち込んだ。伊勢は、全国の情報の受発信の巨大な基地であった。それは、伊勢ならではの機能であった。この町に来て、国に帰れば、ひとかどの物知りだった。全国津々浦々の情報をふるさとに伝える役割を果たした。このような、斬新で、価値のある情報の町をつくる。

●活気にみちた「もの」いっぱいの町空間

旅に「土産」はつきものである。店が並び、「もの」があふれる。「土産」には、伊勢伝来のものに加えて、諸国の材料と技術を生かして新しく作り出される「もの」が豊富だった。古いもの、新しいもの、めずらしいものがいっぱいの町をつくる。

●おまつり気分の町空間

参宮は「ハレ」旅立ちであった。はるばる訪れると、この町に入るだけで気分が高鳴る。町は毎日おまつり気分。まつりは人々の心を開放し、心をひとつに結ぶ。

②新しい息吹をつくる

●真心のある町空間

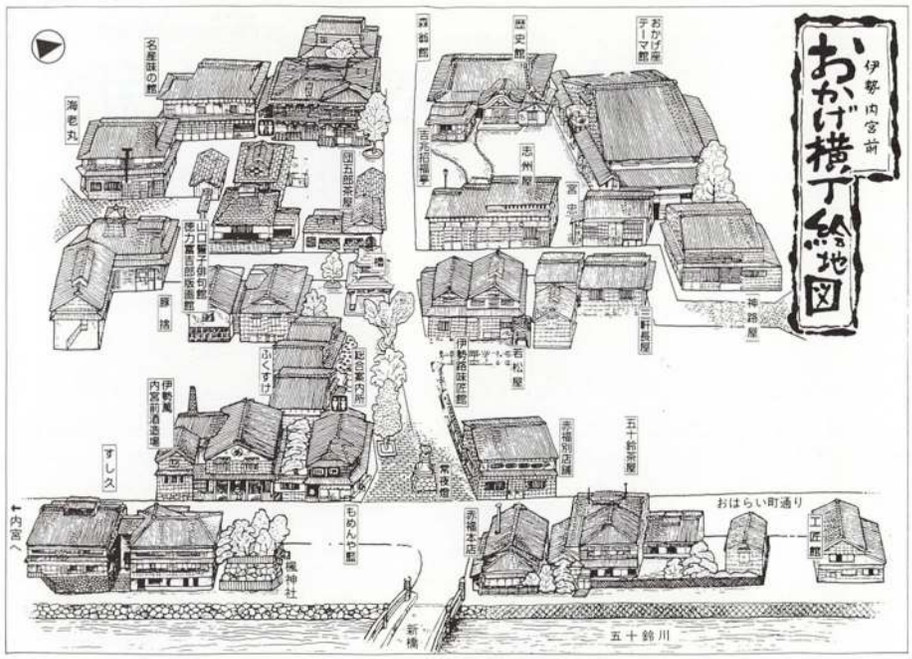
旅人の心に触れる感謝とおもてなしの心が、町の隅々まで広がる。旅は心一味に、ものに、心の映える町をつくる。

●文化をつくる町空間

伊勢の文化を正しく継承し、発展させ、地域の活性化と文化の向上をはかる。生き生きとした、文化を生み出す町をつくる。

●伊勢路をつなぐ町空間

この町には、桑名がある、四日市がある、津がある、鈴鹿がある、関がある、亀山がある、伊賀上野がある、松阪がある、志摩がある、熊野がある、—あの街の、この町の、魅力を売る情報がある。伊勢路を、旧東海道を、熊野路を一街道をつなぎ、賑わいを呼びおこす町をつくる。



「おかげ横丁」絵地図

③三重県をここに集める

●県下の“スグレモノ”を選び抜いて集める

三重県はリゾート法適用第１号という実績が物語るように、風光明媚な地であり、食の宝庫である。伝統的な物産、新しく開発される物産も多い。「おかげ横丁」は、県内各地の生産者、漁業従事者、工芸家たちの心のこもった品を選びぬいてここに集め、伊勢神宮に参拝する全国の人々が、これらのすぐれた品物を目の当りにすることができる町にする。

●村おこし町おこしの品々を集める

とれとれの魚介類、無農薬の農産物、添加物など一切使わない昔ながらの製法をかたくなに守っている食べ物などを発掘するとともに、村おこし、町おこしの生んだ品々を選りすぐって販売する。

以上のように、本事業は、人づくり、まちづくり、ものづくり、を通じて、新しい概念の賑わいを呼ぶ集客装置＝町並みを創出し、伊勢神宮をはじめとする三重県観光の振興につなげようとするものである。

（文責・中頭敏治／有限会社伊勢福）


江戸時代のお伊勢まいりを紹介する参宮歴史館「おかげ座」


おかげ横丁入口の「赤福本店」の庭

“古さを創造”した新しい町づくり

—おかげ横丁の設計について—

中村　浩裕

はじめに

古くから「お伊勢さん」として、全国的に親しまれてきた伊勢神宮は、昨年61回目の式年遷宮が行われた。それに合わせて、その門前町「お祓い町」の中心に、新しく、古い町並み“おかげ横丁”が誕生した。そこは今新しい観光のスポットとして、また伊勢路の旅の情報基地として脚光をあびつつある。

伊勢とお祓い町について

伊勢は神々の国であるといわれている。気候が温暖で豊かな自然に恵まれたその地は、生きる為の糧のすべてを自然に依存していた古代人にとって、まさに理想の土地であった。そこに定住し、その自然を神として崇めその恵みに感謝する心が、伊勢神宮とともに栄えた伊勢地方文化の基礎となっている。伊勢の人々は自らを神領民と称し、「神恩感謝」の精神を代々受け継いでいる、例えば式年遷宮のためのいろいろな行事は伊勢市民すべてが参画して行われるし、また昔は「おかげ参り」に全国から訪れる人々に食べ物やわらじ、宿や風呂まで無料で奉仕する「施行（せぎょう）」という風習があり、今でもそのもてなしの心は受け継がれている。おかげ横丁の在るお祓い町は、伊勢神宮（内宮）の清流五十鈴川に添った参道に商家が連なり、神宮の門前町として栄えた町である。その家並みはこの地方独特の建築様式をもつ、切り妻・妻入りの家が多い。その理由には諸説あるが、神宮の社殿が平入りであるためそれを憚ってこの形となったとするのが最も一般的であり、そこにも神に対する畏敬の念が感じられる。

江戸時代には年間400万人もの人々が、伊勢神宮の参詣に訪れたその人々を受けいれ、ご祈禱や宿の一切の世話をする「御師（オシ）」の館などもあってこの町は殷賑をきわめていた。その後、明治時代に御師制度が廃止になり、交通網、道路網が整備されるなど近代化が進むにしたがい、伊勢は観光地としての色彩が濃くなっていった。また宿泊施設がほとんど志摩地方に移行したため、神宮は観光の通過点となり、お祓い町もかっての賑わいが失われていった。

近年、各地で郷里再生の気運が高まりつつある中で、上記の状態に危機感をもったお祓い町の人々によって、町並みを保存再生する運動がおこり活発化した、その運動の提唱者でもあり、リーダーの役割をはたしたのが、お祓い町で創業290年の歴史をもつ老舗の「赤福」である。その町並みのほぼ中心にあり、再生運動の核をなすのがその「赤福」によって創られた“おかげ横丁”である。そのネーミングには、「おかげさま」という自然の恵みや人々への感謝と畏敬の念が込められている。



常夜燈（右）ともめんや藍



豚捨



おかげ座



三軒長屋と味匠館

おかげ横丁について

この横丁は6,500m²の敷地に19棟の店舗・飲食店・展示場が、伊勢の伝統的な様式を主体として建ち並ぶ町全体が明治時代のイメージで構成された、界隈性のある町である。それは今、日本各地でブームを巻き起こしているテーマパークと異なり、その地に根ずき、伊勢神宮の門前町として再生された「お祓い町」のなかに溶け込み、共に栄え生きつづける町である。

時代設定を明治としたのは、文明開化でいろいろな外国文化が急速に導入されるに伴い、建築様式も多様化を極めていた。そのさまざまな様式を町並みに取り入れ、過去の様式と混在させることにより、歴史の集積を感じさせるとともに、町全体が変化に富んだ活気あるものになることをねらったためである。

店舗や飲食店は、江戸時代からこの地方に伝えられた切り妻・妻入りの建屋に、外壁を「なん張り」とよばれる下見板で覆われた町家や大店風の商家であり、又、あるものは、明治時代に来日した外国の建築家の設計による本格的な様式建築や、当時の大工が洋風をまねて造った疑洋風の建物などである。それらの建物の一部は三重県内にあった歴史的な建物を、移築したり、デザインを模して造られた。伊勢の歴史や風俗を映像と1/2モデルの人形や模型で紹介する展示館は、昭和初期までこの地にあったといわれている「長盛座」をイメージして造られた芝居小屋風の建物である。また建物以外にも、界隈性のある町空間を演出するため、横丁の中央には、シンボルとなる常夜燈や太鼓やぐらを配置し、路地(伊勢ではセコという)にはバッタリ床几やいぬやらいが点在している。以上の建物や修景物はすべて、設計の段階から材料・工法にいたるまで、“本物”にこだわって造られている。ただ、このような伝統的な建物は、歴史的な価値はあっても現代の生活には不向きである。したがって我々の設計は“古さを創造する”ことをコンセプトとしてすすめられた。

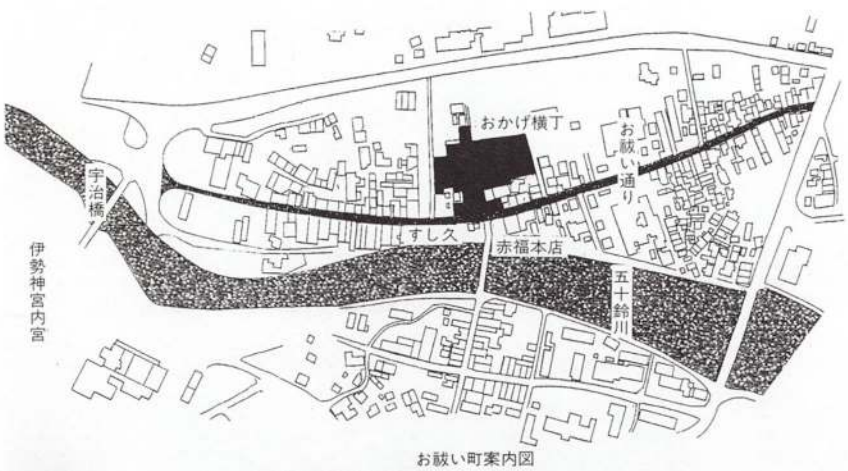
その1つは、古い建物を細部に至るまで時代考証にもとずいて再現することであり、それは様々な先人たちの匠の技や智恵を活かしながらも、反面、遊び心でのいろいろなオリジナルデザインも取り入れてまとめられた。他の1つは、古い建物を快適な生活空間とするため、現代の新しい機能を取り入れることであるが、それはエネルギー供給・防災システム・汚水処理などの設備からサービスに対する配慮まで、古い建物のイメージを損なうことなく取り入れられている。材料や工法の面では、主な材木は、日本椙を原木のまま購入し、乾燥から製材まで現地で行い、それぞれの木の癖をみながら、伝統的な匠の技によって組み上げられた。その他、屋根瓦や土壁・土間のタタキなども、すべて伝統的な工法によって造られている。

むすび

「おかげ横丁」は、初期の調査からはじまり設計施工に約5年の歳月を要して完成した。それは工業化が発達し、建設の技術が著しく進歩した現代にあっては、考えられないほど長い工期である、しかし、今後幾世代も生きつづける建物を造るためには、自然の力を借り、自然と調和させながら進めることの大切さと、それを知る匠たちの伝統的な技術を今後も伝えつづけることの大切さを、あらためて教えられた思いである。オーナーをはじめ、いろいろな方々のご協力によって完成したこの横丁は、まだ白木の新しさが目立つ町並みであるが、今後、年を経るにしたがい、お祓い町と共に、あたかも百年も前からそこに在ったようなたたずまいで人々を迎え、懐かしさと安らぎを与えつづけることを願うのみである。

(なかむら　ひろやす／清水建設株式会社名古屋支店設計部設計長)

設計　清水建設設計本部名古屋支店設計部
竹中工務店名古屋支店設計部
高橋徹都市建築設計工房



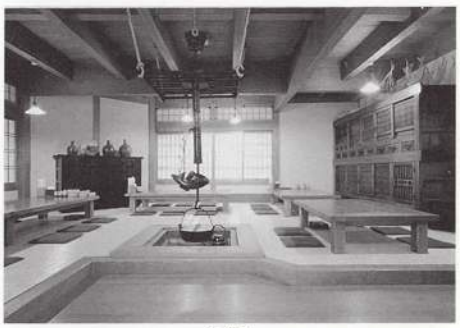
お祓い町案内図



おかげ横丁案内図


太鼓櫓


団五郎茶屋


海老丸

遷宮の歴史と共に咲きつづける美の精華

河原　光江

ここは心のふるさとか
そぞろ詣れば旅ごころ
うたた童にかへるかな（吉川英治）

1．神宮と式年遷宮

伊勢の神宮は皇祖天照大御神をお祀り申し上げ、日本民族の総氏神、日本人の心のふるさととして、全国民から仰がれている聖地であり、民族文化の源流といえよう。

平成５年10月、神宮では第61回式年遷宮が厳かに斎行された。式年遷宮とは、20年に１度、御正殿をはじめ諸殿舎、ならびに千数百点におよぶ御装束神宝にいたるまで、すべてを古式のままに造り替え、大御神にお遷りいただく祭りをいう。この制度は天武天皇のお定めのもと、持統天皇即位４年（690）に皇大神宮の第１回式年遷宮が行われてより、「皇家第一の重事にして神宮無双の大営」と称され、悠久1300年もの間くり返し執り行われてきた神宮最大の祭りである。

神宮に寄せる国民の信仰心・崇敬心は、各種献納のかたちで神宮の歴史の一端を形成してきた。かつては貴重な写本をはじめ、典籍類が中心の時代もあったが、次第に美術・工芸品が作者ならびに所蔵者の誠心の表象として献納されるようになった。殊に20年に１度斎行される式年遷宮に際しては、国民から幅広い奉賛を仰ぎ、募財という経済的な面はもちろん、美術・工芸品の献納の機運が醸成されていった。

一例をあげれば、昭和28年の第59回式年遷宮の折には、遷宮の奉賛事業の一環として、美術・工芸の方面でご活躍の方々の賛同を得て177点におよぶ作品を献納していただいた。それらは現在、神宮徴古館において収蔵・展示している。

2．美術館の黎明

この度の遷宮にあたっては、先に見られるような日本文化と神宮との関わりを重視して、昭和63年４月の遷宮委員会において、第61回式年遷宮の付帯事業として式年遷宮記念神宮美術館の創設が決定された。

神都伊勢の文教地帯ともいうべき倉田山丘陵。ここには以前より神宮の施設として文化社会事業に有力な一翼を担って来た神宮徴古館（撤下の御装束神宝をはじめ、神宮崇敬の歴史資料等を収蔵・展示の博物館）や神宮文庫（国宝『玉篇』をはじめ神宮に伝来の和漢書24万冊を収蔵の図書館）がある。これらに隣接する閑静な一角、神宮農業館の跡地に平成４年11月17日当館は竣工した。銅板葺勾配屋根を持つ日本の伝統的様式をふまえたその建物は、一部に２階や地下２階があるものの、全体としてはゆったりとした平屋造りの感が強く、神宮の美術館にふさわしく素木の美しさを十分に生かし、自然との調和を配慮した現代建築である。

収蔵品については、式年遷宮の執り行われる20年ごとに当代最高の美術・工芸品を献納いただくことにより、我が国の芸術・文化の最たるものを遷宮の歴史と共にきめ細かく跡づけてゆき、将来的には日本の美術史・工芸史を省みることが出来るよう発展させてゆくという全国的にも例を見ない画期的構想を持っている。

作品献納をお願いする方々については、遷宮委員会の中に特別委員会が設けられ、献納作品が当代日本文化の精華として永く後世に伝えられるという意味からも、文化勲章受章者・文化功労者・日本芸術院会員・重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）の方々に限らせていただいた。またその作品は日本画・洋画・彫塑・書・工芸の各分野にわたり、テーマやサイズ等の条件を限定せずに依頼す



展示廊



展示室Ⅰ

ることが奉賛の真義にもかなうもので、最もふさわしいものであると決定された。

以上の特別委員会の各種決定事項をふまえて、発起人有光次郎氏（前日本芸術院長）、内藤頼博氏（前学習院長）、細川護貞氏（遷宮委員会委員長）、河北倫明氏（美術評論家・当館館長）、犬丸直氏（日本芸術院長）の５人の方々の呼かけに対して、健康上の理由により辞退された数名の方を除いては、全員の方から賛同が得られ、平成５年８月31日までに85名の芸術家から90点の真心こもる大作・秀作が献納された。

３．美の殿堂

数々の準備を綿密に行い、平成５年９月21日に開館式、10月１日に一般公開を無事にむかえることが出来た。

開館式にあたり当館館長の河北倫明は、

> これは世界に類のない、一国の代表的な美術家・工芸家の作品を一堂に見せる美の殿堂です。作品はすべて式年遷宮へ奉賛し、自分の大事なものを捧げるという熱い志に基づいて御献納いただきました。その成立の精神において、またその在り方において、無類の風格を持ち、どこまでもわが国の美と芸術の心を伝え、発展することと思います。

と挨拶し、当館の進むべき道を改めて明言した。

10月１日の開館以降、遷宮後の新宮参拝の方々や、新たな年をむかえ初詣の善男善女等多くの入館者をむかえている。その多くは全国津々浦々からの神宮参拝者であるが、近隣の人々にとっても初めて出来た地元美術館への期待を胸に、何度でも訪れていただけるような美術館づくりを目指している。

一方、広く文化・教育活動を推し進め、日本美術の研究施設としても充実させ、社会に貢献してゆかねばならないと思う。

東洋史研究者のフャリシア・G・ボックは、第60回遷宮の折に「ご遷宮は過去の時代との一体感であり、歴史の実感であり、民族全体にとっての生命の持続であり、実に全人類の世代が伊勢で一つになることの出来る、断ち切られることのない同族の意識である。」と感想を述べている。これは、神宮美術館が設立されるべくして設立されたということを表す言葉ではないだろうか。遷宮の年ごとに日本文化の粋が伊勢に集結するならば、永遠に続く遷宮の歴史と共に、日本の美の変遷を、当館で体感することができると言うことになりはしないか。その意味において、遷宮奉賛美術品は日本という国が、また日本人という民族が続くかぎり、固有の信仰の上に咲きつづける美の精華と位置付けたいと思う。

伊勢志摩にお越しの際は、神宮美術館にお立寄りの上、百花繚乱の日本美をご堪能いただくよう、ご案内申し上げる次第です。

（かわはら　みつえ／式年遷宮記念神宮美術館学芸員）



中庭



展示室２



外観

式年遷宮記念 神宮美術館の設計について

種村 強

この美術館の設立は、神宮の第61回式年遷宮を記念し、この先20年ごとに献納される当代一流の美術品を公開展示並びに収蔵保存しようという、言わば日本の美術史の足跡そのものをも所蔵するとともに、広く後世に伝えその発展に寄与しようという他に類を見ないまさに画期的な建設趣旨に基づいている。

敷地は内宮と外宮のほぼ中間に位置し、神宮徴古館など神宮の文化施設のある倉田山が選定された。この倉田山は緑に恵まれた環境で、皇大神宮の別宮である倭姫宮とそれを囲む森やそれに連なる自然林のなかにそれらの施設がある。その施設の一つ農業館を解体移転することとしその跡地に、神宮徴古館と道路を隔てて建てられることとなった。

設計するにあたってのテーマは主に、この倉田山の自然環境との調和と既存施設とのストラクチュアーとしての整合性の確保、そして当然のテーマながら、これらの建築の設計において近年ことに論議の的となる美術品（展示品）とそれを包む建築空間の意匠とがどう関わるべきか、ということと同時にそれがどこまで「流麗軽妙なるもの」に迫れるか、という点を主眼としたものである。

前者については、周辺環境との調和ということと、博物館を主用途とする神宮徴古館（明治42年、片山東熊）が洋風建築であることから、「和風」を意匠の基調とした。即ち神都伊勢というところの、しかも風致地区である敷地及びその周辺の自然環境を出来るだけ生かすということに対して、内と外の空間が呼応する空間構成とすることで、寛いでいただける美術館とすること、あるいはまたそのこと自体がまわりの自然環境と一体となって佇むような外観を表現するように、そして「洋風」との対峙によってそれぞれの個性を高め合うように、といった意図からいわゆる「和風」とした。そしてこれからさらに伊勢の芸術文化ゾーンとして展開するであろう倉田山の文化施設全体の整合性ということから、神宮徴古館の軸線に基づいて建物の向きを決め配置計画を進めた。後者については、一つの在り方としてまず、洋の東西を問わず建築（空間）と美術とが渾然一体となって表現された言わば空間芸術を、鑑賞というよりはむしろ体感するといった空間があり、また一方、多様化する美術あるいは芸術を主体として個別、分類化し、建築（空間）をそれに対して言わば「従」とする、要するに機能性を重点とし建築的には表現を抑え無性格化する方向がある。ここではこの両者の善し悪しを問うのではなく、それぞれの特質を生かしながら全体を構成するように設計した。

意匠計画の多少具体的な点を述べるとすれば、マッシブな形態を避けるとともに出来るだけ開放的な空間を得るために、ゆったりとアプローチするための前庭と、建物全体にとって求心的な役割を果たすための中庭を配し、主に4つに分割した主屋をこの中庭を取り巻くようにそこに新設した池と絡めながら構成し、それらを繋ぐ渡り殿的な棟とをそれぞれ雁行させて平面を構成した。公開部分の動線はこの中庭に沿って巡るように用意されている。これら各棟の屋根の構成がこの建物を平面的にも立面的にも大きく規定している。重層する屋根、庇とそれらを支える軸組がつくりだす空間と陰影が建物外観に奥行きのある言わば伝統的な佇い―「和風」としての表現を与えているが、そのデザインは使用材料、技術も含めてあくまでも現代を志向したものである。主屋4棟は、玄関棟、展示棟2棟収蔵庫棟からなる。この展示棟を前述したように、一つはこの美術館本来の目的である献納美術品の主に常設展示にふさわしい空間とすべく木造作を施した言わば書院風の建築空間として独自性を強調



正面



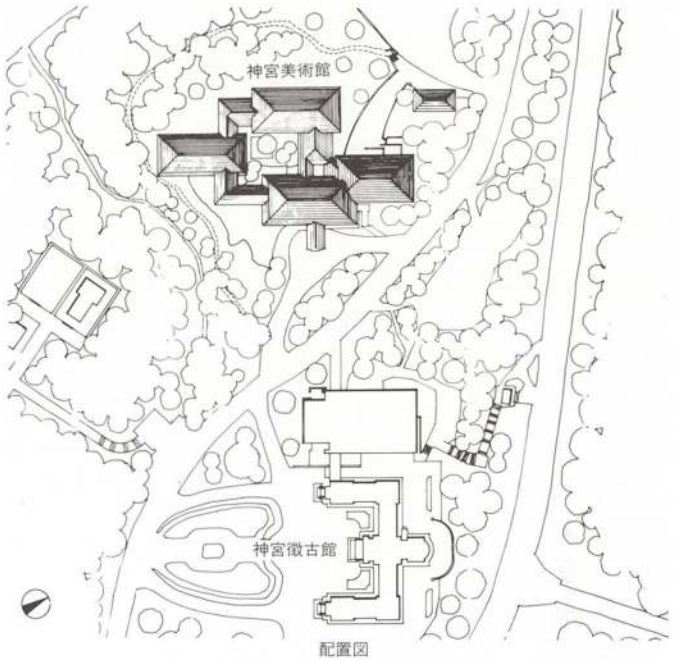
広間

し、もう一つを多様な展示のできるよう無性格な空間意匠とした。玄関棟、展示棟など公開部分のメイン空間の内部意匠のテーマとして文字通り「木造」としての意匠を使い分けることにより、この建築に規範を与えるとともに、空間に「やわらかさ」とか「優しさ」とかいった親近感のある雰囲気を醸し出すようにした。

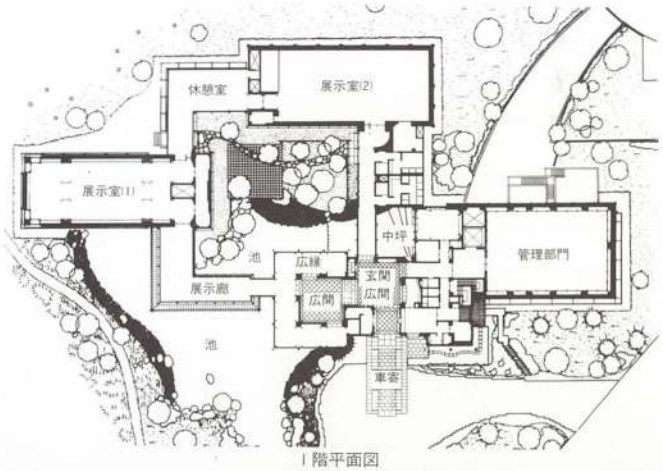
設備計画としては言うまでもなく、美術品の快適な展示・保存収蔵を主眼とし、併せて周辺の良質な環境を破壊しないよう、また少人数によるその有効な維持管理のための監視・制御システムの導入など、省エネルギー化を考慮しながらできるだけ最新技術による設備を施している。

最後に、よく「消費の時代」と言われる現代社会において、建築もまたその大きな流れに呑み込まれるように物質的に肥大化、商品化され、その本来の価値を失いつつあるといった状況が多分に見受けられる。当代一流の美術品という大いなる芸術遺産がそうであるように、建築そのものがその時代を反映しながらも、その規範、あるいは本質において文化的価値を失うことなく、大きな歴史のなかでその文化の表現として位置付けられることを願わずにはいられない。大江宏先生が最後までよく言われていた「歴史意匠というヴィジョン」—即ち、歴史のなかでその文化と一体となってさまざまに開花し、いまもなおその露頭を重層させながらも現前させている「もの」、あるいは形式といったものを見据えながら、そしてむしろそれを伝統としてこだわったり固定化しようというのではなく、現代におけるその表現の一つの可能性としての「流麗軽妙なるもの」についてさらに研究、研鑽を重ねていきたいと、この美術館の設計に携わる機会を得て、いま改めて思う次第である。

（たねむら　つよし／大江宏建築事務所主任）



配置図



1階平面図


中庭


展示室(1)

斎宮歴史博物館の建設について

榊　靖雄

1．三重県における博物館の整備について

現在の県立博物館は、昭和28年に総合博物館として建設され、その後昭和47年に三重県文化審議会の答申により、昭和57年に美術館が建設されたが、美術部門以外は未整理になっている状況にあり、博物館の老朽化と狭隘が問題となってきた。

本県の第２次長期総合計画の中においては、魅力ある文化活動の推進、文化財の保護活用のため、県立博物館、埋蔵文化財センターの整備のほか、国史跡斎宮には歴史博物館の設置が明示された。

これらの背景をうけ、昭和60年、県は三重県文化審議会に対し県立博物館整備に関し意見を求めたところ、全県的視野にたった学術研究・資料収集、県民の生涯教育・学習機能の充実、県下の美術館・文化会館の中枢としてのセンター博物館と畿内と深いつながりをもち内陸特有の歴史風土をもつ伊賀地域、動植物の宝庫であり、すぐれた自然をもつ北勢地域、斎宮・神宮領など伊勢神宮と深いかかわりをもって発展した南勢地域、森林地帯とリアス式海岸を背景とした独自の生活文化を営む熊野地域、および21世紀に生きる青少年への科学博物館など地域の特性を生かしたテーマ博物館との組合わせによる「三重県における博物館構想」を答申した。そして、その中でセンター博物館と斎宮を中心とするテーマ博物館は県によって建設するという内容であった。

2．伊勢神宮と斎王

斎宮（いつきのみや）とは、歴代天皇に代わって、伊勢神宮に遣わされた斎王（いつきのみこ）の御殿と、その事務を取り扱う斎宮寮（いつきのみやのつかさ）という役所をあわせたよび方である。斎宮の起源は、記紀によれば、崇神朝にさかのぼるとされるが制度的には７世紀後半の天武朝のころからで、その後、南北朝期の約660年間の長きにわたり存続した。ここでは都から遣わされた皇族の姫君が伊勢神宮の祭祀を司る斎王として神に清浄な日々を送ったとされている。記録上に残る最初の斎王は天武天皇の娘、大来皇女で、そののち日本が律令国家として整備されていくにつれ、斎王制度も整えられていき、また、斎王の生活とその職務に関する事務を司る斎宮寮も令外の官として、都からの官人百数十名を含む500余人の人びとを擁する役所として発展していった。

斎宮の存在は、平安期に編纂された「延喜式」に記述されており、三重県多気郡明和町内に斎宮という地名があることから、その付近にあったのであろうと推定されていた。斎宮は多賀城や太宰府に匹敵する古代律令国家の重要な出先機関であり、また「源氏物語」「伊勢物語」には群行前の野宮や斎宮の様子が記され、「大和物語」には「たけのみやことなむいひける」と記されるなど、都風の華やかな王朝文化の花園であったことは想像に難くない。

昭和45年の宅地開発を契機に、20年余りの発掘調査において660年間におよぶ期間における多数の遺構や遺物が発見され、斎宮跡の実態が次第にあきらかになりつつあり、その規模は東西２キロメートル、南北700メートルにおよぶ面積140ヘクタールの広大なもので、史跡の西部では奈良時代のものが、中央部から東部にかけては平安時代のものが多くあり、斎宮の建物は時代により場所を変えてつくられていたようである。特に史跡東部では、道路および溝によって区切られた平安時代初頭の区画が碁盤目状にならび、区画内には多数の掘立柱の建物が整然と建ち並んでいることがわかってきた。

600年の眠りからさめた「幻の宮」は、古代における国家と伊勢神宮との関わりとともに、我国の政治文化解明に欠く事の出来ない貴重な遺跡として昭和54年国史跡として指定を受けた。



斎宮跡全景



斎宮寮模型

3．博物館建設計画について

140ヘクタールにおよぶ広大な史跡の保存と活用は大きな問題であり、その中に住む住民2000人近い人々の生活と調和のとれた現代的活用を図るため「三重県における博物館構想」をもとに斎宮歴史博物館が建設されることになった。

建設場所は博物館と史跡との一体的な活用を図るためには史跡内に博物館を建設することが最善と考え、建設場所は史跡西部の古里地内に決定された。博物館建設計画の基本構想における基本的性格は、(1)本県博物館構想に提言されているテーマ博物館として位置づける。(2)斎宮および本県に関する特色ある資料を中心に展示し、県民が本県の歴史を正しく理解し、県民文化の創造に役立つ歴史博物館とする。(3)斎宮跡をサイトミュージアムとして整備し、博物館はその中核的施設とする。(4)心のゆたかさと創造性に富む、ひとづくりの推進に資するとともに、生涯教育に役立つことであった。

これを受けて、建築設計における基本方針は、(1)斎宮を中心に、その背景となった本県の歴史を紹介する。(2)斎宮のもつ国家的性格、歴史的特異性など、全国的に稀有な内容を強調する。(3)生涯学習の場として幅広い層に親しめる展示内容とする。(4)博物館周辺の整備された史跡と整合する展示内容とする。(5)表現方法は実物資料と合わせ、模型・模写などを用い、効果的表現とする。(6)感動と迫力を与える視聴覚機器により、見るものに強く訴える。(7)県立埋蔵文化財センターの普及公開機能を担う展示とする。の目標のもと、元奈良国立文化財研究所長坪井清足氏を委員長とする斎宮歴史博物館建設指導委員会の指導および文化庁の助言を得て、昭和61年秋から62年夏にかけ、建築設計に取り組み、平成元年３月末、外構工事を含むテーマ博物館が完成し、同年10月にオープンした。また、展示内容は、大型スクリーンによる斎宮の紹介、斎宮寮の全体模型、古代衣裳を着た人形、これまでの発掘調査によって得た出土品、祈りをテーマにした三重県の歴史の紹介などである。

4．地域との連帯

斎宮歴史博物館は、伊勢神宮とのかかわり、歴史探訪ブーム、源氏物語、伊勢物語などの文学要素、そして女性としての斎王の生涯など歴史、文学、考古学、宗教といった多方面の人々の関心を呼ぶ魅力に富み、広く全国からの来訪者を数え、年間約８万人余りに達している。



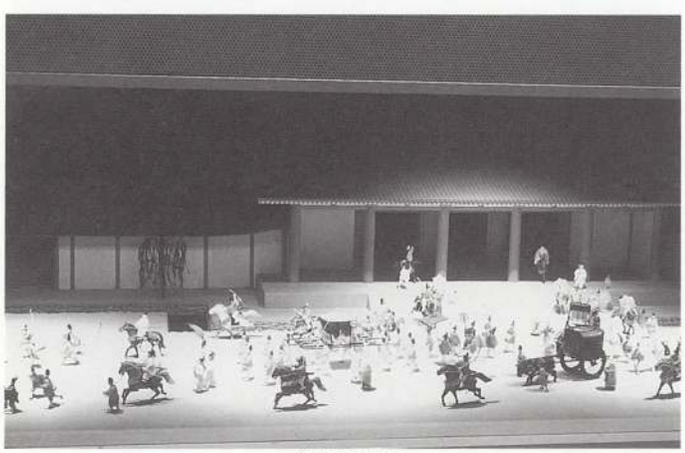
祈る斎王像

博物館オープン以後、斎宮とかかわる幅広い内容の展示会、シンポジューム、講座の開催や、市民参加による体験史跡発掘、現地説明会の開催、および他の博物館との交流による情報交換や学芸員による地道な学芸活動など、博物館を中心とした多彩な活用がなされており、また博物館に併設された埋蔵文化財センターは県下の発掘調査の中心的役割を果たしている。

地元明和町は斎宮に誇りをもつ地域住民とともに毎年６月、斎王まつりを史跡公開とともに、町ぐるみで開催し、まちおこし・地域おこし運動を展開している。

21世紀を迎える今日、物の時代から心の時代へ移りつつあり、史跡を通じた文化振興と県民生活の豊かさへのステップがテーマ博物館である斎宮歴史博物館を中心に築きあげ高揚したことに関し、三重県として喜ばしく思っている。

（さかき　やすお／三重県土木部都市住宅局建築営繕課営繕室室長補佐）



斎王群行模型



展示室(1)

斎宮歴史博物館の建築計画

前田　佐智男

斎宮歴史博物館は、国史跡「斎宮跡」の中に建てられたテーマ博物館であり、史跡全体を含んだサイトミュージアムでもある。またこの史跡の発掘調査は、今後21世紀へも継続するため、斎宮跡の埋蔵文化財調査センターとしての機能も充実・強化されている。

施設の構成

博物館の施設内容の主なものは、四つの展示室と展示ホールを持つ展示部門、及び講堂、図書コーナー、レファレンスカウンター等による教育普及部門、三つの収蔵庫と写真室、搬入ホールを持つ収蔵部門、そして調査・研究部門、事務・管理部門である。

展示計画の特徴としては、「斎宮」という発掘資料だけでは理解しにくいテーマであることから、展示手法として物と映像と音響を用いた「シアター」スタイルの展示を、映像展示室で行っている。これはコンピューター制御による20分間のプログラムにより、斎宮と、その制度をガイダンスするもので、「展劇手法を用いた展示」として、大規模な例はまだ少く、最新の電子機器の進歩が可能とした新しい展示スタイルである。また常設展示室は斎王を中心としたテーマ展示室と、それを生み出した三重県の風土と歴史をまとめた第二展示室とがあり、特別展を企画するための特別展示室も持っている。

収蔵部門は今後発掘調査が進むにつれて、大量の埋蔵文化財の出土が予想されるため比較的大きな面積を占めているが、将来的にはさらに拡張が可能な計画としている。また、調査センターの機能も重視されているため、発掘した土器片等の資料を整理したり、記録する研究部門の処理がスムーズに行えるような動線計画を考慮している。さらに屋外にも十分な作業ヤードが必要であることから、収蔵部門と研究部門との間に搬入、作業のための中庭を作り、外部の一般来館者からは見えない場所で作業が出来るようにしている。

エクステリアとインテリアデザイン

博物館の外装は、自然の十分残された周辺環境と調和したものとなるように、炻器質タイルを選択した。表面処理は、ステンレスビーズによるショットブラストとすることで光沢を抑えた表現とするとともに、大地から空へと色相のグラデュエーションを与えることで、公園全体の環境の中に建物がとけ込むよう意図したものである。ショットブラスト処理は、タイルだけでなく、アルミサッシュやアルミ笠木、また外部の舗装にも行っており、アルキャスト製の庇のディテール処理とともに、全体として柔らかで落ちついたテクスチャー表現を考慮したものである。

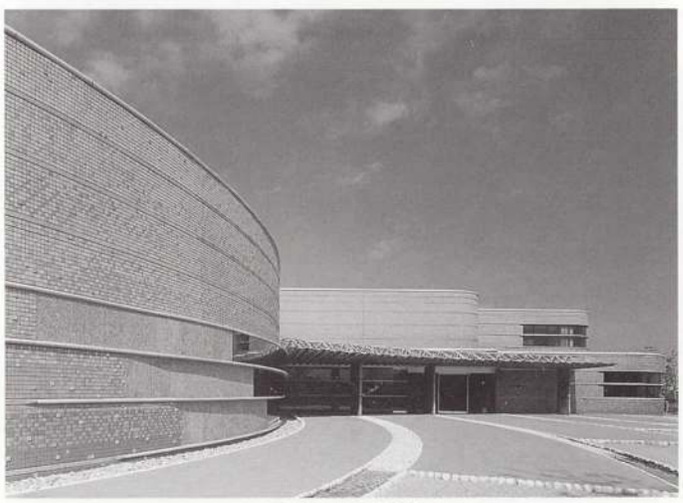
またエントランスホール及び展示室へつながる展示ホールの壁、床仕上には、少し紫系の混じった御影石を選び、水平に外部から貫入してくる横目地に、アコヤ貝を張っている。天井は光の帯の反射や曲折の効果をねらって、GRCによるルーバー天井に間接照明をビルトインしたものであり、王朝時代のかな文字のような、どこまでも優雅でなめらかな曲線の表現を意図したものである。

遺跡の保存

敷地は、国史跡「斎宮跡」の史跡内にあるので、遺構面を破壊しないで建設する必要があった。建設に先だって行われた発掘調査の詳細なデータを分析した結果から、基礎構造は全ピット方式によるベタ基礎工法として、建物周辺には盛り土を行っている。遺構面まで1ｍ足らずしかなく、また遺構面の地耐力もそう期待出来ないため、地中梁にもプレストレストを導入して接地圧の均等化を計ると



アプローチより遠景



アプローチより近景

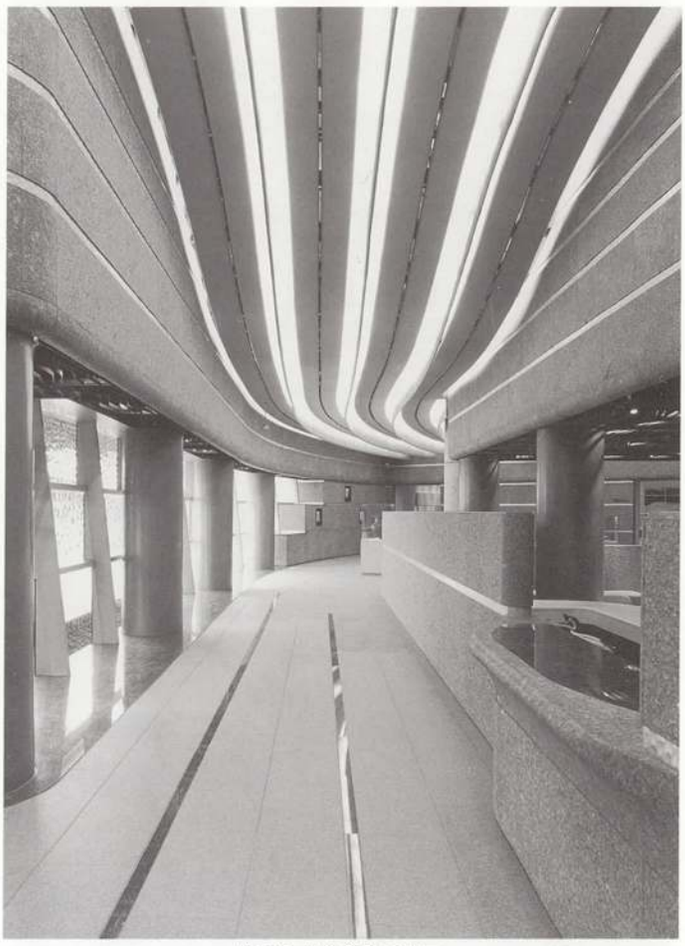
ともに、平面的にも荷重の分散しやすい安定した形となるような平面計画とした。遺構面の保護は仮設工事にもおよび、敷地内の仮設建物をはじめ工事用電力の引き込み柱に至るまで、すべて保護のための盛り土をした上で建設されている。

斎宮歴史博物館の今後

歴史遺産と共生するということは、単に歴史的な記号を現代の意匠に拡大し増幅してアレンジすることではなく、むしろ歴史の中に保存されてきた遺伝子を解析することによって現代の素材による新しい空間表現を開拓することではないかと思う。王朝文化華やかなりし頃の雅の世界と神に仕える厳格な生活、そしてひとときの恋―斎王たちが辿った歴史の証を、どこまでもなめらかで優雅な曲線やその重なり、そして色彩の変化や光の曲折と反射とを通して表現することで、歴史的時間である今を貫いて過去から未来への伝承が、行われれば幸いだと思う。

又、先に述べたように、この博物館は、いまだ全容を解明されざる斎王、斎宮、斎宮制度をテーマとするテーマ博物館であり、地下遺構を保全しつつ、史跡全体をサイトミュージアムとして整備し、研究者はもとより地域の人々、広く一般の人々にも史跡の意味と意義を理解してもらいながら、憩いと学習の場として利用されるべく建設された。優れた博物館の例が多く示すように、学術的調査研究の深まりとその理解の社会的拡大、言いかえれば、歴史遺産と現代との共生はシンクロして進められるべきであり、働き・ムーブメントとしての博物館活動がより一層生き生きと展開される器としてこの博物館が、その役割を果して行ってくれるものと信じている。

（まえだ　さちお／㈱梓設計名古屋支社支社長）



展示ホールへのギャラリー



展示ホール



常設展示室（1）



映像展示室

伊勢おはらい町の遊び心

語りかけてくる'しかけ'たち

井上　昭彦

商店街の活性化や街づくりを手掛ける者として、雑誌等に発表された「おはらい町」の再開発は、ある意味で驚異であり、またうらやましいものでもあった。名古屋市等の大都市の商店街では再開発といえば超高層の街並みをつくり、いかに有効な土地利用を図るかに腐心することが使命である。確かに地価やその他の条件に大きな違いがあると思われるが、土地活用のために街としての魅力やヒューマンスケールに基づいた、ほっと出来る空間づくりを忘れがちな我々に一つの示唆を与えた意味で高く評価されるものであろう。一度訪れて、この目でしっかりと確かめようと御参りが少ないであろうと思われる暮の月曜日にお伊勢参りを兼ねて訪れたところ、予想に反して大変な賑わいを見せており、これぞ観光地、これぞ門前町としての感を新たにしたものである。

おはらい町全体の環境整備としては気になるところもある。駐車場からの案内、動線の不明確さ、参道への車の乗り入れによる歩きにくさ、カラー舗装の素材感、五十鈴川と参道を結ぶ抜け道の演出など細部での詰の甘さを感じさせる。しかし、それらを乗り超える「おかげ横丁」の楽しさがあった。

おはらい町は地形的に見て歴史的には脇参道ではなかったかと思われる。車社会で道路網整備によって駐車場から内宮までの本参道として、格上されるとともに参道としての風格づくり、門前町としての賑わいづくりが要求されてきたものと勝手に想像するが、大規模開発ができるにもかかわらず、明治にこだわり伊勢の歴史を守ろうとした姿勢には敬意を表したい。さらに、本物にこだわり、あえてコストアップにもつながるであろう木造土壁などの在来工法によって木のぬくもり、土のぬくもりを感じさせていることは敬服に値する。

おかげ横丁では、舗装材の大半が錆石の石畳で温かみを感じさせているほか、土舗装の部分も多く、人々をほっとさせる要因になっている。また団五郎茶屋の軒の高さ、座敷に座ってみる目線からの視界に一寸した植え込みの緑が見えるような細部にわたる心配りが感じられる。道の幅も路地空間として適当な広さであり、軒の高さも低めに押さえられておりヒューマンスケールを感じさせる処理がなされている。建物の配置も鍵型の路地構成でアイストップを作ったり、一見十文字の道路でありながら回遊性があったり訪れる人々を飽きさせないようにうまく変化をつけて構成されている。

それ以上の驚きと興味をおぼえたのは、おかげ横丁で見られた設計者のちょっとした遊び心であった。それは雑誌や、パンフレット等でもほとんど触れられていないもので、ちょっとした目線の先に置かれており、控え目でありながら心暖まるアクセントとなっている。それは設計者が大々的に宣伝しなくても見る人に分かればよいといったほくそ笑みが感じられるものである。例えば、乾物屋の屋根に猫が寝そべっていたり、まねき猫の置き物などを売っている店の看板の先にねずみがいたり、軒に「はと」や「からす」が羽を休めていたりの姿はこんな現象もあろうかと思わせるちょっとした仕掛である。特に乾物屋と猫の取り合せは、あたかも魚の干物を盗み食いした猫が満腹して寝そべっている様で思わず笑わされてしまう。

軒先の丸瓦の家紋は各種の寺院等で見られる手法であるが「赤福」のロゴマークや郵便局の〒マークをいれたり、「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ、尾張なごや城でもつ」というような文句などが丸瓦に綴られているケースはあまり見かけたことはない。その意味でもクライアントのゆとりと遊び心を彷彿させるものといって良いものであろう。そのほか目に付いたものとして煙突上部の中央の丸い玉がある。実際に薪を炊くかまどの煙突であるところから防火のためのダンパーの役割をするものだとか、単なる飾だとかの論争の結果、



屋根に寝そべる猫



看板の先の瓦のねずみ

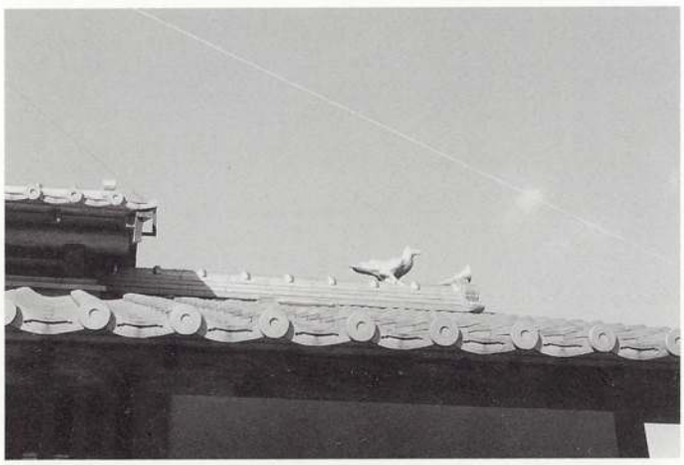
地元の人に聞くのが一番早いと釜を焚いているおばさんや名物の車引きのおじさんに尋ねても、丸い玉そのものの存在に初めて気付く有様で結果としては分からないままである。ワイヤーの引っ張り方、先端の持ち手等から煙突掃除のための仕掛けであろうと勝手な解釈をしているが真偽のほどは不明のままである。こうした遊び心は、我々が街並みの演出のためにモニュメントや彫刻を目立つ様にセットするのとは違い、ひかえめな表現でありながらも心憎いまでに存在を主張し空間構成のかくし味的なものとして、その場にあった意味やユーモアといった〝粋〟を感じさせてくれる。これは、かって裏地に凝ったり、刀の目付に凝ったりといったお洒落心のあり方や、心のゆとり、さらに日本人特有の奥床しさの表れに通じるものではないだろうか。

これらの'しかけ'たちは、決して出しゃばることなく秘かに語りかけてくるものばかりであるが、それだからこそ人に近い存在であり、この'しかけ'たちをきっかけに人と空間、さらには'しかけ'を話題として人と人との対話が生まれてくるのではないだろうか。

このような人と空間、人と人との対話を誘発するようなしかけの存在こそが、おはらい町やおかげ横丁を昔の門前町というものを現代に再現しただけの懐古趣味的なテーマパークとしてではなく、活気ある町、生きている町、ゆとりある町を作り出している一つの大きな要素ではないかと思う。おはらい町は人の存在があり、そしてそこでの対話があって、はじめて生きてくる空間であるように思う。このような空間のあり方こそが本来、人が生活するための空間のあるべき姿の一つではないだろうか。

おはらい町がそんな対話の場とゆとりを持ちながら、永遠に続くご遷宮とともに日本人の心を伝承してほしいものである。

（いのうえ　あきひこ／株式会社ＳＤ設計室代表取締役）



棟にとまったからす



物議をかもした煙突掃除の玉



郵便マークの入った軒先瓦



赤福のロゴマークの入った軒先瓦

式年遷宮記念 神宮美術館

「流麗軽妙」と「透明清澄」

福田　泰造

「流麗軽妙」と「透明清澄」、この二語に見え隠れする共通の空気を求めて伊勢を訪ねる。「流麗軽妙」は建築家大江宏氏の座右の銘であり、「透明清澄」は建築家ブルーノ・タウト氏が伊勢神宮に詣でた感想である。残念なことに両氏とも他界しているが、その言葉が表す精神は、作品や書物の中で生きている。

大江先生の遺作となった式年遷宮記念神宮美術館は倉田山丘陵の一角に位置し、内宮・外宮両方面からのアクセスがあるが、右手に端正なルネッサンス式の神宮徴古館（設計片山東熊・高山幸次郎）を望み、明治建築から受ける歴史的緊張感が背筋を正すうちに正面シルエットが視界に入って来る内宮からのアクセスが妥当であろう。

光輝な展示作品を仄めかす正面車寄せから玄関広間に立った時、品の良い空間に暫し自分を忘れる。中庭から広縁を通して入って来る光が素木の造作材に与えるグラデーションは品格があり高貴さを与えるのは大江広元からの家柄が成せる業であろう。

広縁から展示廊と呼ばれる池に浮いたコリドールは角館町伝承館から国立能楽堂の中庭廻りを経てきた軌跡であり、コルテン鋼の円柱に過去の大江作品が偲ばれる。

独特のデザインの踏込の天井を見上げながら展示室１に導かれると我々の目に真っ白な檜葉材で造作された柱、梁が飛び込んで来る。これらで構成された空間は“品のある派手”と呼びたい。この“品のある派手”は、吉田五十八先生や村野藤吾先生あるいは吉村順三先生の艶やかな、華やかな数奇屋建築とは異なり、一定の規則を持った書院建築の中にラショナリスト大江宏としての主張を見事に採り入れ、日本建築の中に大江流“品格のある派手さ”である軽やかで妙味のあるのびのびとした美しさを表現しているのである。正に「流麗軽妙」は、日本文化そのものである。

展示室１から展示室２の間には、普連土学園あたりから大江建築に現れる中庭が望まれその柔らかな自然光と幾ばくかの休息を過ごす。そして中庭を眺めながら意外なことに気がつく。以前、雑誌で見たサンパウロ市400年祭の日本館(設計堀口捨己、現場監理大江宏)が正にここによみがえったのではないかと。池の南側からのシルエットはあの日本館の再現ではないかと。もしかしたら、堀口捨己先生の建築の一番の理解者は建築家大江宏で、これまで堀口作品を吉田、村野、吉村作品の数々と同じ路線の日本建築として捉えていたのは間違いであったのではないかと。

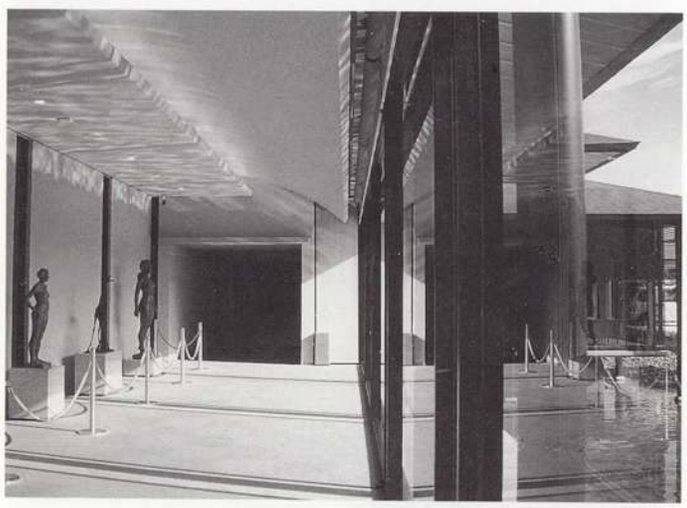
展示室２の造作はこれまでの空間とは違い実にシンプルに納められている。これは将来の献納美術品にフレキシブルに対応出来るように計画されたのであろう。

こうして、我々は中庭を囲んだ美術館を一周して再び玄関広間に導かれる。只、今回は特別にお願いして管理部門の館長室にも入れて頂く。坪庭からの光が障子に依って巧妙に調光されそのほの淡い幻想的な空間が古代神話に誘惑する。そして美術館に後ろ髪を引かれつつ倉田山から、いよいよ聖嗣内宮へ向かう。

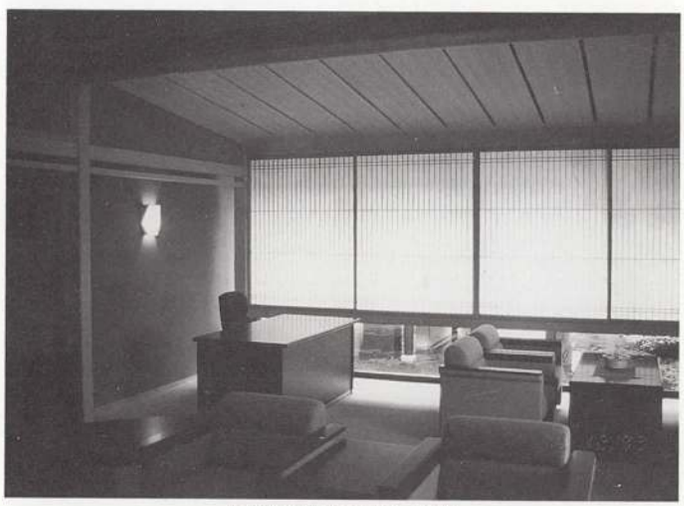
宇治橋を渡り五十鈴川で身を清めると気持ちが新しくなり、緊張し、興奮して来るのは唯一神明造りの極限の美に対する本能であり心身共々潔白で純粋な空気にさらされる。正に「透明清澄」は日本文化を支える精神面での結晶であろう。

伊勢を訪れ「流麗軽妙」と「透明清澄」を体験し、日本人の美意識の奥の深さを再確認し日常生活の美化が建築文化の第一歩であることを見出す。伊勢は万物の根源であり永遠である。

（ふくだ　たいぞう／日本建築協会東海支部評議員・福田泰造建築事務所所長）



池に浮いたコリドール



ほの淡い幻想的な空間　館長室

斎宮歴史博物館を見学して

仙田　篤

はじめに

昨年末、建築協会東海支部の伊勢方面への見学会に参加することができました。私にとって伊勢・志摩方面へは海水浴や魚釣り等、かなり頻繁に行っているにもかかわらず、伊勢神宮しか知らないというお粗末なものでしたが、今回、遷宮の終わったばかりの伊勢神宮をはじめ、種々の建物を見学でき、認識を新たにした次第であります。

豊穣な伊勢の地と王朝文化の雅

斎宮歴史博物館へ行き最初に気付くのは、伊勢湾に面した広々とした平野の中央に位置し、海も陸も豊熟な地をイメージさせる事であります。豊かな土地と海、温暖な気候はきっと古代人たちにこの地に「伊勢の大神」を祀らせ、自然の恵みへの感謝と神への尊崇の念を起こさせたのでありましょう。

そうした背景を象徴するかのように、この歴史博物館の外構は、斎王が禊（みそぎ）をしたといわれている近くを流れる祓（はらい）川の川原をイメージしたものでしょうか。周囲に違和感のない玉石と砂利石とで構成され、広々とした流れるようなアプローチは、建物に近づくにつれ微妙に盛り上がり、内部空間へと連続しております。また、外観は横ラインの外壁でゆったりとしたカーブを描き、大地がそのまま浮かび上がったようなテクスチャーの外壁と、重なりあうパラペットラインの滑らかな美しさと共に伊勢の地の豊穣さと、いにしえの斎王たちの優雅さ、神との神聖な生活とを充分に表現していると思われます。

流れる川、打ち寄せるさざ波、斎王のなめらかに垂れる黒髪を思い起こさせる入口のキャノピー、エントランスロビーの天井、七色に光る阿古屋貝の横ラインでゆったりとカーブする石壁、合わせガラスに封入された阿古屋貝等々。豊穣な伊勢の地と王朝文化の雅の世界とを基本コンセプトとした一貫デザインはみごとな完成度であり、設計者の高い総合力と熱意の感じられる作品でありました。

歴史的事項と今後の周辺環境

今回の見学で知り得た歴史的事項及び将来構想を整理しますと、

■斎宮跡とは、７世紀末より14世紀の半ばまで660年間存在した斎宮の遺構であること。全国屈指の史跡であり、全面積140haの現在10%が発掘されただけであり、今後21世紀後半まで継続的に発掘調査が進められていること。

■斎宮とは、「伊勢の大神」に仕える斎王（いつきのみこ）の宮殿と、それに仕えた役所である斎宮寮の総称であること。

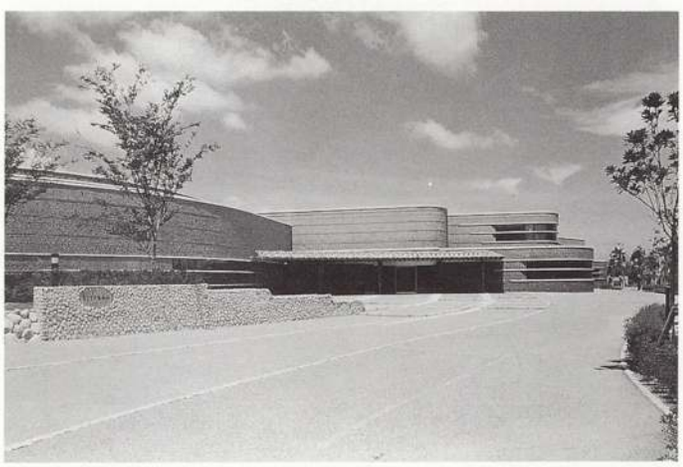
■斎王とは、未婚の皇女の中から卜（占い）で選ばれ、伊勢神宮の三節祭に奉仕する役目を担ったこと。

■斎宮歴史博物館とは、斎宮跡よりの出土品の展示と、当時の雰囲気を伝える映像展示を行なうと共に、今後も継続する発掘調査の拠点となっていること。又、この史跡の一角に建てられており、埋め戻しの上、ピット方式のベタ基礎で建設されていること。

■三重県では“自然と文化・歴史のふれあい回廊”として周辺２市３町の地域にある数々の歴史文化遺産をネットワークする構想があり、現在この博物館と古里公園が整備され、今後斎宮跡を中心とするサイクリング道路及びその一部である明和町内には「清めの道」を計画中であり、大規模な歴史公園として整備される予定とのこと。

今後共楽しみな地域であり、より一層の期待をしたいと思います。

（せんだ　あつし／日本建築協会東海支部常議員、㈱鴻池組名古屋支店設計部）



外　観



内部ロビー

遷宮の建築技術を支える人々

「心」が第一

小工棟梁

岡田　浩次

インタビュー・取材
東海支部特別編集委員会

小工（こだくみ）の棟梁である岡田浩次さんに、お話しをお聞きしました。

岡田さん（63歳）は、お顔の艶も大変に良く瀲刺としていて、とてもお年には見えないお元気な様子で、淡々とした語り口が印象的でした。なお、小工とは伊勢神宮の宮大工の呼び方とのことです。

■扱われる材木は大変な量ですね。

表木曽・裏木曽の200年～300年、大きいものですと500年以上の貴重な天然の桧材が、１万３千６百本位です。両宮の御正殿を始め、別宮が14ありますし、その他の御殿のものも有りますから。

原木はこの工作場で、一旦池に入れて、約２～5年程水中乾燥します。天然の材木には、油分やヤニ分が多いので、水中にて油脂を抜くんです。そういう方法が昔から採られています。必要な材は、各御殿によって丈尺帳というものがあり、部材の寸法が書き表されています。また原木台帳も有りまして、大体の長さ・太さが決められています。次第に良木、大径木が少なくなっていますから、やり繰りが結構大変な事もあります。

■岡田さんはどういうことで宮大工さんとなられた訳ですか。

私は宇治山田で生まれ育ち、父の方も母親の在所も神宮の大工として続いている家で、昔は大工の子は大工になるものやと思って、小さい頃から内宮や外宮さんの仕事をせんならんと思うとりました。親父は戦争で早う死にましたが、親父の兄も母の兄も、その前は爺さんも棟梁をやりましたので、そのおじさんらにいろいろと仕込まれました。

■使用する道具などは昔とは変わってきているのですか。

道具の中には、やはりその時代に合ったものに変わってきていまして、電動工具なども利用しますが、肝心な所は特殊な道具で細工していく訳です。例えば、柱に貫が刺さりましても、柱の穴の中を鉋で削って仕上げてしまうほど、１mmの何分の一かまでもの精度の有る仕事をしたいということですからね。道具もそれに合せて自分でこしらえていく、そういう所から始まるんです。今の人は、機械に頼り過ぎますよって、うで（技術）が上がってきません。一枚の板を仕上げるにしても、超仕上げ機でスッと削って、それで済ますと、すぐに黒くなってしまう。雨風が流れにくいのです。それに比べ、仕上げ鉋で念入れて削りますと、艶が出て水の切れも良く、長く光沢が有る訳です。


岡田浩次氏

■神明づくりの技術的なことについては如何ですか。

ここの神明づくりは直線的ですので、お寺のように反ったり起（ムク）ったりはしていませんから、差金を使う上においては複雑な事は余り無いですが、精密さは最高級の腕が要求されます。仕事のことは、大工としては当り前と思っています。難しいのは、板壁で組み建てる建物ですから、板を何枚も重ねた時、その板の目や色が違ってとか、バラバラではいけませんので、角物よりも、節の無いよう似た幅広板物を揃えるのは大変です。

■遷宮のお仕事は何年位前から始められるんですか。

８年位前に造営庁で出来て、その４年位前から材木は集められているんです。始めの３年位が準備期間で、製材した物を乾燥小屋に入れて自然乾燥します。本格的な大工仕事が始まりますのは４～５年前位で、一番集中的に仕事をします。平成５年の８月に御白石持が行なわれましたが、その時には御造営工事の99％出来上がっていました。神宮専門の、前回から今回と続いている大工さんは５～６名ですので、遷宮が終わりますと、若い人で腕の良い人を選んで次回に向けて十年十五年といろいろと経験を積む訳です。

■お仕事を進めるのに最も大切だと思うことは。

ここの大工としては、神様の建物ですので、「心」が第一です。それさえあれば、仕事も一緒ですが、経験は少なくとも、呑み込みが早いと思います。何よりも重要なのは、気持ちのもち方と言うことです。神宮の造営と言うものは、全く「心」の仕事です。形は図面なり絵図板などで残っているけれど、それを本当につくるとなると「心」の持ち方が問題となるのではないでしょうか。技術は、先輩から盗んで腕を磨き、良いものをつくらなくてはならない訳で、20年がちょうど良いきりなんです。

■お仕事に対する今のお気持ちは。

一生勉強というか、難しいことが次から次と湧いて来て、これで完全にうまいことできたということは無いです。もう一度、始めから出来るんやったら、この次こそ上手にやってのけるんやけどなあと思いつつ、年を取りました。

■神明づくりの建物をどう思われますか。

木造の建物の全てが、ここに始まっていると思いますわ。いつ見ても、飽きというものが有りません。日本の建物は、神宮の建物に始まって、またここに戻ってくるやないかと思います。神様のことは良く分かりませんが、大工にとっては、造った建物それが神様と思います。だから「心」で、「気持ち」でこしらえなきゃあ、いけないと思います。

（インタビュアー・林　金之、今津清直）


墨付け作業


木材加工

遷宮の建築技術を支える人々

「やり甲斐」のある仕事

萱工

山本　剛

インタビュー・取材
東海支部特別編集委員会

◆　萱工（かやこう）の山本剛さんに、お話しをお聞きしました。

宇治山田、外宮近くの山田工作場は、緑深き木々が鬱蒼とし、広々とした敷地には貯木場や大きな小屋が、幾棟となく並んでいる。工作場で御紹介いただいた山本さんは、萱工さんの中では若手のホープで、今回の遷宮で経験を積み、今後色々と修行を重ねて、次回には先頭に立って頑張ってもらう立場の人、とのご案内でした。

■お年は何歳になられますか。

30歳になります。萱工の中では若いです。40代の人もいますが、萱工は昔に比べ随分と少なくなっています。私も高校を出て神宮へ入り、作業手をしていまして、５～６年前に神宮で萱工になりました。

■萱は地元で作られるのですか。

神宮の専門の萱山で確保します。萱の成長は一年生ですので、７～８年間にわたって萱を集め、１～２年前から「つくり萱」をします。一束25kgで、内宮、外宮そして、14別宮全部合わせると、２万５千束程になります。

■どの様に葺くのですか。

一番下に蛇腹萱を２段に敷き、３寸５分ずつの出てをもって、軒羽と螻羽（けらば）から、蛇腹が出て、バラ萱、軒萱を葺き、葺厚が２尺であれば、その上の葺き萱は４段となります。

■刈り込んである屋根は光り輝いて、厚みが有って柔らかく、端正な感じがするのですが、手法とか図面は残っているのですか。

図面は残って居るのですが、手法は残って居ませんので、前回の経験が最も頼りになる訳です。屋根の綺麗な起り曲線は、木の型がありまして、水糸を張りまして、それに合わせて葺きますが、最終的には自分の眼で良し悪しを判断します。



山本　剛氏

■この仕事で難しいのはどんなところですか。

萱スジをちゃんと揃えて、切妻部分の形を揃える事です。流れが寝ては、雨の通りが悪くなりますので、立てる様にします。最後に、ハサミで刈り込んで行きますが、これも難しいです。また、部分的にまずい所は、刺萱をして、調整します。

■どの位の日数がかかるものですか。

小さなもので多賀の宮では、南北両流で６日位、軒付けが１日位です。まだこれから別宮も有りますが、神宮だけでなく、文化財の建物も色々と勉強したいと思っています。

■修行はどうですか。

つらいですが、やり甲斐が有ります。でも、いやになるということは有りません。親方からは、まだまだ序の口だ、と言われます。親方は福島の人ですが、その元で修行をしたいと思っています。葺いてみて、最後に刈るのですが、仕上げの時には「自分でやったんや」と思います。

仕事をしているときは、緊張のしっぱなしです。まだまだ覚えなければならない事ばかりです。

■次の遷宮には、指導的立場になられる訳ですが。

20年先ですが、今は若い人が少なくて、20歳台の次は40歳台の人で、殆ど60歳台ですので、次の遷宮の時には20歳台の人を教える事になると思います。それは大変に悩みそうです。段取りとか、前々から引き継いでいる物を見て、よく勉強し、やって行かなければと思います。

■引き継ぐ事について、どんな思いをもっておられますか。

緊張しますね。今回一緒に頑張ってきた人達が、次回も続いてやれるのか。萱造りに４～５年かかりますので、萱ごしらえから、全て一貫した仕事になります。萱工は萱束を造って居た人が萱を葺きます。だから葺いた者にしか解かりません。場所によって萱が違います。萱の癖により使う場所が違います。

有り難うございました。今後の御活躍を期待しております。どうぞ、次の遷宮に向けて頑張ってください。

（インタビュアー・林　金之、今津清直）



萱ごしらえ



蛇腹萱加工

遷宮の建築技術を支える人々

本物をつくって継承

錺職

森本安之助

インタビュー・取材
東海支部特別編集委員会

◆ 錺（かざり）職の森本安之助さんに、お話しをお聞きしました。

一月の終わりに訪れた京都は、前日の雪の残り景色のなか、穏やかな日差しで迎えてくれた。ＪＲ京都駅より車で10分余りの京都らしい奥深い町屋の「㈱森本錺金具製作所」をお訪ねした。三代目、森本安之助氏（66歳）に迎えていただき、手入れの行き届いた庭を望む、端正なお住まいでお話しを伺いました。

錺金具の金箔の箔押しは、地金の上にメッキをします。そうしませんと、彫金が鏨（たがね）のところまで入りません。伊勢の場合は、水銀箔メッキと言いまして、５回箔押しをします。其の他の方法としてアマルガムで合金するものがある訳です。合金にしたものは彫金が後からできますが、漆箔押しは、後からではできません。工法とかは、伊勢の場合には古い工法をずっと守って、仕様は変わっていません。そこに「伝統」という言葉が生まれるのではないかと思います。また木口金物等ですと、神宮さんから木型がきます。

■すごい仕事の精度で、ほれぼれしますが。

遷宮の仕事は三回やらせてもらいましたが、高欄の木口等の木型を頂きまして、それに合わせて作ります。それが仕事ですがな……(笑)。

■遷宮のどれくらい前からお仕事にかかられるのですか。

今回は、10年前から仕事をしています。太刀ごしらえ（御神宝）が60柄有り、日本でやる人がなくなってきましたので、特に今回はやらせて頂きました。

昭和28年の59回は、三年半ほどの期間。48年の60回は六年半。今回は量が多かったので10年かかりました。果たして、20年後の次の遷宮には、どれだけかかるか分かりません。

危機感をもっています。仕事がほとんど分業・細分化された様に思います。以前は棟梁と言うのは、全てを統轄していたものです。錺棟梁という言葉が、明治の頃には神宮さんにも有りました。昔、職人は他の職種のことも常識として知っていました。親父から聞いたことですが、伊勢の御遷宮と言うものは、世の立て直し、神さん事の20年に一度の節目。今日になっては、技術の伝承が最大目的のように見えてきました。この頃は、体で覚えるということが少なくなりまして、見学者も随分来られますが、２、３年前までは手づくりと機械との違いを聞かれましたが、最近は「これが手づくりですか？」という人がなくなりました。人間の能力の「手技」ではできないと思われています。手づくりでつくっていることは、ちょっとやそっとでなかなか理解してもらうのが難しいんです。２、３日間見てもらう方が理解して頂けると思います。

今までやってきた仕事の中で特に印象に残るのは、やはり神宮さんの仕事でしょうか。その中でも、特に手の込んだ「御神宝」は特別です。神経の磨り減るような仕事ですが、それが本当の仕事なんでしょうね。


森本安之助氏

■遷宮を３回されたということで、それぞれ印象が違うと思いますが。

自分で仕事に打ち込む気持ちは変わりません。若い時とか、時代の背景で異ります。28年の59回の時は、大学（京都工芸繊維大学）を出てから間もない25歳でした。仕事を終えて、御遷宮を拝観させて頂いて、玉石の上に座って、その時、西行法師の言葉「何事のおわしますかは知らねども、かたじけなさに涙こぼるる」という歌がすうっと頭に浮かんできました。"感激あたわざるもの有り"でしたね。その頃、金は統制でしたから物質的には不自由でしたが、精神的には最高の環境であったでしょう。48年には、28年の感激が有ったから、ひとりでも多くの若い人にその気持ちを味わってもらいたいと拝観させてもらいました。次の仕事の心の糧になると……。

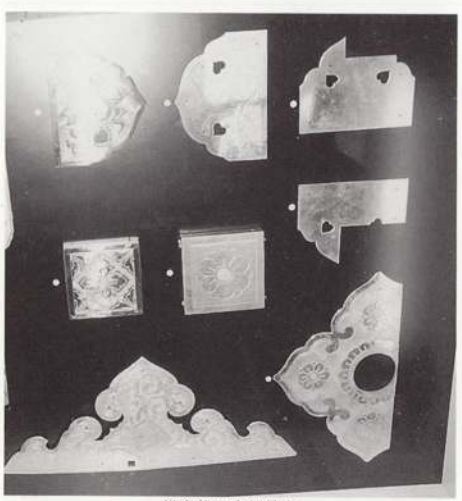
製作中は20年前と同様、誠心誠意、心をこめて変わらぬ思いで携わりました。今回は息子が仕事を始めて３年で、私が味わった感激を彼も味わってくれたと思います。

■最後に、現在大切に思っておられることは。

本物をつくって継承して行くことだけです。其の為の努力は最後まで続けたい。20年あっても足りません。皆さんに広く知っていただかなければと思います。

■「私のところは三代、百二十年余りです。」が、どうぞ「日本の伝統的な錺金具にもっと目を向けてほしい。」とも、おっしゃっています。

（インタビュアー・林　金之、今津清直）


錺金物の実物見本


仕事場の様子


錺金具の使用（内宮神楽殿）

構造の頁　226

高力ワンサイドボルト

村山　稔　むらやま　みのる
株式会社ハックリミテッド開発営業部

近年、日本において、角形鋼管あるいは溶接閉断面の部材を用いた構造が、軽量化、強度の多方向性等の理由で増大してきている。

それらの部材の接合のためのマーケットニーズから開発された高力ワンサイドボルト（強度区分はボルト外径で評価してF8Tを目標）を紹介する。

ワンサイドボルトの締結機構

ワンサイドボルトのキーポイントは、閉鎖断面の孔にボルトを挿入して、閉鎖断面内にそのボルトの頭部を成形するところにある。

構成部品は、**図1**に示すようにピン、第1スリーブ、第2スリーブ、グリップアジャスター、ワッシャー、カラーの6個の部品であり、これらが工場で組み立てられ、一体品として出荷される。また、現場においても一体品として扱われる。ハイテンションボルトやトルシャーボルトのようにナットやワッシャーをバラしてから締結をする必要はなく、直ちに専用工具で締結作業にかかれる。

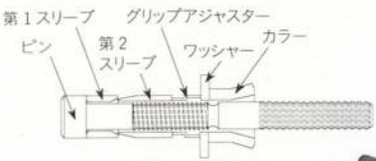


図1　各部名称



写真1

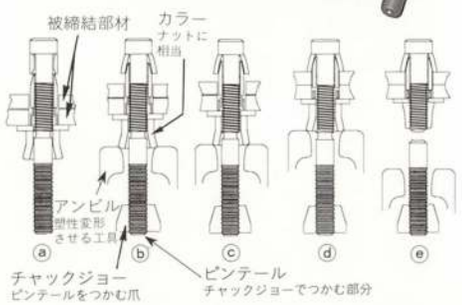


図2　締結機構

締結は、**図2**のようにⓐ～ⓔの順序で進む。

まず、ⓐ被締結部材の孔に、手前からワンサイドボルトを挿入する。

ⓑ専用工具をピンテール部分に被せ、軽く専用工具を押しながらワンサイドボルトを部材に密着させる。工具のスイッチを“ON”にすると（図では工具回りは簡略化）、チャックジョーがピンテールを引っ張り、アンビルが反力を取る。アンビルはカラーを押し、ワッシャーを介してさらに、グリップアジャスター、第2スリーブへと力を伝えていく。第2スリーブのテーパー面が、第1スリーブの下側に潜り込み、第1スリーブを図2のⓑのように拡張させて、傘状に塑性変形させる。

ⓒでは、第1スリーブが所定の変形量に達したとき、グリップアジャスターが切断されて（図2ⓒ参照）、ワッシャーを介して加えられていた力が、いったん“零”となる。この状態で、第1スリーブの変形は、完全に停止している。

ⓓは工具を軽く押した状態であるから、押している力はカラーを介し、ワッシャーを部材に密着させている。またチャックジョーはピンを引き込み続けているので、ピンは手前に引き込まれる。ピン頭部は、傘状に開いた第1スリーブを、裏側の部材に押しつける。手前からカラーとワッシャーを介して押しつけている力はさらに増加し、裏側から第1スリーブで反力を取りながら、部材どうしを密着させる。このとき、第2スリーブとグリップアジャスターは、孔の内部で自由であり、外力は伝えない（軸力の内部損失は“零”）。さらにチャックジョーが引っ張られて、力が加わってゆくと、カラーはアンビルに圧し潰され始め、その径を細くしながら、ピン溝に食い込み始める。食い込みは、手前から始まる。アンビル内径は細くなっており、カラーを最後まで絞り込んだときには、その変形されたカラー長さは、カラーの元の長さに比べ、より長く伸ばされている。極論すれば、その伸びがピンをさらに引き伸ばし、軸力に変化しているといえる。

ⓔチャックジョーがピンを引っ張ると、ピンの中程の細い部分（ブレークネックと呼ぶ）で、引き切られる。音がするのでスイッチを“OFF”にすると、アンビルとカラーとが離れるように、工具が作動する。ここで、軸力導入が完了する。

ワンサイドボルトの性能

性能面では、**表1**に示すように、F8T近い性能が得られる。遅れ破壊への対応のため、ハック社のワンサイドボルトの硬度はHRC40以下に押さえており、またネジ部ほかの応力集中係数を下げる設計が行われている。さらに遅れ破壊促進試験により、問題ないことを確認している。一方、リラクゼーション性能も長期にわたる試験により、問題ないことを確認している。

表1　ワンサイドボルトの標準ボルト張力と最小引張荷重の比較

	種類	張力または荷重（kN）		
		ネジの呼称		
		M16	M22	M27(M28)
標準ボルト張力	ワンサイドボルト	87.7	170.9	266.7
	F8T	91.9	178.4	269.6
	F10T	114.7	221.6	334.3
最小引張荷重	ワンサイドボルト	117.4	225.5	357.8
	F8T	123.6	237.3	359.9
	F10T	154.0	297.1	450.1

（1 kN:102kgf）＊M28はハック社呼び径

現況

すでにワンサイドボルトは、試験にとどまらず、特に、その特長を生かした閉断面部材にハンドホールを設けずに施工できる工法として注目され、一部実用に供され始めている。

施工例として、鋼橋の補修、補強への適用が挙げられる[注1]（**図3**）。建築の分野においても、ワンサイドボルトの有利な点を活かした適用例、検討例を**図4**に示す[注2,注3]。

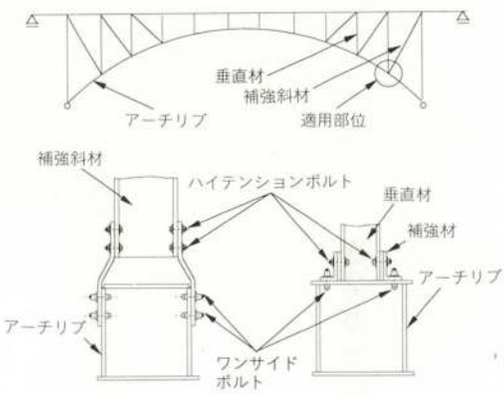


図3　アーチ橋への適用例

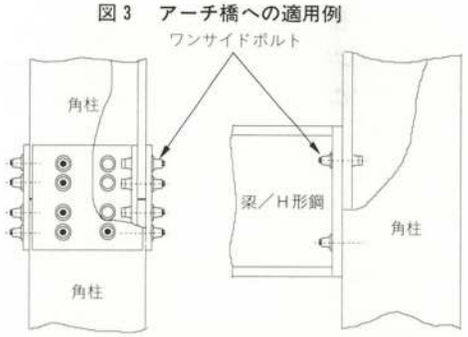


図4　角柱／角柱および角柱／梁への適用例

ハック社は昭和30年代に日本へハックボルトで上陸した。それ以来、F9Tハイテンションクラスのロック系ボルトをはじめ、各種のワンサイドボルト（F4T級からF8T級）を供給し、建築基準法第38条の適用を必要とする構造物に、一部使用されている。

航空機、宇宙産業で培ったファスナー技術を活かし、ここで紹介したワンサイドファスナーだけでなく、今後とも日本において、ニーズに合った新しいボルトを提供していきたいと考えている。

参考文献
注1　名取　暢ほか：改良型片面施工用高力ボルトを用いた摩擦接合工法（横河ブリッジ技報 No23　1994年1月）
注2　久田　哲彰ほか：高張力ブラインドボルト接合に関する実験的研究（日本建築学会大会学術講演梗概集　関東　1993年9月）
注3　太田　耕司ほか：ワンサイドボルトを使用したスプリットティー接合部に関する研究（日本建築学会大会学術講演梗概集　近畿　1993年6月、関東　1993年9月）

炎感知器

澤　宏 さわ ひろし
ホーチキ株式会社防災事業推進部技術課係長

近年、ますます多様化してきている建造物において、従来の煙感知器や熱感知器では設置条件によっては火災を早期に感知できない場合があり、また、逆にこれら従来方式の感知器が誤作動を引き起こしやすい雰囲気中に設置される場合も生じ、多くの問題が顕在化してきた。

従来の自動火災報知設備の感知器に炎感知器が加わったことに伴い、これらの課題を解決するため、平成３年６月「消防法施行規則の一部を改正する省令」が施行され、天井等の高さが20m以上であることまたは外部の気流が流通することにより、これまで感知器が設置できないとされていた場所についても、炎感知器を設けるべきことになった。

炎感知器の種別

炎感知器の種別は、検出原理から次の２種類に分類される。

(1)　紫外線式スポット型

炎から放射される紫外線の変化が一定の量以上になったとき作動するもの

(2)　赤外線式スポット型

炎から放射される赤外線の変化が一定の量以上になったとき作動するもの

上記以外に両方の性能を併せ持つ、紫外線赤外線併用式スポット型、炎複合式スポット型がある。

設置場所

炎感知器の設置は、消防法施行規則により、次のように決められている。

(1)　感知器を設置する区域の天井等の高さが20m以上の場所

(2)　上屋、その他外部の気流が流通する場所

(3)　上記の場所であっても、感知器の機能に支障を及ぼすおそれのある場合は、設置を免除される。

特に、従来設置が免除されていた天井高さ20m以上の場所にも、設置が義務付けられた。

これにより、アトリウム・体育館などの高天井の防火対象物に多く設置されるようになった。また、デパート・スーパーの売り場など、放火の危険性のある場所にも設置されている。

設置基準

(1)　感知器は、天井等または壁に設けること

(2)　感知器は、壁によって区画された区域ごとに、当該区域の床面から高さ1.2mまでの空間の各部分からの当該感知器までの距離が*1公称監視距離の範囲内となるように設けること

(3)　感知器は、障害物等により有効に火災の発生を感知できないことがないように設けること

(4)　感知器は、日光を受けない位置に設けること。ただし、感知障害が生じないように遮光板等を設けた場合にあっては、この限りでない。

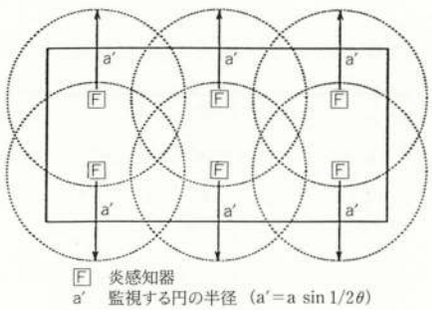


図１　炎感知器の設置例（平面図）

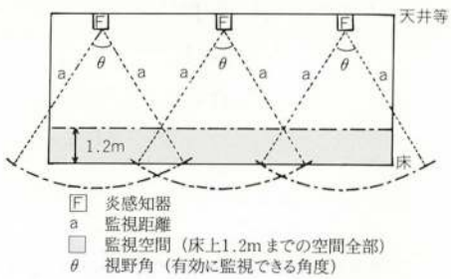


図２　炎感知器の設置例（立面図）

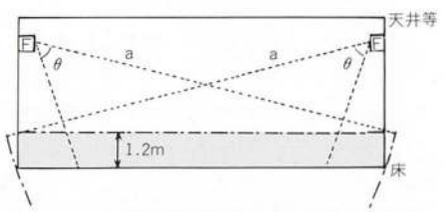


図３　炎感知器の設置例（立面図）―壁に取り付け―

従来の感知器は、建物構造（耐火、非耐火）・天井高さ・感知器種別により取り付け場所の面積に応じた感知器個数を算出していた。しかし、炎感知器の場合は、床面から1.2mの空間を漏れなく監視するよう、各感知器の有する公称監視距離と*2視野角により設計し、設置する必要がある。

設置例を**図１**～**図３**に示す。

検出原理

本稿では、主に赤外線式スポット型について説明を行う。（**写真１**）



写真１　赤外線式スポット型炎感知器

火災時の炎には、多量の炭酸ガスから波長4.3μmにピークを持つ赤外線が、２～15Hzのちらつきをもって放射される顕著な現象がある。

一般の高温物体からの放射エネルギーの相対強度と大きく異なり、物体が燃焼するときにのみ現れる現象で、CO_2共鳴放射と言われている。

このCO_2共鳴放射帯の波長を光学フィルターを通して焦電素子で検出したものを、火災判定回路で判定を行い、その出力によりスイッチング回路が受信機に火災信号を送る。

検出感度

公称監視距離内の離れた箇所において、一辺の長さが33cmの正方形の燃焼皿でノルマルヘプタンを燃焼させたとき（炎の高さ約1.5m）、30秒以内で火災信号を発すること。ライターの炎（炎の高さ約４cm）程度であれば、距離にして１m以内で感知する。

本感知器は、炎を検出する受光部の特性により、**表１**の通り、視野角ごとに監視距離が異なる。

表１　視野角（度）ごとの公称監視距離（m）

視野角	0	±10	±20	±30	±40	±50
距離	20	20	19	18	16	13

また、最大視野角は感知器両側合わせて100度の円錐上の視野を有している。感知器の中心軸を０度とした場合、視野角ごとの監視距離は中心軸に対して任意の方向で同じである。

図４に、監視パターンを示す。

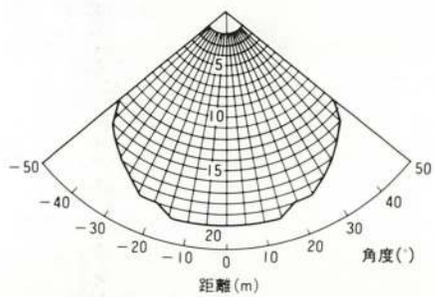


図４　監視パターン図

今後の展望

炎感知器は、紫外線式、赤外線式それぞれに長所・短所がある。

そのため、今後の可能性としては、お互いの欠点を補完させる目的で、両方式の性能を併せ持つ紫外線赤外線併用式スポット型や炎複合式スポット型が開発され、より信頼性を高めたうえで火災の早期発見が可能となる感知器も市場へ供給されるようになるであろう。

また、大空間の検出に有効な、走査型赤外線感知器も低コスト化され、一般化されるようになるのも遠い将来のことではないと思われる。

注

＊１　33cm×33cmの火皿でノルマルヘプタンを燃焼させた場合に、30秒以内で作動する最大の距離

＊２　所定の公称監視距離を満足させることができる角度

掌の中の宇宙「さわってみよう展」

県立千葉盲学校の子供たちが粘土で作ったにわとり、ふくろう、かめなどの作品の展覧会「さわってみよう展」が、兵庫県西宮市のギャラリーで開かれる。

「さわってみよう展」は、〝目を閉じて感性をとぎすませながら、手で触れ、なでて作品を「見て」ゆく〟ことで、〝日頃「見ること」が「わかること」だと思いがちな生活の中で、新しい感覚をよびさます〟ものになることを願って（主催者：「さわってみよう展」をひらく会）開催されるが、任意参加で造形作家や学生も出品し、ふれること・さわること・音をきくことを大人から子供まで楽しめるよう企画している。

日時　1994年 4 月 5 日(火)～10日(日)　12:00～19:30

場所　ギャラリー・アートガレーヂ（西宮市南昭和町10-19 TEL 0798-64-5710）阪急西宮北口駅下車、西出口より徒歩５分

内容　千葉県立千葉盲学校小学部の子供の作品と作家・学生・一般有志の作品展示



「とぶ心」村田創（同校小学部２年）

主催　「さわってみよう展」をひらく会(代表：野中千恵子)　TEL 06-228-0439
〒541 大阪市中央区淡路町２－５－８ 船場ビル317 「ITAN」内

なお、初日の４月５日(火)18：30から、アートガレーヂと同じ建物内の西宮公同教会で、OMS・Choir のゴスペルソング演奏と、作品についての西村陽平・成子良子教諭（千葉県立千葉盲学校）の講演が行われる。

松村芳治写真展

建築写真の松村芳治さんが中国への二度の旅、そして今年始めのネパールへの旅で撮影した写真を集め、４月11日から写真展を催す。会場は、土・日休館。

日時　1994年 4 月 11 日(月)～22日(金)　9:00～18:00

場所　イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー９Ｆ「クリスタルホール」　TEL 06-223-3181 大阪市中央区淡路町１－６－11(地下鉄北浜駅)

内容　「中国・ネパールへの旅」
- 貴州省の高床住居とその集落
- 安徽省南部の白壁民家とその集落
- 浙江省の臨水民居
- カトマンドゥー・バクタプール・パタンの信仰と生活

●松村芳治 氏―1948年東京に生まれる。1972～74年、東南アジア、インド、中近東、ヨーロッパ、北アフリカ、北米を歴訪。帰国後、建築写真を始める。日本写真家協会・日本写真作家協会会員。

工高生デザインコンクール入選作品を大阪府立体育会館で展示

昭和30年から日本建築協会で開催してきた「工高生デザインコンクール」の昨年第39回の入選作品（設計課題：地域に建つスポーツ施設）10点が、大阪府立体育会館内「スポーツ情報コーナー」に展示されることになった。入場無料。

展示期間　1994年 3 月 28 日(月)～ 4 月 29 日(金)
10：00～18：00　毎月第１火曜日は休み

展示場所　大阪府立体育会館「スポーツ情報コーナー」大阪市浪速区難波中３－４－36 TEL 06-631-0123

展示作品　第39回工高生デザインコンクール入選作品

●最優秀賞作品

有坂幸恵（群馬県立高崎工業高校）

●優秀賞

加藤俊一（三重県立四日市工業高校）
中村英樹（大阪市立工芸高校）

●入選

吉田昇司（群馬県立桐生工業高校）
松本　進（群馬県立高崎工業高校）
小澤映里（静岡県立静岡工業高校）
萩原幸子（三重県立四日市工業高校）
弘田　元（大阪府立西野田工業高校）
吉次隆史（大阪市立工芸高校）
中林昭次／山下崇博（堺市立工業高校）

ロダンの常設館「Rodin Wing」静岡に開館

静岡県立美術館の新設館「Rodin Wing」が３月23日にオープンした。その名の通り、オーギュスト・ロダンの彫刻作品約30体を主に展示するロダン館であり、ロダン研究の拠点となることを目指している。

新たに建設されたロダン館は、大作「地獄の門」の効果的展示を軸として設計された近似楕円形で、自然の光を取り入れた広場風の設計により、屋外の感覚を持ったものになっている。

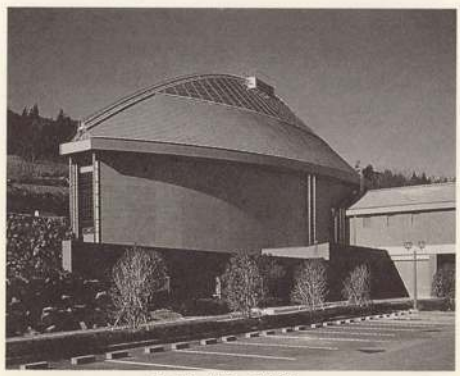
みどころは、このロダン館のために新しく鋳造され、世界で初めて屋内展示される「地獄の門」で、新鋳造のためにパリのクーベルタン鋳造所から提供された鋳造過程に関する模型、写真資料等も併せて展示される。

●収蔵作品

オーギュスト・ロダン「地獄の門」「クロード・ロラン」「考える人」「カレーの市民」（単体像６体）「ホイスラーのためのミューズ」ほか

＊ロダン以前の彫刻―ジャン＝バティスト・カルポー「悲しみの聖母」、カリエ・ベルーズ「ニンフを連れ去るサテュロス」ほか

＊ロダン以後の彫刻―カミーユ・クローデル「波」、エミール＝アントワーヌ・ブールデル「アポロンの首」「ロダンの肖像」、コンスタンティン・ブランクーシ「ポガニー嬢Ⅱ」、ウィルヘルム・レームブルック「女のトルソ」、ポール・ゴーギャン「オヴィリ」ほか



Rodin Wing 外観



「地獄の門」

所在地　静岡市谷田53-2
設計監理　静岡県都市住宅部営繕課、日総建
施　工　大成建設静岡営業所
構造規模　RC造一部S造、２F
延床面積　3024m²
工　期　1992年３月～1993年12月



「考える人」

第4回 BUFF 国際建築デザインコンペの課題は『東京お祭り空間』

パシフィコ横浜を会場に開催される建築仕上フォーラムに向けたコンペの、課題は『東京お祭り空間』。

課題　―東京は今バブル経済の熱狂にかわる"お祭り"を真に欲している。集団即興、つまりグループインプロビゼーションの場を。その"お祭り"とは単なる日本人のみならず東京で仕事や研修、勉強といった様々な目的のために滞在する外国人も参加できるものであって欲しい。―

審査　伊東敏雄（1994建築仕上フォーラム組織委員会幹事、山下設計）―委員長―、池田武邦、長谷川逸子、押野見邦英、只野康夫の各審査委員

賞金　最優秀賞（1点）200万円、優秀賞（1点）50万円、佳作（5点以上）各10万円

応募　・応募締切1994年5月31日㈫消印有効
・提出図面は応募者（資格不問）の意図を伝達できるものであれば自由。厚紙（600×840mm、紙質自由）1枚に図面と説明文（日本語か英語）をまとめる。

提出　1994建築仕上フォーラム運営委員会内・第4回BUFF国際建築デザインコンペ係へ郵送。
〒111　東京都台東区小島1-4-8-201
TEL 03-3865-8999

日本マンション学会第3回大阪大会に一般参加を！

日本マンション学会（水本浩会長）も設立して3年目を迎え、4月に大会を開催することになった。大阪大会の統一テーマは「超高層マンションの居住環境を考える」。一般また企業の大会への参加を募っている。

■ **4月23日**㈯　シンポジウム13：50～17：00

シンポジウム「超高層マンションの居住環境を考える」

・日本と諸外国の超高層マンション／高井宏之（竹中工務店技術研究所）

・都市住宅としての超高層マンション／川村眞次（関西都市整備センター）

・子供の心身への影響／佐々木京子（渡辺病院）

・防災と防犯の危険性と対策／大西一嘉（神戸大学）

・管理上の問題／豊吉恭一・遠藤勝（第1管理）

・居住者の問題／荒木敏雄（コスタ・ミラ管理組合）

■ **4月24日**㈰　9:00～12:00見学会は12:30～19:00

・第一分科会：逢坂文夫（東海大）、瀬度章子（奈良女子大）、高田光雄（京都大）、東樋口譲（京都大）、濱田学昭（大阪市立大）、甲谷寿史（大阪大）、楢崎正也（摂南大）

・第二分科会＜管理規約＞：山上知裕（弁護士）ほか

・第三分科会：鈴木克彦（京都工繊大）、笠原秀樹（長谷工研究所）、尾崎一郎（東京大）、斉藤広子（岐阜女子大）

・見学会　①ベルパークシティとベルパークシティアネックス→② NEXT21→③梅田スカイビル

開催場所　関西大学100周年記念会館
吹田市山手町3-3-35　TEL 06-386-3008

定　員　先着500名程度

参加費　非会員　4000円（資料代含む）

申込先　日本マンション学会京都事務局
〒604　京都市中京区御池間之町東入る
TEL 075-211-4643　FAX 075-211-8552

ハウジングアンドコミュニティ財団の助成対象者決定

㈶ハウジングアンドコミュニティ財団は、昨年10月～12月に平成6年度助成を公募し、3月の理事会で下記の助成対象者を決定した。助成期間は1年間。

A.「住まいとコミュニティづくり活動助成」

―民間グループによる豊かな住環境創造のための先駆的・創造的活動を支援する―助成総金額1000万円―

①函館西部地区における「まちづくり公益信託」の展開／函館からトラスト事務局

②環境共生型居住形態の実現をめざした研究・実践活動／つくばエコ・ビレッジ研究会

③花と緑のまちづくりを女性庭師たちの手で／「花と緑のまちづくりを女性庭師たちの手で」委員会

④こまミュージアム創りによる遊び環境と生活文化の創造／高麗の郷エコミュージアム研究会

⑤暮らしと自然がある＜ヒューマン・スケール＞のまちづくり／青山を研究する会

⑥住環境指標を活かした新たな住民合意形成の展開と実践／建築協定をきっかけとする街並づくり支援ハウス

⑦高齢化社会における新しい形のコミュニティの創設／福祉マンション研究会

⑧放置山林を高齢者の生き甲斐づくりに生かす活動／逗子ハイランドまちづくり会

⑨荻ノ島かやぶき家環状集落の紹介、保全及び活用／荻ノ島わらじ会

⑩ボランティアの活動拠点機能を持つ生涯住宅の建設活動／ライフケア研究会

B.「若手デザイナー助成」

―若手デザイナーとそのグループ支援―1500万円―

①公空間を伴う都市居住の環境形式の研究―集住モデルを前提として―／持田英明（日建設計東京）

②メトロポリスにおける新しい住まい―外部空間のプライベート化／妹島和世（妹島和世建築設計事務所）

③複合体の研究―都市居住の新たな可能性を求めて―／飯田善彦（飯田善彦建築工房）

④マルチメディア時代の都市集合住宅のデザイン／渡邊朗子（慶應義塾大学環境情報研究所）

「シティ・コミュニティ」記念セミナー

マンション問題研究会（代表・先田政弘氏）の発行するミニコミ誌「シティ・コミュニティ」の100号発刊を記念して、セミナーが開催される。参加費無料。

テーマ　「こうすれば分譲マンションの建替は成功する！」
・建替えと合意形成の論理
・逆梁構造の＜ルネス・マンション＞
・質疑応答

講　師　先田政弘氏（マンション問題研究会代表）
飯田郁夫氏（飯田建築設計事務所代表）

日　時　1994年**4**月**16**日㈯　13：00～16：00

会　場　TOWAりぶホール（大阪駅前第4ビル20階）

定　員　120名（先着順）

申込先　電話またはFAXで、マンション問題研究会まで。TEL 06-202-7630、FAX 06-202-7648

階段物語り展

今まで建物の一部として当たり前すぎて語られることの少なかった階段にスポットを当て、その形態・機能・歴史・デザインはもとより、階段の持つ意味や象徴性、人間の心理と階段の関係までを取り上げた「階段物語り展」が、INAXギャラリー大阪で開かれている。展示は、映画や小説、絵画の中の階段など約30点が、写真パネルを中心に物語仕立てで紹介される。

また、4月7日㈭には映画評論家でもある建築家・渡辺武信氏の講演も予定されている。入場無料。

■階段物語り展

会　期　1994年**3**月**10**日㈭～**4**月**24**日㈰
10：00～18：00　3月26日休館

会　場　大阪市西区新町1-7-1　TEL 06-539-3518
INAX大阪ショールーム　2F

展　示　170段の階段があったとされる幻の出雲大社の復元模型／大阪府立近つ飛鳥博物館の模型／一本の丸太に段を削り込んだ階段のルーツの復元模型／バベルの塔・寺院建築の階段・映画や小説、絵画の中の階段・からくり階段などの写真パネル

■渡辺武信氏講演会

テーマ　「映画と建築―演出された階段―」

会　場　INAX大阪支社　8F会議室

定　員　100人（先着順）



神魂神社
（島根県　かもす神社）
撮影・相原　功

会議ははずむ
―梅田スカイビルにて―

山田　修

日本建築協会出版委員会副委員長



地上173mで天空体験中の出版委員―左より青柳英之、吉田隆、楠本照夫、山田修、上原正行、荒川治徳、前田邦江、川嶋公雄、須賀好富、谷川康信、北山悟の各委員

出版委員会は、毎月第3木曜日に日本建築協会の会議室で行っています。今回は、委員の要望により、梅田スカイビルのマシンルームを主にした見学会と併催しました。当日の参加委員は11名です。出版委員会としては初めての例で、珍しい機会ですので、委員会の素顔をリポート風に紹介します。

マシンルームはカラー動物園

13時20分の集合は早かった。梅田スカイビルのプレゼンテーションルームには、他の見学者と入りまじって、すでに参加委員が待機しておられた。

始めに、美人の女性係員より梅田スカイビルの説明があった。「世界初の連結超高層ビル、空中に浮かぶ庭園、巨大吹き抜け空間、……」とのこと。続いて「光と風の未来へ」という15分間のビデオを見る。「わたしたちは、21世紀を生きているのかも知れません」と語る最後のナレーションが印象に残った。

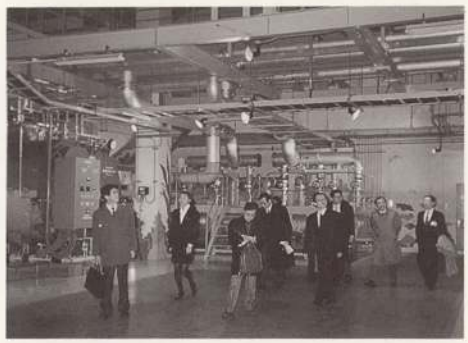
地下1階・2階の防災センターと共用機械室を見学する。

共用機械室はマシーン ZOO（機械動物園）と呼び、機械室がカラー動物園と化している。

柱には樹木のイラストを描きジャングルを表現、各設備機械は種類・用途別にカラーコーディネートされ、呼称もすべて動物名で記号化されていた。

ディーゼル発電機はコージェネ・ザウルスであり、水冷チラーはチラー・ウルフ、蒸気ボイラはスチーム・バッファロー等である。各系統別の機器と配管の色分けは見事だった。

電灯が消えると機械の足元のブラックライトがともり、機械の回りを蛍光塗料で区画したカラー線画が幻灯のように浮かび上がる。心にくい演出である。機械室がこんなに楽しい雰囲気になることを初めて体験した。



マシーン ZOO を見る―ゆったりとした通路、カラーコーディネートされたマシーン群、壁・柱に描かれた樹木などで、かつての機械室の暗いイメージは一新された―

将来のビルの機械室のモデルになることは間違いあるまい。マシーン ZOO に敬意を表したい。

続いて、東34階のモデルオフィス、40階の空中庭園展望台、地下1階の店舗街、中自然の森、22階のスカイブリッジ、西22階の共用会議室を見学する。時間の経つのが分からなかった。

立派な会議室で委員会を開く

タワーウエスト22階のB会議室は、スペースも広く、いすは今まで座ったことのない高級な黒レザーものである。部屋が大きい割に人が少なく、声が反響して少し聞きとりにくかった。壁下面に張られた大理石のせいかも知れない。

こんな所で「会議を開くのは最初にして最後だろう」と、一同張り切ったためか濃密ないい意見が出てきた。しかし、疲れたことも事実である。

①「プロのノウハウ」と特装版の経過報告

吉田氏（学芸出版社）から報告書を追いながら説明があった。

「建築・都市・住宅・土木の情報アクセスブック（菊岡倶也著）」は3月発行予定で進めている。初版3,000部、予価3,800円。専門学校の教科書として使う希望があるので、今度こそ期日を守りたい。今、出版社と著者が索引を整理中である。

「水にまつわるトラブルの事例・解決策＜建築編＞（上原小委員長他）」は3月9日に小委員長より最終チェック済みの原稿を受けとる。事例は、175に決定。4月下旬に発行したい。

「水にまつわるトラブルの事例・解決策＜設備編＞（川崎小委員長他）」も同様に発行する。

上記2冊は姉妹編であるが、独立本としての体裁を保つ。本の帯にその関連は記す。帯に有名な先生の推薦文をのせたらどうか。推薦文は専門書の売れ行きには関係がない。大手ゼネコンの専門者が分筆しているので、ある程度売れるだろう。著者の印税はないが、協会には企画料が入る。著者には各数冊を進呈する。

宣伝方法としては、「建築と社会」に掲載するほか、新建築・建築知識・日経アーキテクチュアにのせる。ダイレクトメールも活用したい。表紙のデザインは両者共通のものにしたらどうか。値段は4,500円を下回りたい。

その他、「鉄筋工事の現場学（荒川治徳著）」、「CAD使用者のための構造図入門（青柳英之著）」、「CADオペレーターのための建築知識（トランス・コスモス CAD部著）」等の話があった。

続いて再版の話にうつる。「新版・建築基準法を読みこなすコツ（高木任之著）」は第2刷2,000部／累計12,000部となった。

②今後のテーマと執筆者選定

「高齢者向きの住宅（前田邦江著）」は夏目幸子氏（東京）が設計の実績をもっておられるので、東と西の事例集として出したい。目下、折衝中である。接触中といえる段階だ。

「技術者と技術書との関連」、「建築界のリストラ」等の話が出たが、具体化までは進まなかった。題名と著者が一致しない所にも悩みはある。本は読むことは簡単だが、書くことはむずかしい。

③「プロのノウハウ」講座の開催

『構造計画と躯体コストについて：須賀好富氏（近畿大学）＋いま積算に求められているもの：生島道春氏（日積サーベイ）』を開催する。

日時：平成6年3月29日(火)15：00～17：30
会場：大阪府建築健保会館
司会：前田邦江氏（住まいの実技講座）

懇親会

17：00～19：00「呑気放亭（ドンキホーテ）」で懇親会を開く。会費は5,000円なり。見学・会議中はお茶も出なかったので、ビールのうまかったこと。人工滝を目の前に眺めながらの夕食会は風情があった。こういう機会に、実のある話が多い。人は酒を口にすれば胸襟を開くものである。時間の経つのが早かった。

話ははずむ。

「何か新しい建物ができたとき、見学会をかねて、こんな委員会を開くことはいいことだ。委員のもち回りにしたらどうか……」

「忙しい人が月に1回集まって会議を開くだけでは、もったいない。あとの一杯会にこそ、いろんな話が聞けて新しい情報が得られる（今まで有志だけで数回は開いていた）」

「今後は、こんな機会を設けて欲しい。各委員に配慮をしていただければありがたい」

「暇な人に頼んでも仕事はできない。本を書くことは忙しい人に頼まないとダメなんだ」

「当委員会に出てこられない人もおられるが、こういうチャンスを活用しないと自己の発展にもつながらないように思う……」

「情報の最先端の話が得られ、かつ親睦ができる会にしていけば人は集まる。そのためには一人がみんなのために、みんなが一人のために耳を貸し、情報を提供していくようにすればよい」

「年末には一泊二日の委員会が開けるようになれば万歳だなァ」

なお、今回の計画は上原正行委員（竹中工務店）に何かとお世話になった。

日　時　平成6年2月17日(木)　13：20～19：00
内　容　●見学会：梅田スカイビルのタワーイースト21階ほか
●第10回出版委員会：梅田スカイビル、タワーウエスト22階会議室B
●懇親会：梅田スカイビル地下1階「ドンキホーテ」

日本建築協会

月間の動き

【平成6年1月分】

評議員会

技術部門　評議員懇談会
25日・4時～5時・於本会会議室
出席者　下村委員ほか3名
議　事　技術部門選出　評議員候補者6名推せんの件

理事会

第2回常任理事会
26日・4時～4時半・於本会会議室
出席者　佐野会長ほか17名
議　事　(1)名誉会員推挙の件
(2)平成5年度第2回通常総会開催の件
(3)後援並びに協賛名義使用の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項その他

編集委員会

第10回会員企画小委員会
10日・6時半～8時半　於本会会議室
出席者　伊藤委員ほか3名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定
第6回計画系―インテリア・住宅―分科会
11日・7時～10時・於本会会議室
出席者　中村委員ほか4名
議　事　「インテリア・住宅」分科会の特集企画について
第10回作品作風小委員会
12日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　松田副委員長ほか6名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」掲載報告・予定
(4)「SKETCH BOOK 欄」の作品構成
第8回編集委員会
13日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか5名
議　事　(1)2月号「建築のエネルギーシステム」・「九州のインスタレーションと貌」特集報告
(2)3月号「伊勢神宮式年遷宮と神宮界隈」特集経過報告
(3)4月号「構造」特集企画検討
(4)「インテリア・住宅」特集企画検討
(5)会員企画、作品作風、その他
(6)平成6年度の特集掲載月号（予定）検討
第11回設備分科会
17日・6時半～8時半・於本会会議室
出席者　梶井幹事ほか5名
議　事　(1)編集委員会報告
(2)「建築のエネルギーシステム」特集の検討
(3)10月号設備特集の企画
(4)「設備の頁」の企画
(5)設備特集の今後のテーマ
(6)「設備コーナー」の企画
第9回広告企画小委員会
18日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか4名
議　事　(1)2月号「建築のエネルギーシステム」・「九州のインスタレーションと貌」特集途中経過報告
(2)3月号「伊勢神宮式年遷宮と神宮界隈」特集広告途中経過報告
(3)作品作風報告
(4)独自特集企画検討
(5)収支状況報告
第8回構造分科会
19日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか5名
議　事　(1)編集委員会の報告
(2)構造特集の企画
(3)「構造の頁」の企画
㈱日本建築総合試験所創立30周年記念特集編集幹事会
25日・2時～4時・於日本建築総合試験所会議室
出席者　和田克朗、俣野善弘、中安　進、益尾　潔、倉橋岩夫
議　事　特集内容案検討
第6回施工材料分科会
28日・4時～6時・於本会会議室
出席者　志水幹事ほか4名
議　事　(1)特集テーマの検討
(2)施工材料の頁の企画

事業委員会

第9回若い会員の集い小委員会
11日・6時半～8時40分・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか6名
議　事　(1)今後の企画について
(2)委員の時間
第6回広報小委員会
12日・6時半～8時20分・於本会会議室
出席者　酒井幹事ほか5名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告及び今後の予定について
第6回見学会小委員会
13日・6時～7時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか13名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定及び候補について
第6回事業委員会
19日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか5名
議　事　各小委員会からの報告と検討

教育委員会

第3回工高生教育小委員会
7日・5時半～7時半・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか9名
議　事　「第40回工高生デザインコンクール」募集規定原案について
第4回工高生教育小委員会
28日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか4名
議　事　「第40回工高生デザインコンクール」募集規定原案の再検討

出版委員会

第9回出版委員会
20日・5時～7時・於本会会議室
出席者　山田副委員長ほか10名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)プロのノウハウ講座シリーズについて

見学会

大阪府立近つ飛鳥博物館見学会
20日・2時～4時半・参加者105名
WEST ビル免震構造見学会
27日・2時～4時・参加者50名
和歌山県立きのくに志学館＋近代美術館・博物館見学会
29日・10時半～5時・参加者78名

30'sEYE21世紀へのエスキス

木下直之「駅前の文化について―駅前彫刻と造り物―」
21日・6時半～9時・参加者39名

建築クラブ

新年宴会
11日・6時～7時・於大阪グランドホテル
参加者71名

1月の入会者（敬称略）

〔団体会員2社〕
日本換気(株)　(株)日建設計名古屋事務所
〔個人会員4名・準会員2名〕
稲垣　雅彦（長工一級建築設計(事)）　坂辺　光正（坂辺工業）　竹内　邦夫（新宅建設）
豊岡　達夫（大屋設計）
大川内　敦（愛知産大）　安田　誠（修成建専）

●会員の訃報
名誉正会員　黒川巳喜（黒川建築事務所）
平成6年1月2日死亡
〃　福永　薫（建築技術センター）
平成6年3月8日死亡
正会員　大坪哲夫（大坪産業）
平成6年1月20日死亡
団体会員　松永嘉一郎（梅彦）
平成6年1月23日死亡

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―― コーバータイト　オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL.03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL.06(391)1081～2FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)

TEL(06)943－6571(代)

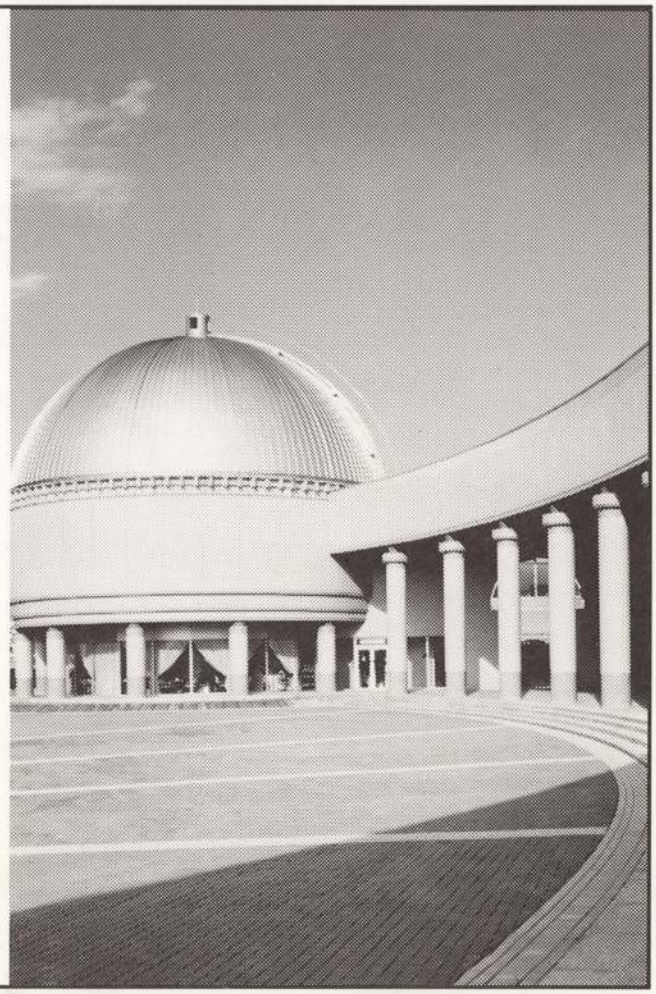
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

INAX

人・間・空・間

たいせつに

INAXが提唱する「環境美」は、都市空間を再構成する都市美、
高質の住まいづくりを推進する生活美、
そして企業イメージを建築物で高める企業美――
この3つが柱となっています。
そしてここに共通する基盤は、「セラミック技術」です。
台所、浴室、トイレなど水まわりはもとより、
門、庭園、玄関まわりなどのエクステリアをカバーし、
さらに建築の内外装から街の広場づくりへと、
INAXタイルの世界は大きく未来をひろげつつあります。



株式会社INAX

大阪支社　〒550　大阪市西区新町1―7―1　TEL.06―532―6081

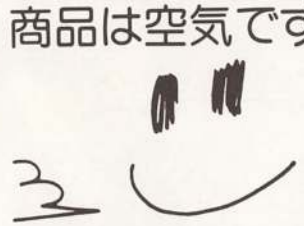
本　社　〒479　愛知県常滑市鯉江本町5―1　TEL.0569―35―2700

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－3211－8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031　代表
メンテナンス部　電話　大阪（06）768－1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
郵便番号112　電話（03）5689－2351代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428代
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352-3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738(代)

Carrier

冷暖房は キャリア CARRIER

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

夢×技=∞

無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術

電気・計装・空調・土木

栗原工業株式会社

本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL.06(313)1101

創業1919

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06(385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理

- ●電気設備
  - 受変電・幹線
  - 動力・制御装置
  - 電話、放送、インターホン
  - 防犯、防災
  - 中央監視制御
  - システム計装
- ●空調・給排水・衛生設備
  - 空気調和
  - 工場配管
  - 水処理
  - コージェネレーション
  - クリーンルーム
- ●プラント
  - プラント計装
  - システムエンジニアリング
- ●情報通信設備
  - 情報通信ネットワーク
  - 情報処理
  - 通信システム
  - 放送システム
- ●電力流通設備
  - 受変電
  - 架空送配電
  - 地中送配電

まちの中にあふれるフリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL.078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL 06(792)5858　FAX 06(792)2810



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
☎ 五六一～七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND

日本電植株式会社

本社 〒530 大阪市北区天満1丁目11番8号 TEL06(352)7502 FAX06(352)7486
別館 〒530 大阪市北区天満1丁目7番21号 TEL06(357)1803 FAX06(357)4950

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

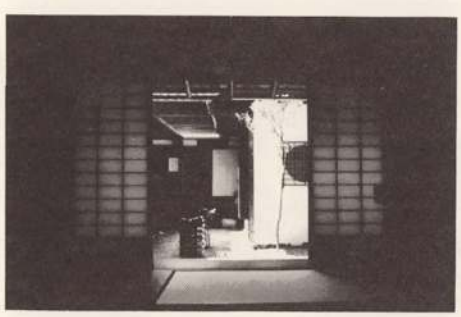
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

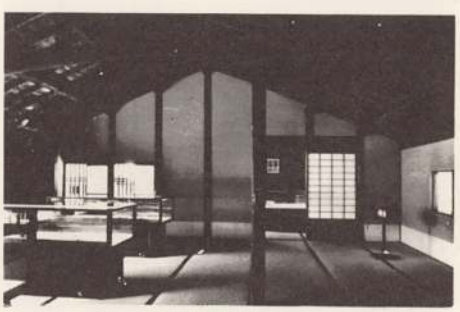
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

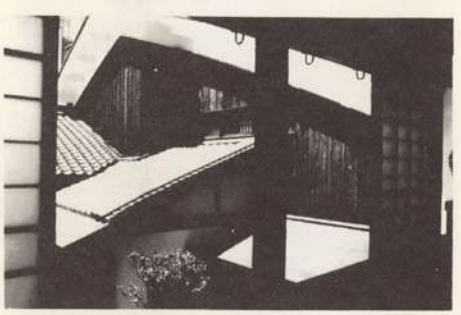
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







21世紀にチャレンジ

ドラマチックな光と影

ステンレスの未来を技術と情熱で築きます

トートステンレスサッシ

現代の建築文化に欠かせない素材　ステンレス。
トートは、半世紀近く前から、ステンレスの美しさや強さ、
デザイン性の高さを建築に生かすよう努めてきました。
その成果は多方面で注目され、多くの実績を重ねています。
現在トートでは、鏡面仕上、ショットブラスト仕上など
数々の技術を駆使して、
美への情熱と未来を予感させる感性で、
さらにステンレスの可能性を拡げています。



KDD 大手町ビル　スクリーン／ヘアーライン・カラー仕上

トート株式会社

大阪支店　〒532 大阪市淀川区東三国4－3－1　TEL (06)394-3577(代)
グロリア240ビル4F
本　　社　〒174 東京都板橋区前野町6－2－1　TEL(03)3960-8441(代)

支店・営業所／札幌・青森・秋田・仙台・郡山・水戸・横浜・富山・金沢・名古屋・広島　工場／埼玉・宮城・岡山

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634
振替口座 大阪一一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価980円（本体951円 消費税28円 送料共）

FUJI SASH

網戸の常識を
変えました。
プリーツ網戸。



不要なときは、サッシ枠に収納できて、
使うときだけ引きだせる
折りたたみ式のプリーツ網戸。



●使いたいときだけ引きだして、快適換気を実現。開閉もスムーズです。

●窓の開け方に合わせて使用幅も調整可能。お好きな位置に止まります。

●軽く押すだけでプリーツネットがサッシ枠に収納。瞬時に網戸が消えます。

使うときだけ引き出し、不要なときはサッシ枠に収納できる、出し入れ自在の画期的な網戸の誕生です。虫の侵入を気にすることなく室内換気する網戸も、実際に必要な期間はわずか。シーズンオフにはジャマになったり、はずれたりと、何かとトラブルを生みがちでしたが、プリーツ網戸なら、こんな不満を一挙に解決します。使わない時はサッシ枠に収納できるので、網の汚れや破損も少なくなり、そのうえ、出し幅が自由自在。プリーツ網戸にはサッシに組み込まれた「一体型タイプ」と、いまお住まいの窓やドアにも後から取り付けられる「後付けタイプ」があります。“網戸のネットをたたんでしまう”という、不二サッシの思い切った発想がカタチになりました。

新発売　折りたたみ式収納網戸

プリーツ網戸

特許権意匠権申請構法

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

お問い合わせ先
大阪支店　〒541 大阪府大阪市中央区本町3-4-10(本町野村ビル)　☎06-262-2541

雑誌 03379-3